



Fukuoka REIT Corporation

福岡リート投資法人 第38期 決算説明資料 [8968] 銘柄コード 2023年3月1日~2023年8月31日

Fukuoka REIT Corporation

福岡リート投資法人 銘柄コード [8968] 第38期 決算説明資料 2023年3月1日～2023年8月31日



エグゼクティブサマリー	1	鑑定評価額	14
分配金の推移	2	サステナビリティ	15
外部成長戦略と新規取得物件	4	決算報告と業績予想	18
保有物件の運営状況	6	Appendix	22
財務体制	12		

※金額及び比率の端数処理…本資料では、特に記載のない限り単位未満の数値について、金額は切り捨て、比率は小数第2位を四捨五入により記載しています。
※坪の数値は、面積を坪に換算し、小数点以下を切り捨てた数値を記載しています。

本資料には、将来の業績、計画又は経営目標、戦略などが記述されている箇所があります。これらの将来に関する記述は、福岡リート投資法人及び株式会社福岡リアルティの現時点での判断に基づくものであるため、福岡リート投資法人の将来の業績は様々な要因により記述と異なる可能性があります。

したがって、福岡リート投資法人及び株式会社福岡リアルティは、本資料及び本資料に基づく説明をもって福岡リート投資法人の業績を保証するものではありません。

また、福岡リート投資法人及び株式会社福岡リアルティは、信頼できると考えられる情報に基づいて本資料を作成しておりますが、内容の正確性、妥当性又は完全性を保証するものではありません。

本資料の記載事項は、全て資料作成時のものであり、事前の連絡なしに変更する場合がありますので予めご了承ください。

本資料は、皆様に対する情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

投資に係る最終的決定は、投資価値の減少など投資リスクを十分ご認識、ご理解の上、投資家ご自身の判断と責任で行うようお願いいたします。

事前の承諾なしに、本資料に掲載されている内容の全部又は一部について、転載、使用、複製、配布、改変等を行うことを禁止します。

エグゼクティブサマリー

2023年8月期（第38期）分配金は予想比+153円。分配金3,753円は過去最高^(注1)

外部成長

■ 新規3物件を取得 ・博多FDビジネスセンターは想定を上回るリーシング進捗

物件名	熊本 イーストフロントビル		アクション 別府駅前プレミアム	博多 FDビジネスセンター
	取得日	第38期 2023年3月28日		2023年4月27日
取得価格	1,450百万円		1,525百万円	14,100百万円
NOI利回り ^(注2)	6.0%		3.5%	4.1%

(注2) 取得時における鑑定評価書のNOIを基に算出しています。

財務運営

有利子負債総額	コミットメントライン	固定比率	平均負債残存年数	LTV ^(注3)
86,450 百万円	13,000 百万円	92.8%	4.9年 J-REIT平均: 4.1年 ^(注4)	42.4% J-REIT平均: 44.7% ^(注4)

(注3) LTV=有利子負債総額÷総資産にて算出しています。

(注4) 各投資法人開示資料を基に、2023年8月時点における各投資法人の平均値を福岡リアルティにて算出しています。

(注1) 第2期の分配金は3,802円ですが、運用日数が296日の結果です。

内部成長

■ 商業施設 ・アクティブ商業全施設で昨年同期比売上増
・キャナルシティ博多は、リニューアルによるダウンタイムが発生したものの、想定を上回るインバウンド需要が回復

■ 施設毎の取り組み
・キャナルシティ博多: 売上昨年同期比+18.0%
・パークプレイス大分: 継続的なイベント実施により来場者数昨年同期比増
・木の葉モール橋本: 外出需要の復活により、サービス業態をはじめ売上増

■ オフィスビル・期末稼働率: 98.5%^(注5)

月額賃料増加額（賃料改定及びテナント入替時）

+1.3百万円

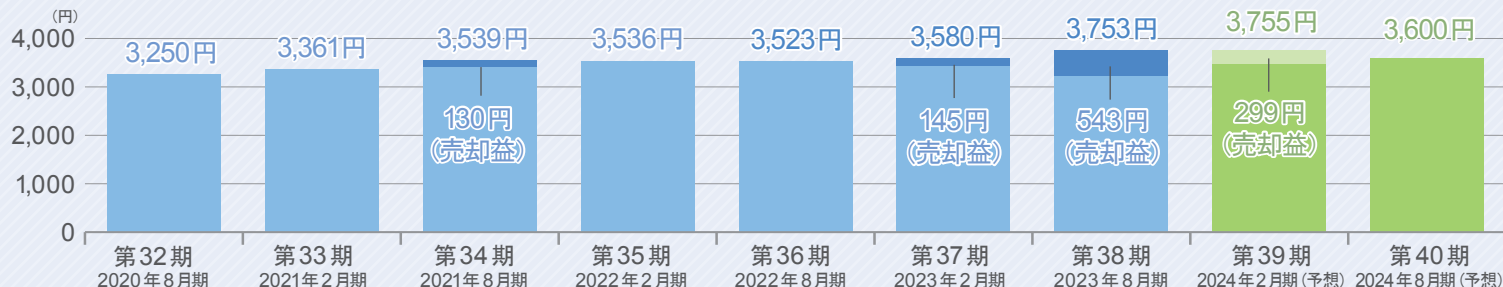
■ その他
・物流施設: 稼働率100%。鳥栖ロジスティクスセンターは賃料増額改定
・ホテル: 福岡ワシントンホテルは新型コロナウイルス感染症以前のADR水準まで回復。ティサージホテル那覇も引き続き歩合賃料発生

(注5) 大博通りビジネスセンターの住居部分を除いて算出しています。

サステナビリティ

■ 外部認証 GRESB「リアルエステイト評価: 4スター」「開示評価: Aレベル」
グリーンビル認証取得率80.3%(2023年9月1日現在)
■ 気候変動シナリオ分析に基づく財務的な影響の検証(定性分析・定量分析)

分配金の推移



【1口当たり分配金】

第38期実績 3,753円（予想比+153円）

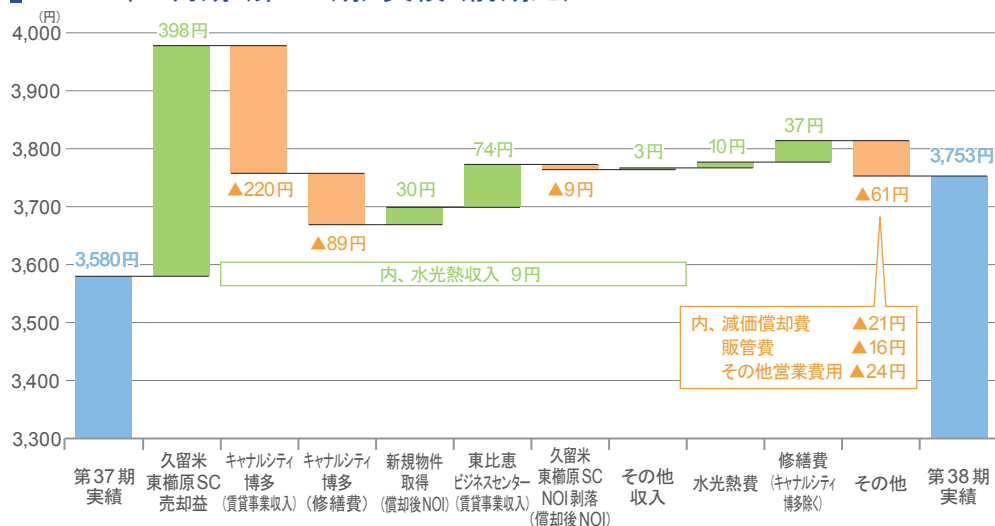
第39期予想 3,755円^(第37期決算時公表予想比+155円)

第40期予想 3,600円

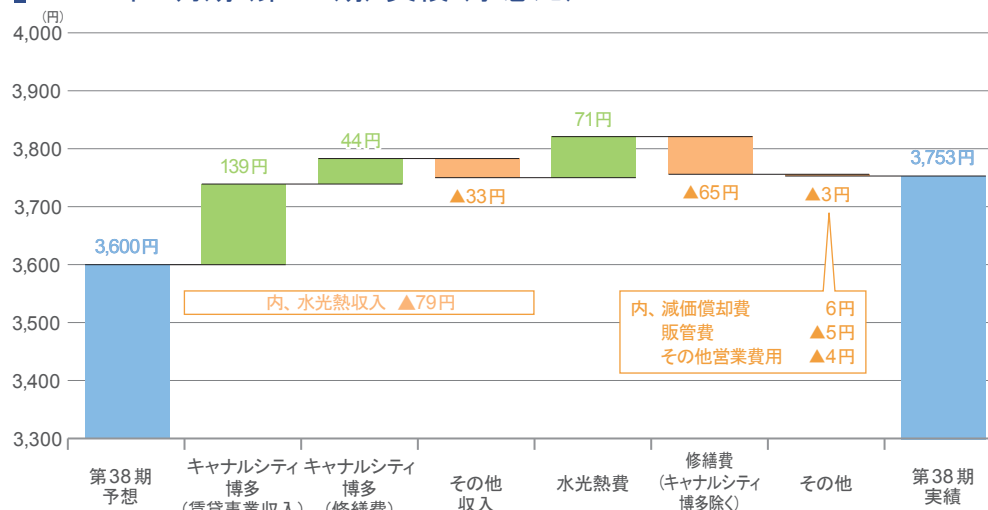
分配金の推移

第40期予想の3,600円は売却益剥落後の分配金水準の目標を前倒し達成

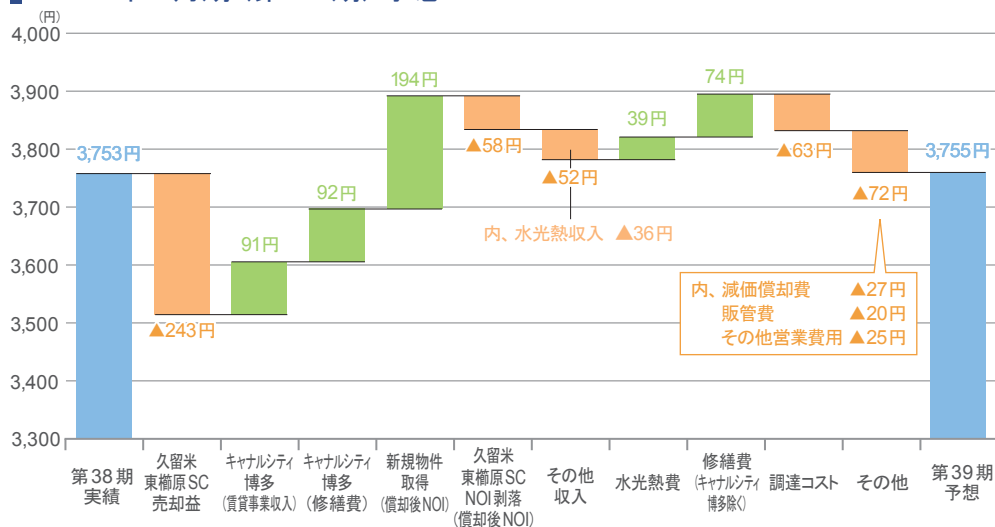
2023年8月期（第38期）実績（前期比）



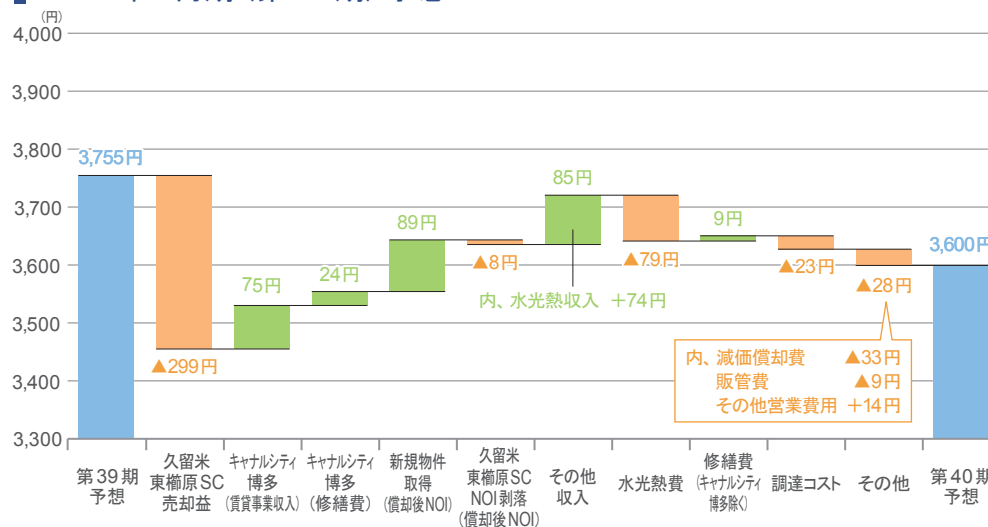
2023年8月期（第38期）実績（予想比）



2024年2月期（第39期）予想



2024年8月期（第40期）予想



外部成長の取り組み方針

総合型リートとしてポートフォリオによるリスク分散を図り、資産規模2,500億円を目指す（将来3,000億円）

■ スポンサーパイプライン

- 天神エリア及び博多エリアにおける再開発プロジェクトが複数進行
- 物流施設の開発プロジェクトが複数進行
- キャナルシティ博多イーストビル再開発を検討
- 福岡地所のセムポート出資割合は9.18%（2023年8月末現在）

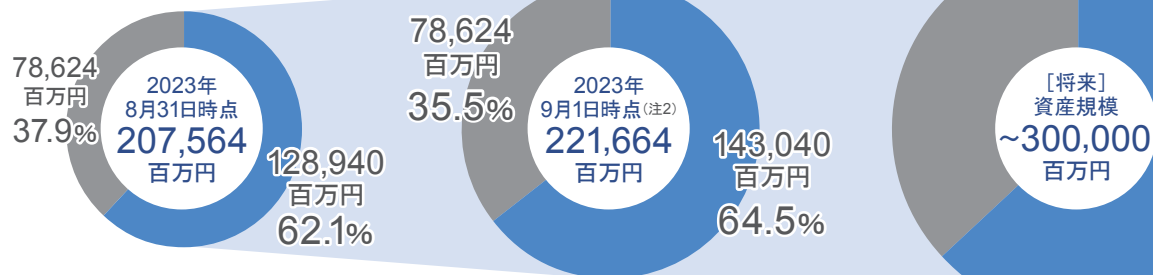
■ 地域密着型のソーシング戦略

- 福岡・九州地域の個別事情に精通した資産運用会社の情報力とノウハウを活かした外部からの取得
- 顧客のニーズを早期にキャッチアップすることで、多岐にわたるCRE戦略の提案（ex.リースバック、拠点集約、底地のみのおフバランス等）
- 地元経済界をリードする有力企業が資産運用会社のスポンサーとして情報連携等のバックアップ
- 取得後も地域に密着し、長期保有を前提とした物件運営

スポンサーから取得^(注1)

■ スポンサー ■ 外部

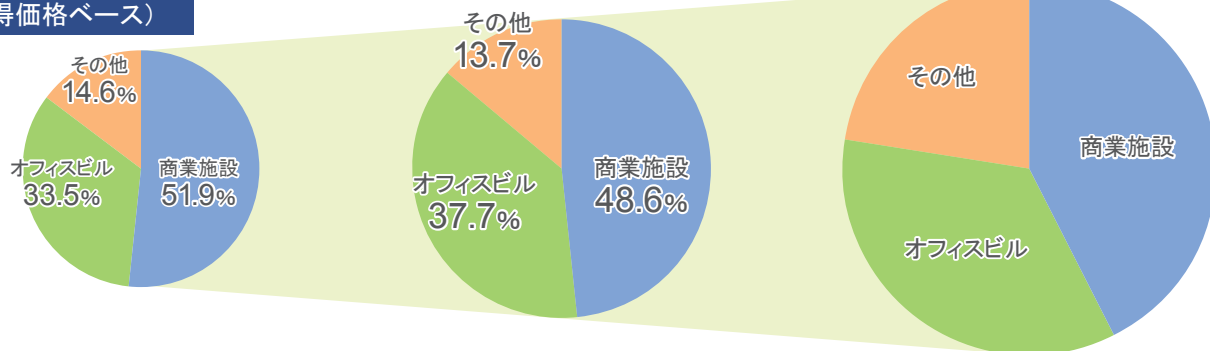
17/36物件



(注1)第10期(2009年8月期)に取得した東比恵ビジネスセンターについては、外部及びスポンサーの双方から取得しているため、その取得価格を均等割りの上、外部からの取得価格とスポンサーからの取得価格にそれぞれ加算しています。なお、物件数は1物件としてスポンサーからの取得件数に加算しています。
 (注2)2023年8月31日時点から博多FDビジネスセンターの取得価格を加えて算出しています。

【最適ポートフォリオを目指す】

投資タイプ (取得価格ベース)



■ 新規取得物件

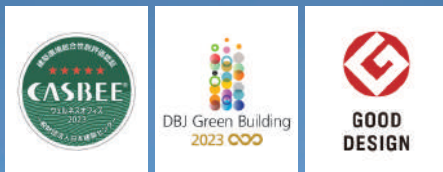
第38期		第39期	
熊本 イーストフロントビル	アクション 別府駅前プレミアム	博多 FDビジネスセンター	
取得日	2023年3月28日	2023年4月27日	2023年9月1日
取得価格	1,450百万円	1,525百万円	14,100百万円
取得先	外部	外部	スポンサー

博多FDビジネスセンターリーシング状況

国内外の大手優良企業の誘致に成功、想定より早いリーシング進捗

博多FDビジネスセンターの概要

物件名称	博多FDビジネスセンター
取得日	2023年9月1日
取得価格	14,100百万円
鑑定評価額	15,000百万円
所在地(地番)	福岡市博多区綱場町10番外13筆
面積(土地)	2,202.31㎡
建築時期	2023年2月
延床面積	20,603.46㎡(共有持分77%)
取得CAP	4.1%



※2023年2月27日付 CASBEEウェルネスオフィス評価認証取得(Sランク、福岡初)
 2023年9月1日付 DBJ Green Building 認証取得(3つ星)
 2023年10月5日付 グッドデザイン賞受賞

リーシング状況

◎稼働率86.5%(契約済+申込済)(注)

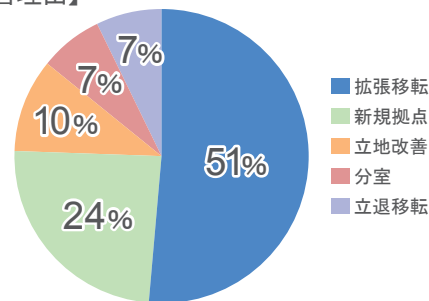
契約済 申込済 検討中

12F	金融機関(外資系)		
11F	金融機関(外資系)		
10F	金融機関(外資系)		
9F	コンサルティング業(外資系)		
8F	コンサルティング業(外資系)		
7F	IT業	空室	情報通信業(外資系)
6F	産業用システム事業	情報通信業	
5F	エネルギー事業	商社	製造業 保険業(外資系)
4F	事務機器・OA関連業		
3F	独立行政法人		
2F	エントランスホール	業務プロセスアウトソーシング事業	
1F			空室

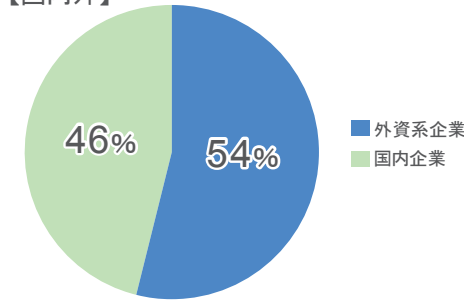
(注)リーシング状況は2023年9月30日時点の状況を記載しています。稼働率は2024年1月1日時点の想定を記載しています。2023年10月1日時点の稼働率は60.6%です。

契約済及び申込済テナント概要(面積ベース)

【入居理由】



【国内外】

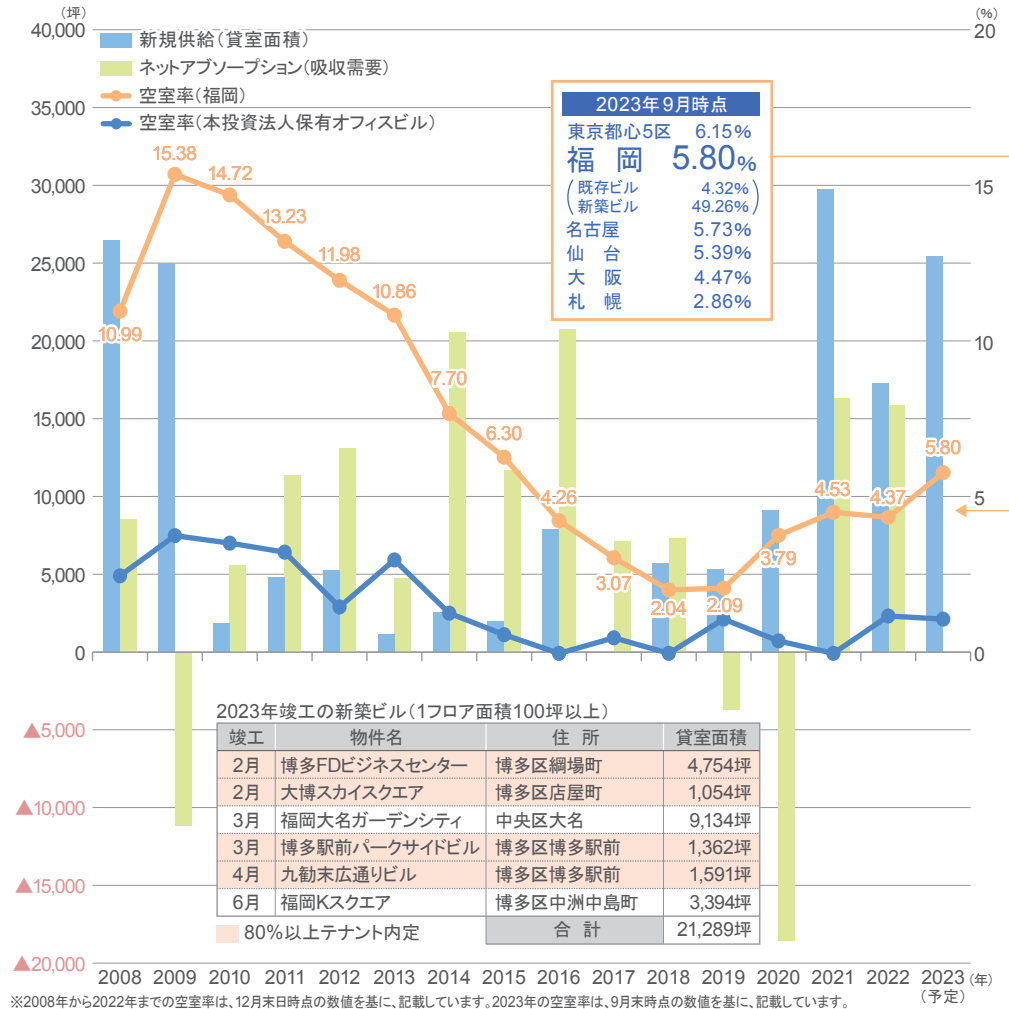


福岡のオフィスマーケット動向

テナント需要は底堅い。新築ビルのリーシング進捗には濃淡

福岡ビジネス地区／空室率とオフィスビルの需給動向

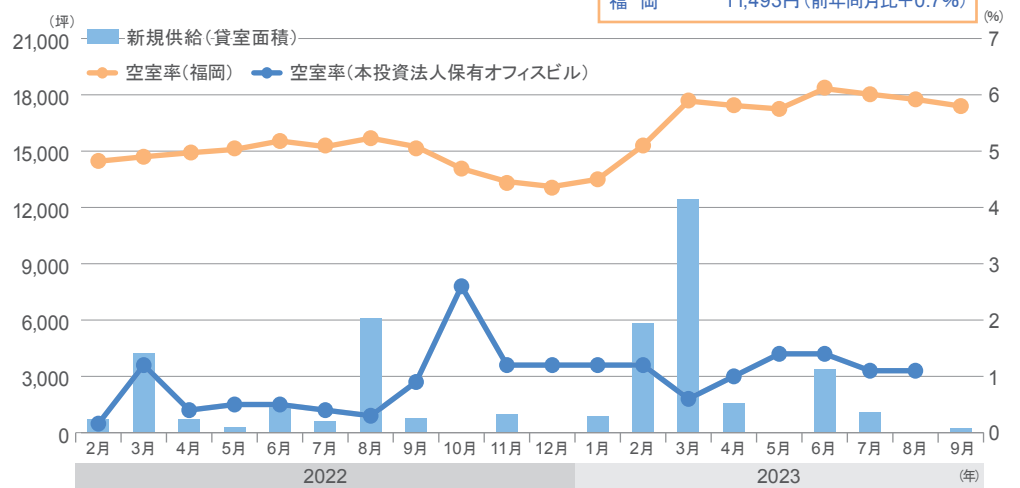
◎既存ビルは堅調、新築ビルの稼働は二極化



※2008年から2022年までの空室率は、12月末時点の数値を基に、記載しています。2023年の空室率は、9月末時点の数値を基に、記載しています。
 ※本投資法人保有オフィスビルの2023年の空室率は、8月末時点の数値を基に、記載しています。
 ※オフィスビルに関する各都市のデータについては、三鬼商事が都市毎に定めるビジネス地区及びビルを対象としています。
 ※ネットアブソープション(吸収需要)は、特定期間における稼働面積の増減を表しており、各年12月末時点の稼働面積から前年12月末時点の稼働面積を控除した数値を記載しています。2023年の新規供給(貸室面積)は未確定値であり、面積、竣工時期は変更となる可能性があります。
 出典:三鬼商事の「オフィスマーケットデータ」のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

福岡ビジネス地区／平均空室率の推移

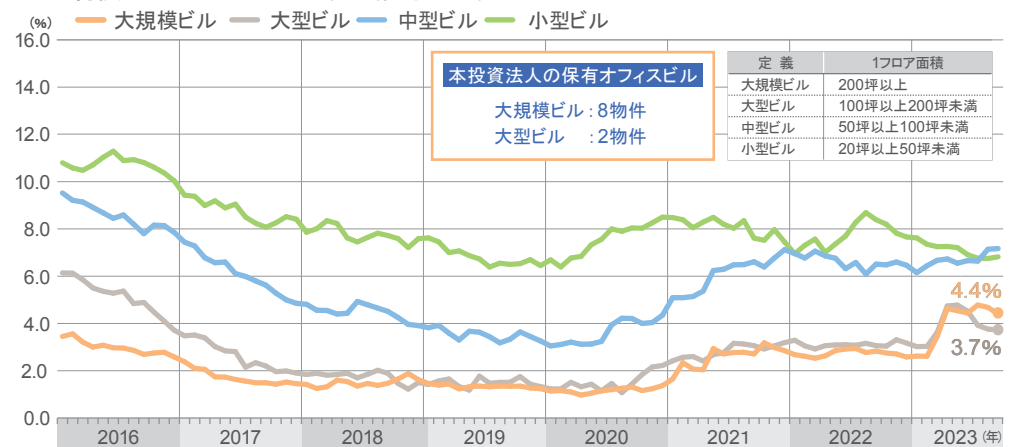
◎保有オフィスビルの空室率は低水準を維持



出典:三鬼商事の「オフィスマーケットデータ」のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

福岡市規模別オフィス空室率の推移

◎大規模・大型ビルの空室率は相対的に低い



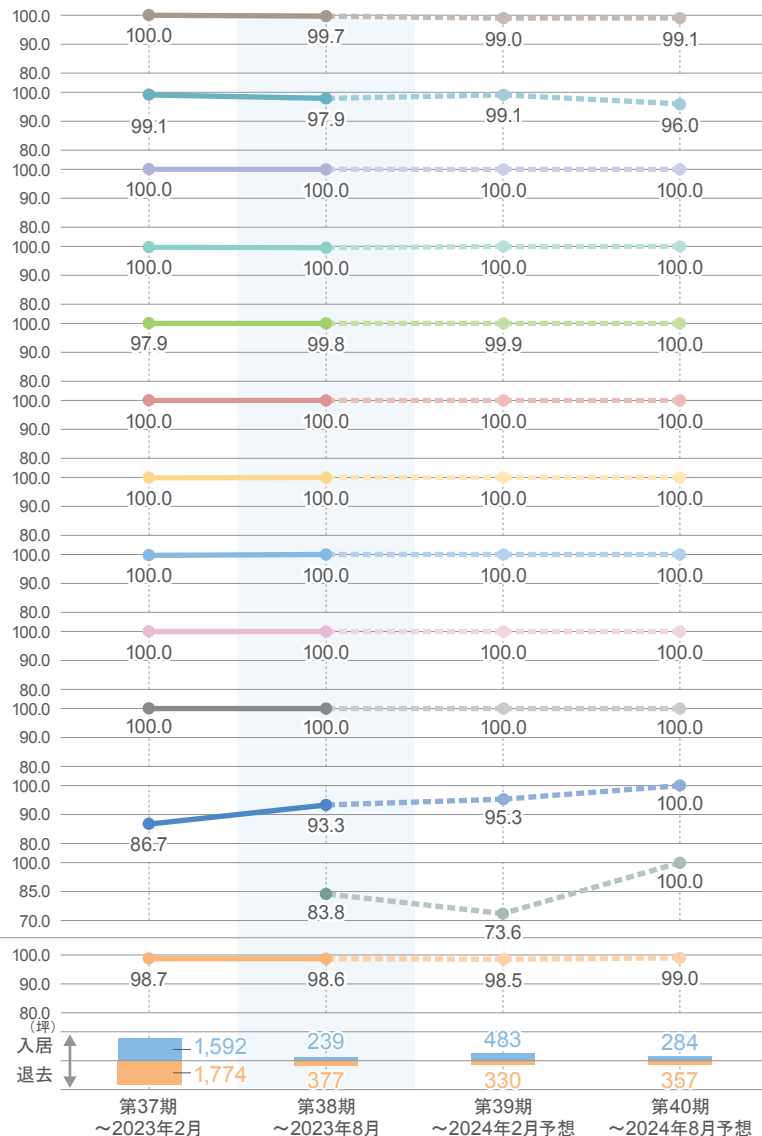
出典:三幸エステートの「オフィスマーケット調査月報(時系列データ)」のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

オフィスビル稼働率実績・予想

高稼働を維持しつつ、賃料単価は上昇

1	キャナルシティビジネスセンタービル 総賃貸可能面積:23,031.14㎡(6,966坪)
2	呉服町ビジネスセンター 総賃貸可能面積:19,905.34㎡(6,021坪)
3	サニックス博多ビル 総賃貸可能面積:6,293.75㎡(1,903坪)
4	大博通りビジネスセンター(注1) 総賃貸可能面積:11,249.97㎡(3,403坪)
5	東比恵ビジネスセンター 総賃貸可能面積:13,482.02㎡(4,078坪)
6	天神西通りセンタービル 総賃貸可能面積:3,339.32㎡(1,010坪)
7	天神ノースフロントビル 総賃貸可能面積:5,261.64㎡(1,591坪)
8	東比恵ビジネスセンターⅡ 総賃貸可能面積:6,214.77㎡(1,879坪)
9	東比恵ビジネスセンターⅢ 総賃貸可能面積:2,981.14㎡(901坪)
10	天神西通りビジネスセンター(底地) 賃貸借面積(土地):1,343.51㎡(406坪)
11	博多筑紫通りセンタービル 総賃貸可能面積:5,994.41㎡(1,813坪)
12	熊本イーストフロントビル 総賃貸可能面積:3,139.20㎡(949坪)

加重平均稼働率実績・予想(注2) 総賃貸可能面積:100,892.70㎡(30,520坪)
入退去面積



※稼働率は、期中の加重平均で算出しています。
 ※総賃貸可能面積は、期末時点における数値を記載しています。
 (注1)大博通りビジネスセンターについては住居部分を除いて記載しています。
 (注2)加重平均稼働率実績・予想は、天神西通りビジネスセンター(底地)を除いて算出しています。

オフィスビルの概況

〈加重平均稼働率(実績): 第38期:98.6%〉

◎前期に引き続き高稼働を維持

〈加重平均稼働率(予想): 第39期:98.5% 第40期:99.0%〉

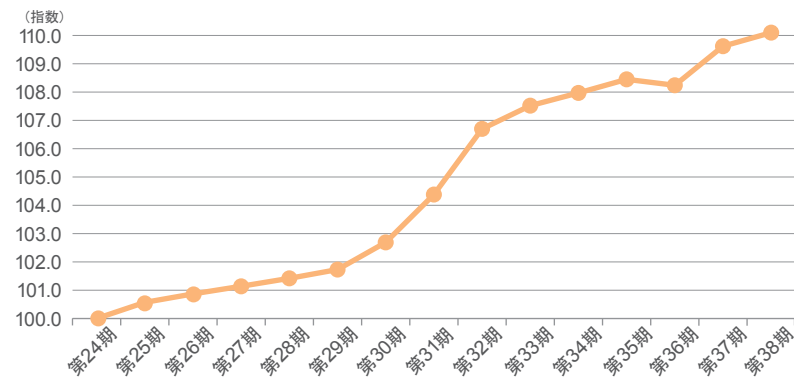
◎契約更新時の賃料改定とテナント入替による賃料増額を継続

保有物件の主要指標(注3)

取得価格合計	69,490百万円
投資比率	33.5%
平均築年数(注4)	20年10ヶ月
テナント数(注5)	192
第38期営業収益合計	3,014百万円
賃料ポジティブギャップ(注6)	12.5%(注6)

(注3)期末時点における数値を記載しています。
 (注4)平均築年数及び賃料ポジティブギャップは、天神西通りビジネスセンター(底地)を除いて算出しています。
 (注5)大博通りビジネスセンターの住居部分を除いたテナント数を記載しています。
 (注6)賃料ポジティブギャップは、市場賃料に対する現行賃料(共益費込契約賃料)のギャップを表し、「(市場賃料-現行賃料)÷現行賃料」として算出しています。なお、市場賃料はシービーアールイーが2023年8月現在で査定したレンジで示される 想定新規契約賃料(共益費込)の中央値を採用しています。

保有物件(福岡市内)における賃料単価指数の推移(注7)

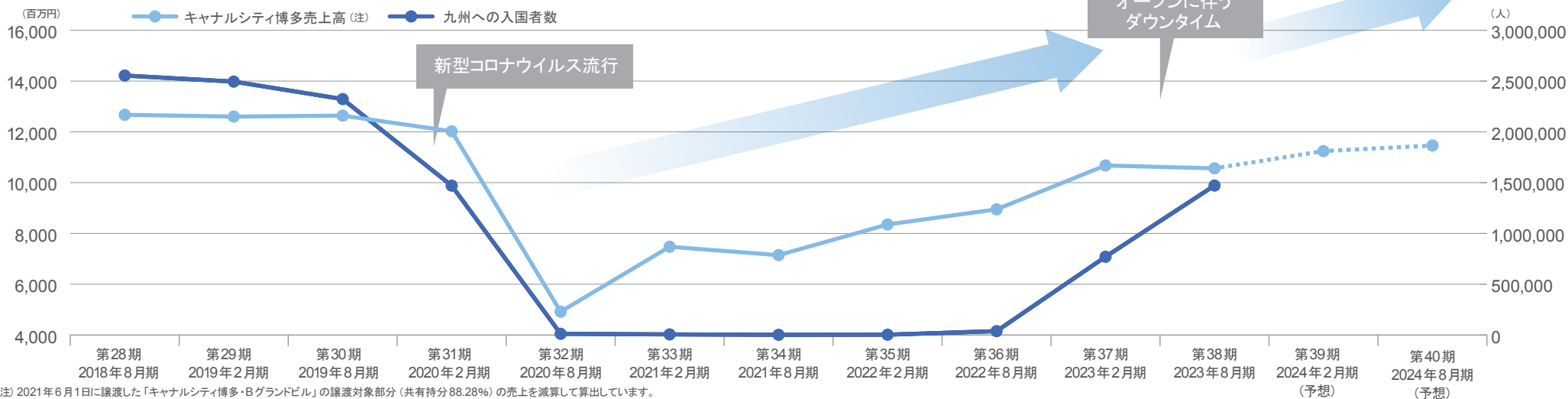


(注7)賃料単価指数は、第24期(2016年8月期)末時点の平均賃料単価を100として各期末の平均賃料単価を指数化しています。また、天神西通りビジネスセンター(底地)を除いて算出しています。

キャナルシティ博多の取り組み①

新型コロナウイルス流行前の水準へ回復基調、将来の売上増加に期待

キャナルシティ博多の売上推移と九州への入国者数推移



インバウンドの状況

◎九州への外国人入国者数

国・地域	2018年	2023年					
	月平均	3月	4月	5月	6月	7月	8月
入国者合計	426,357	223,239	234,552	224,506	251,307	266,019	272,036
韓国	200,805	139,161	131,961	135,682	148,940	-	-
中国	142,328	2,062	3,025	3,017	9,006	-	-
台湾	34,460	23,539	24,303	25,997	36,014	-	-
香港	23,792	13,780	20,121	21,528	27,374	-	-
その他	24,971	44,697	55,142	38,282	29,973	-	-

※船舶観光上陸を含む外国人入国者数。2023年7月及び8月は速報値。
出典：国土交通省九州運輸局のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

◎クルーズ船博多港寄港実績推移

年	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023(予定)
寄港回数	328	326	279	229	14	0	2	84

※2023年1月から9月までの寄港回数実績は49回。
出典：福岡市港湾航空局の2023年10月12日時点のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

新型コロナウイルス収束後の売上回復基調の要因



将来の売上増加の期待



キャナルシティ博多の取り組み②

フューチャービジョンに沿った段階的なリニューアル

集客施策

<p>フリマニアックス「SAKE」</p> 	<p>キャナルスプラッシュ</p> 	<p>カブクワすごいぞ!!展</p> 
--	---	--

SPORTS & HEALTHCARE

**Alpen FUKUOKA
グランドオープン
2023年9月15日**

店舗名	Alpen FUKUOKA SPORTS DEPO FLAGSHIP STORE AlpenOutdoors FLAGSHIP STORE GOLFS FLAGSHIP STORE
場所	サウスビル1F（一部）～3F
オープン日	2023年9月15日



CREATIVE | **OPQ** キャナルシティオーパ
CANALCITY OPA
リニューアル実施

©2023年4月15日
THE NORTH FACE+ 増床完了

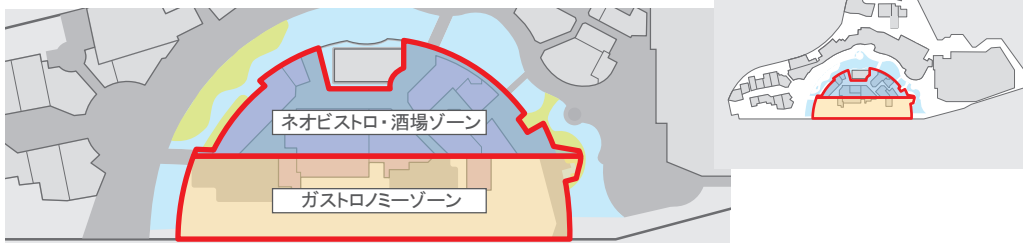


©2023年秋・冬～
La Festa リニューアル



FOOD | **グランドビルB1F 飲食ゾーン リニューアル計画**

◎厳選された飲食店を積極的に誘致し、福岡とアジア各国の食が融合した新しい食文化の発信地に



清流公園リニューアル予定
2025年春～



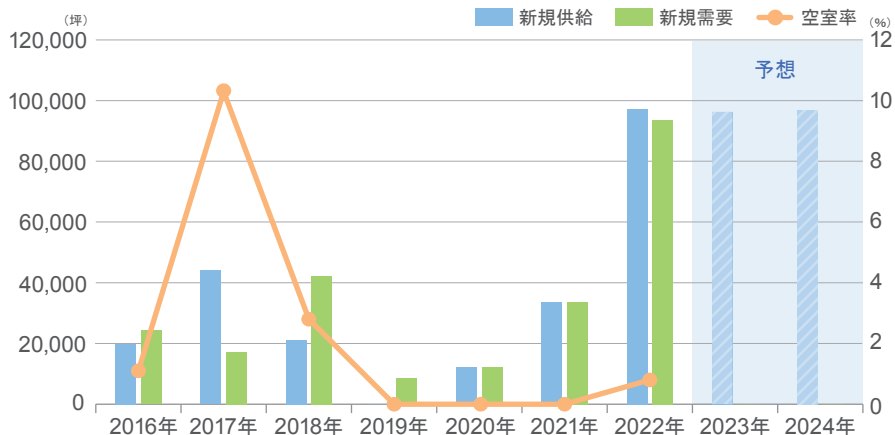
◎スポンサーの福岡地所株式会社を代表とするグループが「清流公園整備・管理運営事業」の優先交渉権者に

その他アセットの状況（物流施設）

賃料単価の上昇継続

物流施設の需給バランスと空室率

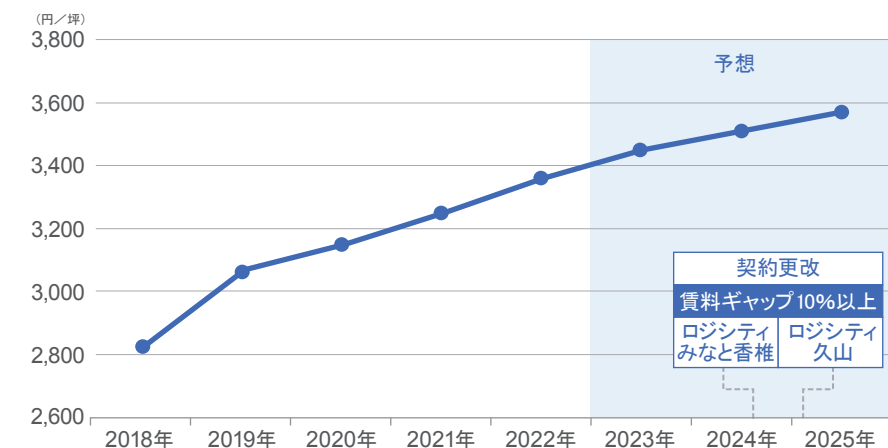
◎2023年、2024年は大型供給があるものの需要は堅調



※福岡圏における延床面積5,000㎡以上の中大型物流施設が対象となります。
出典:シービーアールイーのデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

賃料単価推移

◎福岡市周辺はニーズが高く、賃料は全体として上昇傾向

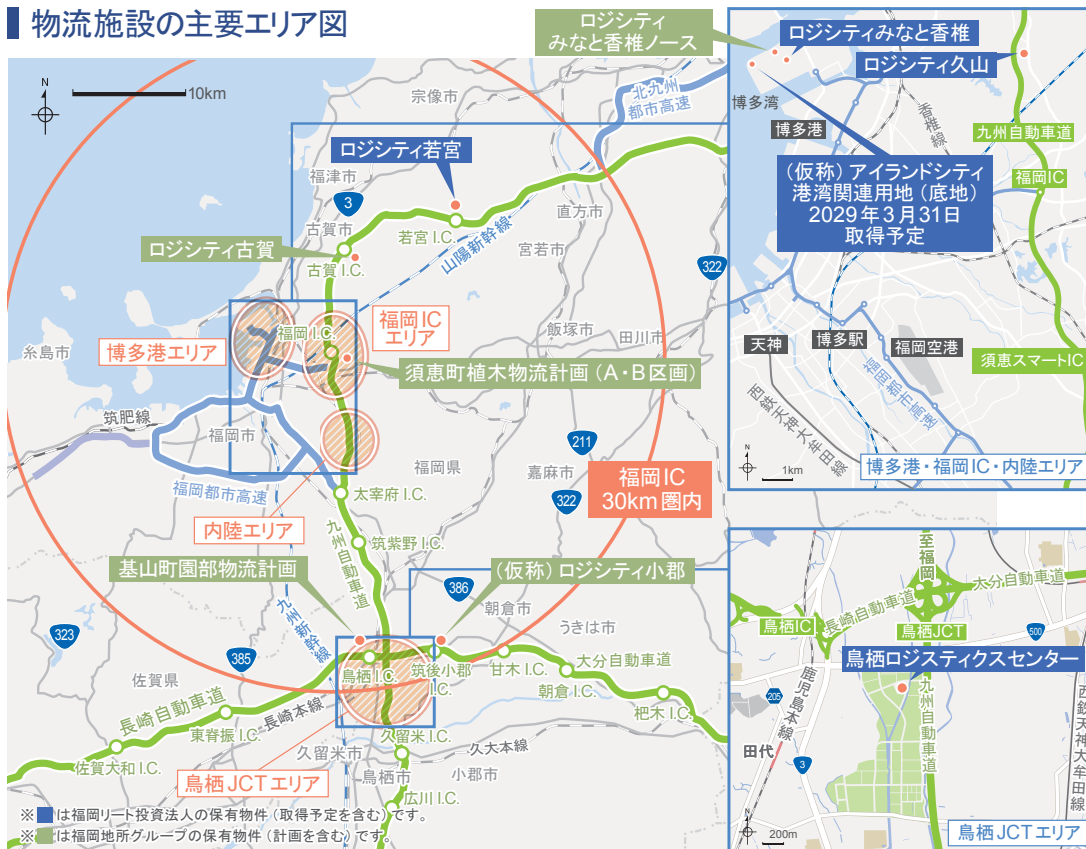


※福岡圏における延床面積5,000坪以上の大型マルチテナント型物流施設が対象となります。
出典:シービーアールイーのデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

物流施設の概要

物件	鳥栖ロジスティクスセンター	ロジシティみなと香椎	ロジシティ久山	ロジシティ若宮
取得価格	1,250百万円	8,150百万円	5,050百万円	1,700百万円
総賃貸可能面積	4,173.29㎡	43,233.72㎡	24,505.65㎡	17,556.32㎡
稼働率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

物流施設の主要エリア図



※ 赤枠は福岡リート投資法人の保有物件(取得予定を含む)です。
※ 緑枠は福岡地所グループの保有物件(計画を含む)です。

その他アセットの状況（住居・ホテル）

住居アセットは堅調、ホテルアセットは回復基調

住居の概況

◎高い稼働率を継続

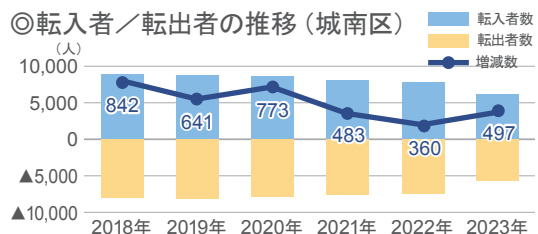
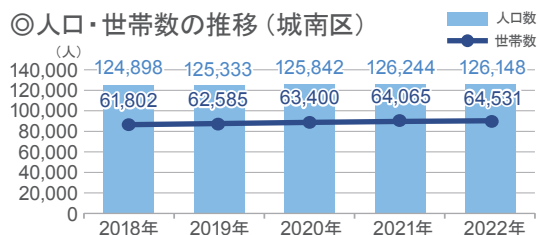
稼働率	第34期 (2021年8月期)	第35期 (2022年2月期)	第36期 (2022年8月期)	第37期 (2023年2月期)	第38期 (2023年8月期)
アメックス赤坂門タワー	96.7%	96.9%	96.3%	94.2%	98.6%
シティハウスけやき通り	94.5%	98.6%	97.2%	98.8%	97.0%
Aqualia 千早	98.0%	99.3%	98.3%	98.9%	97.8%
ディー・ウイングタワー (注1)	94.3%	93.4%	95.7%	97.3%	97.6%
グランフォーレ薬院南	97.7%	98.0%	97.2%	98.0%	95.3%
5物件平均	96.1%	96.7%	96.8%	97.3%	97.5%
			アクション別府駅前プレミアム (注2)		50.7%
6物件平均					94.5%

※稼働率は、期間中の加重平均で算出しています。

(注1) 商業部分を含んで記載しています。

(注2) アクション別府駅前プレミアムを2023年4月27日付で取得したため、稼働率は2023年4月～8月の数値を記載しています。

福岡市城南区の住居マーケット



ホテルの概要

◎福岡ワシントンホテルは新型コロナウイルス感染症以前のADR水準まで回復

	福岡ワシントンホテル (キャナルシティ博多)	ホテルフォルツァ大分	ティサージホテル那覇
ホテル (宿泊特化型)			
客室数	423	205	132
賃貸形態	固定+変動賃料	固定賃料	固定+変動賃料
エリア	福岡市	大分市	那覇市
オペレーター	WHG西日本(藤田観光グループ)	エフ・ジェイホテルズ(福岡地所グループ)	ネストホテルジャパン

◎ティサージホテル那覇

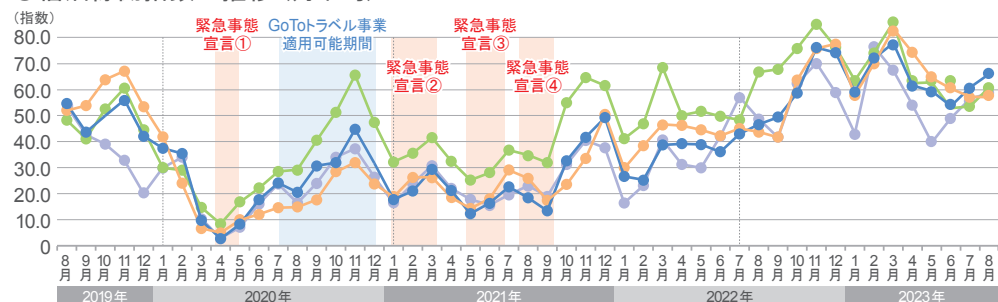
	第37期 (2023年2月期)	第38期 (2023年8月期)
客室稼働率	80.6%	71.0%
ADR (注3)	6,257円	7,369円
RevPAR (注4)	5,045円	5,231円

※福岡ワシントンホテルについてはオペレーターより開示することの了承が得られていないため、非公開としています。

(注3)「ADR」とは、平均客室販売単価(Average Daily Rate)をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。

(注4)「RevPAR」とは、販売可能客室数当たりの宿泊部門売上であり、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除した値をいいます。

◎宿泊稼働指数の推移（月平均）



※緊急事態宣言の期間は東京都に発出された期間を表示しています。

出典：公益財団法人九州経済調査協会「DATA SALAD」のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

財務状況①

安定的な財務基盤の確保

財務方針（基本方針）

安定した資金調達を実現するため金融機関との良好な関係を構築し、将来の金融環境変化による影響を軽減しつつ、低廉な資金調達コストを実現することで、財務体質の健全性を高める

◎足許の調達方針

返済期限の分散を維持しつつ

☑ 調達期間の調整（従来は7～10年）

☑ 固定／変動比率の調整

☑ スプレッドの低廉

等により資金調達コストコントロールを図る

◎第38期（2023年8月期）の借入（長期）実績

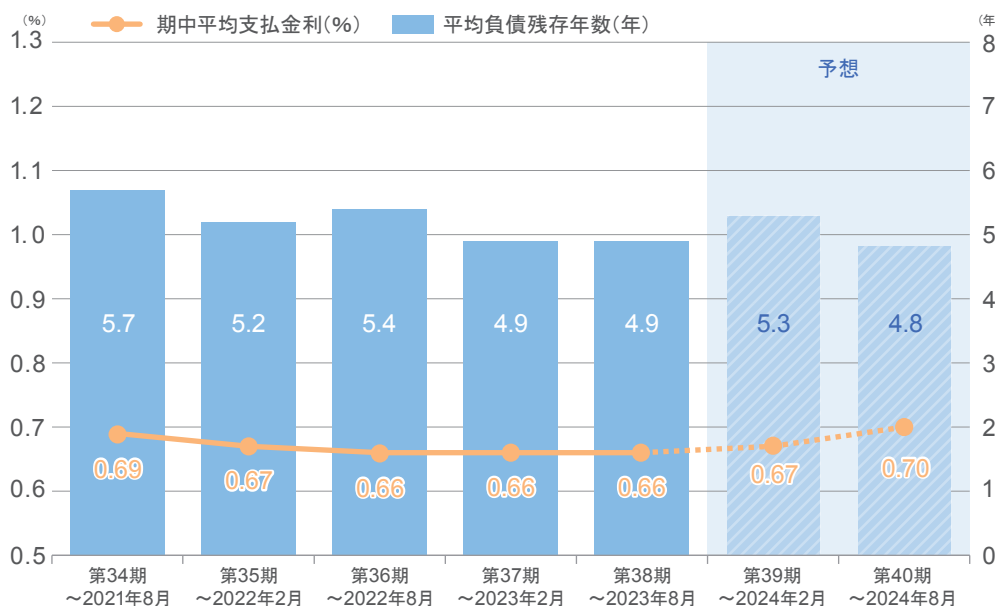
●新規調達

調達日	借入先	金額 (百万円)	期間	金利
2023年3月31日	肥後銀行	700	5.0年	0.61500%
		750	10.0年	3ヶ月TIBOR +0.30%
2023年6月30日	広島銀行	500	6.0年	0.54125%
		1,000	7.0年	0.63500%

●リファイナンス

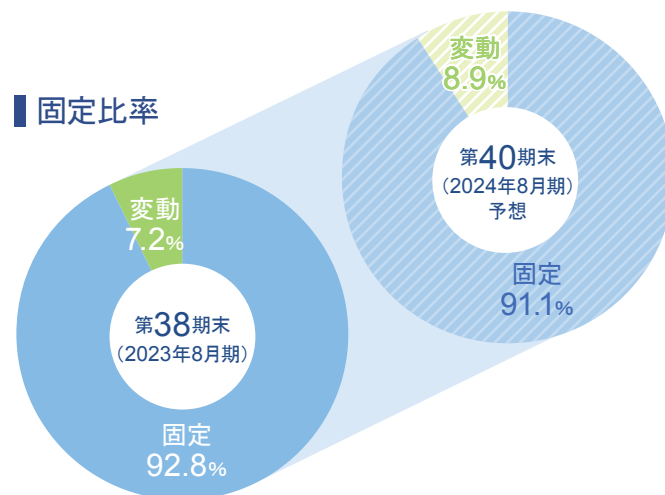
調達日	借入先	金額 (百万円)	期間	金利
2023年7月31日	三井住友 信託銀行	900	5.0年	0.50100%
		600	8.0年	0.82900%
2023年8月31日	日本政策 投資銀行	2,000	6.0年	0.83750%
		2,000	6.5年	0.90689%

期中平均支払金利^(注1) 及び平均負債残存年数の推移

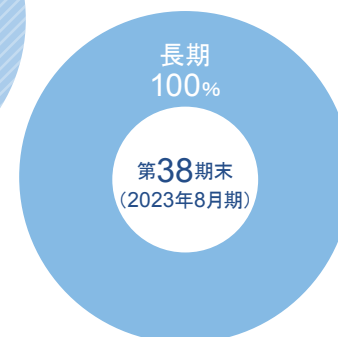


(注1)金利は小数第3位を四捨五入により記載しています。

固定比率



長期比率



格付^(注2)

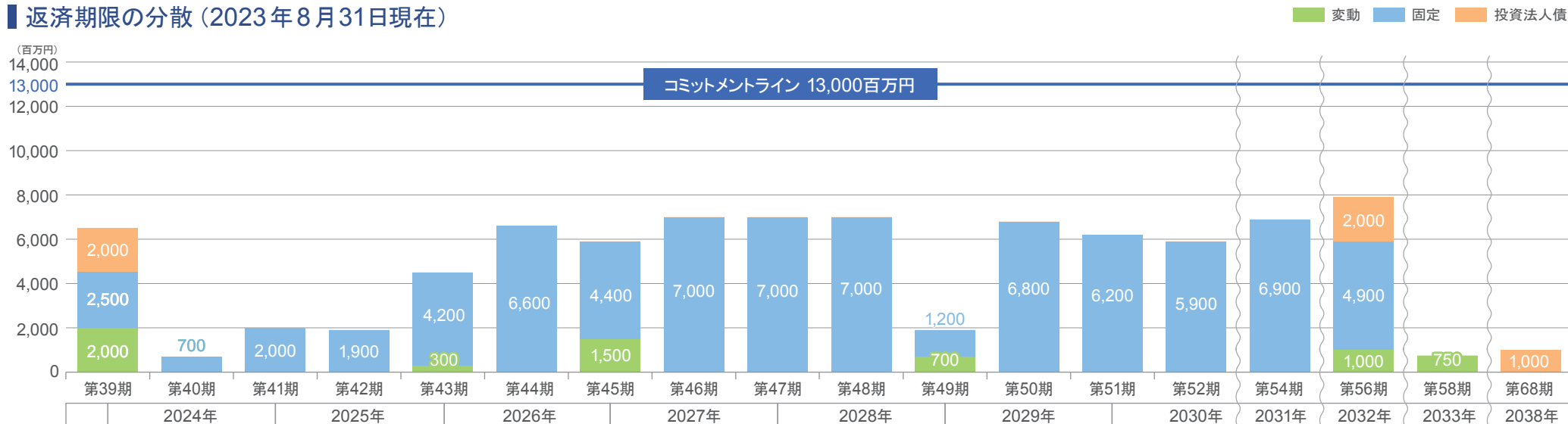


(注2)JCR:日本格付研究所より長期発行体格付を取得しています。R&I:格付投資情報センターより発行体格付を取得しています。

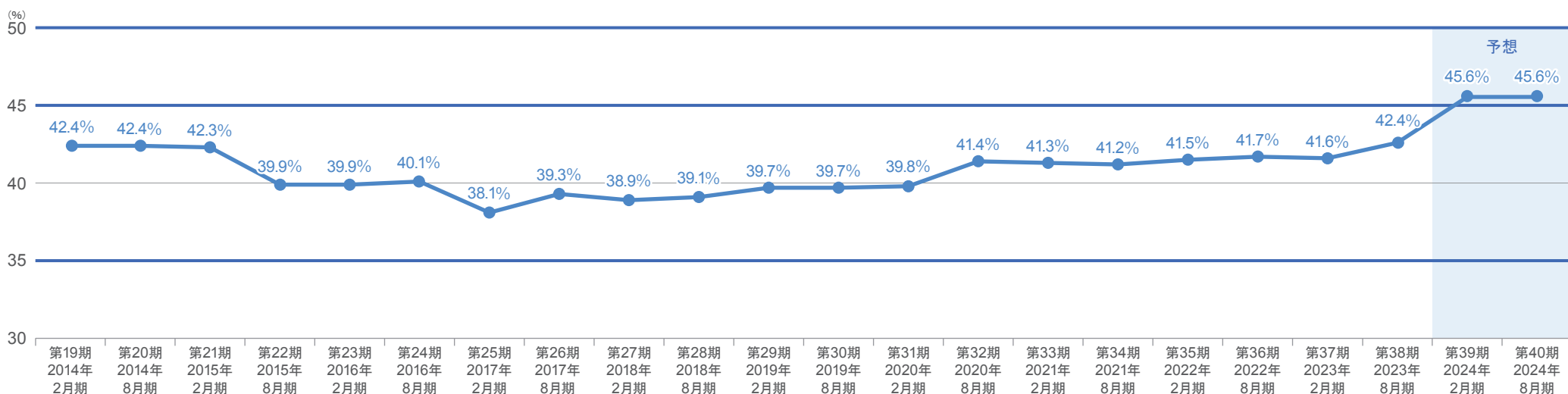
財務状況②

LTVは上昇するも、上限50%の範囲内にてコントロール

返済期限の分散 (2023年8月31日現在)



LTVの推移



鑑定評価額

第38期末の含み益^(注1)は48,478百万円(前期比+1,947百万円)

(単位:百万円)

	物件名称	取得価格 (注2)	取得 Cap Rate	第38期末				第37期末				鑑定評価書 作成会社
				鑑定評価額 ①	帳簿価額 ②	帳簿価額との 差異 ①-②	直接還元法 Cap Rate ③	鑑定評価額 ④	第38期末の 鑑定評価額との 差異 ①-④	直接還元法 Cap Rate ⑤	第38期末の 直接還元法 Cap Rateとの差異 ③-⑤	
商業施設	キャナルシティ博多	32,000	6.0%	29,300	29,899	▲599	4.2%	29,500	▲200	4.2%	0.0%	谷澤総合鑑定所
	キャナルシティ博多・B	21,060	5.4%	21,700	20,506	1,193	4.3%	21,800	▲100	4.3%	0.0%	谷澤総合鑑定所
	パークプレイス大分	19,610	6.0%	20,200	20,374	▲174	5.4%	20,500	▲300	5.4%	0.0%	日本不動産研究所
	サンリブシティ小倉	6,633	6.6%	8,540	5,449	3,090	5.6%	8,530	10	5.8%	▲0.2%	日本不動産研究所
	木の葉モール橋本	10,000	5.3%	10,100	9,893	206	5.1%	10,100	0	5.1%	0.0%	谷澤総合鑑定所
	スクエアモール鹿児島宇宿	5,300	6.3%	4,700	4,187	512	5.5%	4,710	▲10	5.5%	0.0%	日本不動産研究所
	熊本インターコミュニティSC	2,400	6.5%	2,840	1,900	939	5.4%	2,790	50	5.5%	▲0.1%	日本不動産研究所
	花畑SC	1,130	6.4%	1,200	941	258	5.4%	1,200	0	5.4%	0.0%	谷澤総合鑑定所
	久留米東櫛原SC ^(注3)	750	6.1%	822	580	241	5.5%	825	▲3	5.5%	0.0%	谷澤総合鑑定所
	ケーズデンキ鹿児島本店	3,550	5.7%	3,490	2,819	670	5.4%	3,490	0	5.4%	0.0%	谷澤総合鑑定所
マリノアシティ福岡(マリナサイド棟)	5,250	5.5%	5,860	5,311	548	4.8%	5,860	0	4.8%	0.0%	谷澤総合鑑定所	
	商業施設 合計	107,683	-	108,752	101,865	6,886	-	109,305	▲553	-	-	
オフィスビル	キャナルシティ・ビジネスセンタービル	14,600	6.3%	19,300	12,646	6,653	3.8%	18,800	500	3.9%	▲0.1%	谷澤総合鑑定所
	呉服町ビジネスセンター	11,200	6.3%	16,000	8,634	7,365	4.0%	15,600	400	4.1%	▲0.1%	谷澤総合鑑定所
	サンニクス博多ビル	4,400	5.9%	7,010	3,696	3,313	3.7%	6,850	160	3.8%	▲0.1%	日本不動産研究所
	大博通りビジネスセンター	7,000	6.0%	10,100	5,507	4,592	4.1%	9,830	270	4.2%	▲0.1%	日本不動産研究所
	東比恵ビジネスセンター	5,900	6.0%	9,240	4,320	4,919	4.2%	8,990	250	4.3%	▲0.1%	谷澤総合鑑定所
	天神西通りセンタービル	2,600	5.4%	3,400	2,630	769	3.5%	3,310	90	3.6%	▲0.1%	日本不動産研究所
	天神ノースフロントビル	2,800	6.1%	5,050	2,297	2,752	3.6%	4,930	120	3.7%	▲0.1%	日本不動産研究所
	東比恵ビジネスセンターII	4,230	4.9%	4,900	3,821	1,078	4.2%	4,790	110	4.3%	▲0.1%	谷澤総合鑑定所
	東比恵ビジネスセンターIII	3,290	4.4%	3,530	3,179	350	4.0%	3,450	80	4.1%	▲0.1%	谷澤総合鑑定所
	天神西通りビジネスセンター(底地)	7,700	3.5%	8,770	7,754	1,015	3.0%	8,500	270	3.1%	▲0.1%	日本不動産研究所
博多筑紫通りセンタービル	4,320	4.7%	4,580	4,477	102	4.1%	4,550	30	4.2%	▲0.1%	谷澤総合鑑定所	
熊本イーストフロントビル ^(注4)	1,450	5.0%	1,510	1,518	▲8	4.6%	1,460	50	4.7%	▲0.1%	谷澤総合鑑定所	
	オフィスビル 合計	69,490	-	93,390	60,484	32,905	-	91,060	2,330	-	-	
その他	鳥栖ロジスティクスセンター	1,250	5.9%	1,640	1,117	522	4.5%	1,440	200	4.7%	▲0.2%	日本不動産研究所
	ロジシティみなと香椎	8,150	5.2%	10,000	7,607	2,392	3.8%	9,760	240	3.9%	▲0.1%	谷澤総合鑑定所
	ロジシティ久山	5,050	5.1%	5,950	4,613	1,336	4.0%	5,790	160	4.1%	▲0.1%	谷澤総合鑑定所
	ロジシティ若宮	1,700	6.4%	2,590	2,108	481	5.1%	2,550	40	5.2%	▲0.1%	谷澤総合鑑定所
	アメックス赤坂門タワー	2,060	5.4%	2,050	1,597	452	4.0%	2,000	50	4.1%	▲0.1%	大和不動産鑑定
	シティハウスけやき通り	1,111	5.5%	1,150	850	299	4.0%	1,120	30	4.1%	▲0.1%	大和不動産鑑定
	Aqualia 千早	1,280	6.8%	2,060	1,136	923	4.2%	2,060	0	4.2%	0.0%	日本不動産研究所
	ディー・ウイングタワー	2,800	5.9%	4,020	2,575	1,444	4.0%	3,940	80	4.1%	▲0.1%	谷澤総合鑑定所
	グランフォーレ薬院南	1,100	5.6%	1,430	1,125	304	3.9%	1,390	40	4.0%	▲0.1%	谷澤総合鑑定所
	アクション別府駅前プレミアム ^(注4)	1,525	3.4%	1,560	1,651	▲91	3.5%	1,530	30	3.6%	▲0.1%	大和不動産鑑定
	ホテルフォルツァ大分	1,530	6.6%	1,860	1,463	396	5.2%	1,900	▲40	5.1%	0.1%	日本不動産研究所
	ティサージホテル那覇	2,835	5.3%	2,940	2,715	224	4.9%	2,910	30	4.9%	0.0%	谷澤総合鑑定所
		その他 合計	30,391	-	37,250	28,563	8,686	-	36,390	860	-	-
	全物件 合計	207,564	-	239,392	190,913	48,478	-	236,755	2,637	-	-	

(注1) 含み益は直近鑑定評価額から期末帳簿価額(信託建設仮勘定は含みません)を差し引いて算出しています。(注2)「取得価格」はいずれも諸経費(手数料、公租公課等)を含まない金額で記載しています。

(注3) 久留米東櫛原SCは2023年8月31日に信託受益権の準共有持分70%譲渡を完了しており、取得価格及び鑑定評価額からその70%を差し引いた数値を記載しています。(注4) 第37期末の鑑定評価額及び直近のCap Rateは、物件取得時の鑑定評価に基づく数値を記載しています。

サステナビリティへの取り組み

サステナビリティ推進室の組織強化（+2名拡充、専任者1名）（2023年6月～）

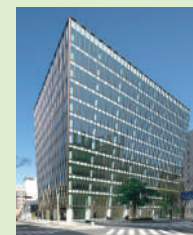
重要課題（マテリアリティ）

重要課題（マテリアリティ）	方針・目標	KPI・目標	
環境	環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> プロパティマネジメント会社、ビルメンテナンス会社と協働してエネルギー消費量・温室効果ガス排出量・水消費量・廃棄物排出量の管理と削減を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> （2030年までに）CO2排出量 35%削減（2019年比、原単位） ゴミリサイクル率 75%
	建築性能・環境性能の維持向上	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な不動産の性能評価及び機能評価を実施し、陳腐化した性能等の更新を行う グリーンビル認証等を取得し、建物性能を可視化することで競争力の維持向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> （2030年までに）グリーンビル認証取得率 85%以上
社会	魅力ある職場の実現（資産運用会社）	<ul style="list-style-type: none"> 従業員に対する教育制度の拡充と資格取得の推奨により業務の質の向上を図る オフィス環境改善を継続し、快適な労働環境の提供を推進する ワークライフバランスに配慮し、従業員の満足度向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員1人あたり研修（回数） オフィス環境の改善（件数）
	魅力ある職場の実現（テナント）	<ul style="list-style-type: none"> ES（従業員満足度）改善を推進し、テナント従業員の就業満足度の向上に努める 	<ul style="list-style-type: none"> テナント満足度調査定期実施（全物件）
	福岡・九州の魅力向上や活性化に貢献	<ul style="list-style-type: none"> 福岡・九州の強み・魅力の情報発信強化を図る 地域経済・産業に関する調査研究の支援や魅力ある街づくりの推進を地元経済界と連携して行う 	<ul style="list-style-type: none"> 地域経済団体等への加入・活動参加 地域交流イベントの主催（回数）
	地域社会との共創	<ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティ活動への参加や運用不動産での各種取り組みを通じて、地域社会との対話、連携を深め地域社会とともに発展する 	<ul style="list-style-type: none"> エリアマネジメント組織への加入・活動参加 地域貢献活動への継続参加（回数）
ガバナンス	ステークホルダーに対する情報開示と対話	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーに対して財務情報 / 非財務情報の適時・適切な情報開示を行う 積極的なステークホルダーとの対話を通じた信頼関係の構築を図るとともに、聴取した意見を経営戦略へ反映させる 	<ul style="list-style-type: none"> 投資家との対話（回数） 従業員ESG研修（回数）
	コンプライアンス / リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 法令等の遵守徹底、利害関係者との間での取引に係る利益相反の排除等のコンプライアンスの遵守徹底と適切なリスクマネジメントを実現する社内体制の整備・運用により、企業価値の維持・向上を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス研修（回数）

環境 → P29

- グリーンビル認証取得率（2023年9月1日現在）
〈全ポートフォリオにおける認証取得率80.3%〉

DBJ Green Building 認証取得 **NEW**
[博多FDビジネスセンター（9月1日取得）]



非常に優れた「環境・社会への配慮」がなされた建物

社会 → P31

- 企業版ふるさと納税実施
（熊本県の菊陽町、大津町、合志市） **NEW**
投資対象エリアの街づくりや地域活性化支援

寄付贈呈式
（2023年7月31日）



気候変動シナリオ分析に基づく財務的な影響の検証（定性分析）

TCFD 提言に沿ったリスクと機会及び財務的影響の定性分析を更新

気候変動シナリオ分析

現状の気候変動対策の有効性を検証、及び将来の戦略策定に活かすことを目的に分析を実施。また、リスクと機会の特定と財務的な影響を下表の通り検証。

		リスクと機会の要因と財務的影響	重要度		リスク・機会への対応
			2030年	2050年	
移行 リスク	政策と法	カーボンプライシングが導入され炭素税負担が増大する	小	中	CO2削減目標の推進 省エネルギー改修／再生可能エネルギー導入 エネルギー高効率化運営
	技術	既存物件の省エネルギー化・創エネルギー化にかかるコストが増加する (省エネ、蓄電、ZEB・ZEH化、太陽光発電等)	大	大	耐用年数を見据えた長期改修計画の策定 補助金等の活用 ZEB・ZEH等物件の取得による環境性能面におけるポートフォリオの改善
	市場	市場の選好により脱炭素未対応物件の空室率が上昇する／ 賃料が下落する	小	小	環境認証の取得推進 満足度調査等によるテナントニーズの把握 グリーンリース契約の推進
	評判	脱炭素の対応遅れにより投資口価格が下落し、外部成長機会を逸する 脱炭素の対応遅れにより借入金利が上昇し、借入期間が短期化する	- 小	- 小	緑化促進 環境問題を重視する投資家への訴求 物件入替による環境性能面におけるポートフォリオの改善
物理 リスク	急性	災害発生頻度の増大により災害による損害額／災害復旧費用が増加する	大	大	物件所在地のリスクモニタリング 災害対策の実施（止水板設置、中央監視の防水対応、受変電設備の嵩上等） BCP訓練の実施
		災害発生頻度の増大により災害対策費用が増加する	小	中	損害保険の付保 物件取得時のハザードリスク調査
	慢性	気温上昇に伴う空調使用量の増加により光熱費負担が増加する	小	小	空調効率改善改修の実施
		海面上昇による対策費が増加する	小	小	エネルギー高効率化運営
機会	資源の効率化	省エネルギー化に伴うエネルギー調達コストが減少する	小	小	
	エネルギー源	クリーン・エネルギーへの移行が進み、炭素税負担が減少する	小	小	省エネルギー改修／再生可能エネルギー導入 ZEB・ZEH物件等の取得による環境性能面におけるポートフォリオの改善 高効率機器の価格低下
	製品およびサービス	市場へのZEB物件等の供給が増加することにより、ZEB物件等の 取得機会が増加する	-	-	
	市場	市場の選好により脱炭素対応物件の入居率が上昇する／ 賃料が増加する	小	中	環境認証の取得推進 満足度調査等によるテナントニーズの把握
		脱炭素対応の成功により融資先・融資機会が拡大する	小	小	グリーンファイナンスの活用
	レジリエンス	脱炭素対応の成功により新規投資家層が開拓される	-	-	環境問題を重視する投資家への訴求
	災害対策の成功により災害による損害額／災害復旧費用が減少する	中	中	物件所在地のリスクモニタリング 災害対策の実施（止水板設置、中央監視の防水対応、受変電設備の嵩上等） 損害保険によるリスク移転	

※評価もしくは算定が困難なものについては「-」にて表示しています。

気候変動シナリオ分析に基づく財務的な影響の検証（定量分析）

TCFD 提言に沿ったシナリオ分析に基づく財務的影響の定量分析を実施（2023年10月）

財務インパクト

（単位：百万円）

シナリオ	財務的影響の内容		4.0°Cシナリオ	1.5°Cシナリオ	補足
移行リスク・ 機会	炭素税負担が増加する	リスク	-	▲352	炭素税負担の増
		対策効果	-	188	省エネ・創エネ（オンサイト）改修による削減効果
	既存物件の省エネルギー化（レトロフィット）・創エネルギー化（オンサイト）改修にかかるコストが増加する	リスク	-	▲783	CAPEX投資額の増 創エネルギー設備の維持管理コストの増
		機会	炭素税対策効果及びエネルギー調達コスト・賃貸事業機会に反映		
	改修に伴いエネルギー調達コストが減少する	対策効果・機会	-	119	省エネ・創エネ（オンサイト）改修による削減効果
	脱炭素未対応物件の空室率が上昇する／対応物件の賃料が上昇する	リスク	-	▲91	対策を行わない場合の賃貸事業収入の減少
機会		-	329	省エネ・創エネ（オンサイト）改修の対策を実施した場合の賃貸事業収入の増	
物理リスク・ 機会	水害による損害額／災害復旧費用が増加する	リスク	▲169	▲56	豪雨発生確率が増加し洪水による直接損害および営業停止等による間接損害が発生
		対策効果	38	13	浸水による直接・間接損害の損害保険によるリスク転嫁 浸水対策実施によるリスク逓減効果
	水害対策費用が増加する	リスク	▲103	▲65	損害保険料の増 浸水対策工事に伴うCAPEX投資額の増
	空調使用量の増加に伴い光熱費負担が増加する	リスク	▲14	▲3	空調使用頻度増に伴う光熱費増
		対策効果	-	2	省エネ・創エネ（オンサイト）改修による削減効果
	海面上昇による対策費が増加する	リスク	-	-	海面上昇による浸水域立地物件の資産価値の低下や対策費用発生等について現時点では大きな影響を与える事象は確認されず

※単位未満の数値について、金額は四捨五入で記載しています。

※未算定項目は「-」としています。

※本試算には、現時点で算定可能と判断した部分のみ反映しており、本投資法人がもつ気候関連リスクの全てについて評価したものではありません。今後、グローバルおよび日本の気候関連リスクに関する動向に応じながら分析の発展を試みてまいります。

※本試算は、本投資法人の既存の財務情報に、気候関連シナリオや文献が示す情報を考慮して行いました。単位はキャッシュベースの影響額（百万円）／年を基本とし、時間軸は2050年時点想定しています。なお、現時点ではその正確性は保証できません。また、想定する対応策についても、試算上の想定であり、実行を計画・決定したものではありません。

損益計算書・分配金（前期比）

キャナルシティ博多リニューアルに伴うダウンタイムを売却益でカバー

（単位：百万円）

（符号は当期純利益への影響として記載）単位：百万円

科目		第37期 ～2023年2月28日 (A)	第38期 ～2023年8月31日 (B)	増減 (B-A)
経常損益	営業収益	9,037	9,284	247
	売却益除く営業収益	8,921	8,852	① ▲69
	売却益	115	432	② 316
	営業費用	5,813	5,912	98
	賃貸事業費用	5,147	5,231	③ 84
	資産運用報酬	534	544	10
	資産保管手数料	7	7	0
	一般事務委託手数料	57	58	0
	役員報酬	3	3	-
	その他営業費用	63	66	2
営業利益		3,223	3,372	148
営業外損益	営業外収益	1	0	▲0
	営業外費用	373	385	11
	支払利息（投資法人債を含む）	274	284	10
	融資関連費用	97	98	1
	その他営業外費用	2	2	-
経常利益		2,851	2,988	137
税引前当期純利益		2,851	2,988	137
法人税等		1	0	▲0
当期純利益		2,849	2,987	137

分配金	分配金の額	2,849	2,987	137
	1口当たり分配金	3,580円	3,753円	173円

■営業損益

①新規取得物件寄与(2物件)	+57
アクティブ商業	▲198
内 キャナルシティ博多/キャナルシティ博多・B	▲175
パークプレイス大分	▲19
木の葉モール橋本	+11
サンリブシティ小倉	▲15
久留米東櫛原SC売却に伴う剥落	▲13
東比恵ビジネスセンター	+59
オフィスビル(東比恵ビジネスセンター除く)	+16
ティサージホテル那覇	+5
その他	+5
計	▲69
(内 水光熱収入 +7)	
②久留米東櫛原SC売却益増	+316
計	+316
③外注委託費増	▲18
水光熱費減	+4
修繕費増	▲41
公租公課増	▲32
減価償却費増	▲31
その他費用減	+34
(東比恵ビジネスセンターリーシングフィー他)	
計	▲84

損益計算書・分配金（予想比）

想定を上回るキャナルシティ博多の回復により、分配金は予想比+153円

（単位：百万円）

（符号は当期純利益への影響として記載）単位：百万円

科目		第38期 予想(第37期決算発表時公表) (A)	第38期 実績 (B)	増減 (B-A)
経常損益	営業収益	9,200	9,284	① 84
	売却益除く営業収益	8,767	8,852	84
	売却益	432	432	0
	営業費用	5,946	5,912	② ▲34
	賃貸事業費用		5,231	
	資産運用報酬		544	
	資産保管手数料		7	
	一般事務委託手数料		58	
	役員報酬		3	
	その他営業費用		66	
	営業利益	3,253	3,372	118
営業外損益	営業外収益	0	0	▲0
	営業外費用	387	385	▲2
	支払利息（投資法人債を含む）		284	
	融資関連費用		98	
その他営業外費用		2		
経常利益	2,866	2,988	121	
税引前当期純利益	2,866	2,988	121	
法人税等	1	0	▲0	
当期純利益	2,865	2,987	121	

分配金	分配金の額	2,865	2,987	121
	1口当たり分配金	3,600円	3,753円	153円

■営業損益

① アクティブ商業	+95
内 キャナルシティ博多/キャナルシティ博多-B	+111
パークプレイス大分	▲20
サンリブシティ小倉	+4
オフィスビル	+5
ティサージホテル那覇	▲12
その他	▲4
計	+84
(内 水光熱収入 ▲63)	
② 外注委託費増	▲7
水光熱費減	+56
修繕費増	▲17
公租公課減	+3
減価償却費減	+4
その他費用増	▲5
計	+34

第39期(2024年2月期)業績予想

新規物件取得及びキャナルシティ博多 Alpen FUKUOKA オープンにより分配金は3,755円

(単位:百万円)

項目	第38期実績 (A)	第39期予想 (第37期決算発表時公表) (B)	第39期予想 (今回公表) (C)	第38期実績 差異 (C-A)	第39期 公表予想差異 (C-B)
営業収益	9,284	9,280	9,313	28	33
売却益除く営業収益	8,852	9,041	9,075	① 222	33
売却益	432	238	238	② ▲194	—
営業費用	5,912	5,956	5,888	③ ▲23	▲67
営業利益	3,372	3,323	3,424	52	100
営業外収益	0	0	0	0	—
営業外費用	385	457	435	④ 50	▲22
経常利益	2,988	2,866	2,990	2	123
当期純利益	2,987	2,865	2,988	1	123
分配金の額	2,987	2,865	2,988	1	123
1口当たり分配金	3,753円	3,600円	3,755円	2円	155円

(符号は当期純利益への影響として記載) 単位:百万円

■第38期実績と第39期予想(今回公表)との差異要因

①新規取得物件寄与(3物件)	+253
アクティブ商業	+68
内 キャナルシティ博多/キャナルシティ博多・B	+72
パークプレイス大分	▲12
木の葉モール橋本	▲6
サンリブシティ小倉	+15
久留米東櫛原SC売却に伴う剥落	▲61
オフィスビル	▲19
その他	▲19
計	+222
(内 水光熱収入 ▲32)	
②久留米東櫛原SC売却益減	▲194
計	▲194
③外注委託費増	▲16
水光熱費減	+26
修繕費減	+132
公租公課減	+2
減価償却費増	▲70
販管費増	▲16
その他費用増	▲35
計	+23
④調達コスト増	▲50
計	▲50

第40期(2024年8月期)業績予想

売却益剥落後の分配金において3,600円を確保

(単位:百万円)

項目	第39期予想(今回公表) (A)	第40期予想(今回公表) (B)	第39期予想(今回公表) との差異 (B-A)
営業収益	9,313	9,322	8
売却益除く営業収益	9,075	9,322	① 247
売却益	238	—	② ▲238
営業費用	5,888	6,002	③ 113
営業利益	3,424	3,319	▲104
営業外収益	0	0	—
営業外費用	435	453	④ 18
経常利益	2,990	2,866	▲123
当期純利益	2,988	2,865	▲123
分配金の額	2,988	2,865	▲123
1口当たり分配金	3,755円	3,600円	▲155円

(符号は当期純利益への影響として記載) 単位:百万円

■第39期予想(今回公表)と第40期予想(今回公表)との差異要因

①新規取得物件寄与(3物件)	+132
アクティブ商業	+79
内 キャンナルシティ博多/キャンナルシティ博多・B	+60
パークプレイス大分	+29
サンリブシティ小倉	▲10
久留米東櫛原SC売却に伴う剥落	▲13
オフィスビル	+27
その他	+22
計	+247
(内 水光熱収入 +59)	
②久留米東櫛原SC売却益減	▲238
計	▲238
③外注委託費増	▲6
水光熱費増	▲63
修繕費減	+18
公租公課増	▲64
減価償却費増	▲24
販管費増	▲7
その他費用減	+33
計	▲113
④調達コスト増	▲18
計	▲18



Fukuoka REIT

Appendix

プロフィール

福岡リート投資法人の特徴

1	日本初の地域特化型リート 福岡・九州の不動産事情に精通する強みを活かした運用
2	福岡都市圏を中心とした優良ポートフォリオ 国内外から注目を集める成長都市福岡での厳選投資
3	総合デベロッパーであるスポンサーの強力なサポート スポンサーとの連携による資産規模の拡大と高稼働率の実現
4	安定的な財務基盤の確保 保守的な有利子負債比率コントロール、返済期限の長期分散
5	上場以来の安定した分配金とNAVの着実な成長 投資した不動産を適切に運用

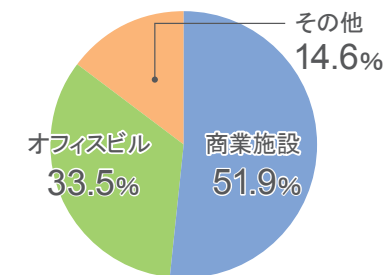
福岡リート投資法人の概要

名称	福岡リート投資法人
証券コード	8968
上場日	2005年6月21日（東京証券取引所、福岡証券取引所）
決算期	2月・8月
資産運用会社	株式会社福岡リアルティ
スポンサー	福岡地所株式会社、九州電力株式会社、株式会社福岡銀行、株式会社西日本シティ銀行、西日本鉄道株式会社、西部ガスホールディングス株式会社、株式会社九電工、九州旅客鉄道株式会社、株式会社日本政策投資銀行

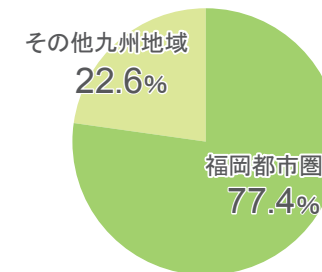
ポートフォリオ (注1)	
物件数 / 資産規模 (注2)	35 物件 / 207,564 百万円
内スポンサーからの取得 (注3)	16 物件 / 128,940 百万円
含み益	48,478 百万円
総賃貸可能面積	580,272.77 ㎡
稼働率	99.1%

財務データ (注1)	
有利子負債総額	86,450 百万円
有利子負債比率 (LTV)	42.4%
固定比率	92.8%
期中平均支払金利	0.66%
格付	JCR AA- (安定的)
	R&I A+ (安定的)

◎投資タイプ (取得価格ベース)



◎投資対象エリア (取得価格ベース)



投資口価格等 (注1)

投資口価格	162,100 円
発行済投資口総数	796,000 口
時価総額	129,031 百万円 (投資口価格 × 発行済投資口総数)
1口当たり純資産	128,048 円
1口当たりNAV (注4)	185,197 円
第38期分配金実績	1口当たり3,753 円 (運用日数 184 日)
分配金利回り	4.6% (分配金 ÷ 運用日数 × 365) ÷ 投資口価格

(注1) 2023年8月31日現在の数値を記載しています (期中平均支払金利を除く)。

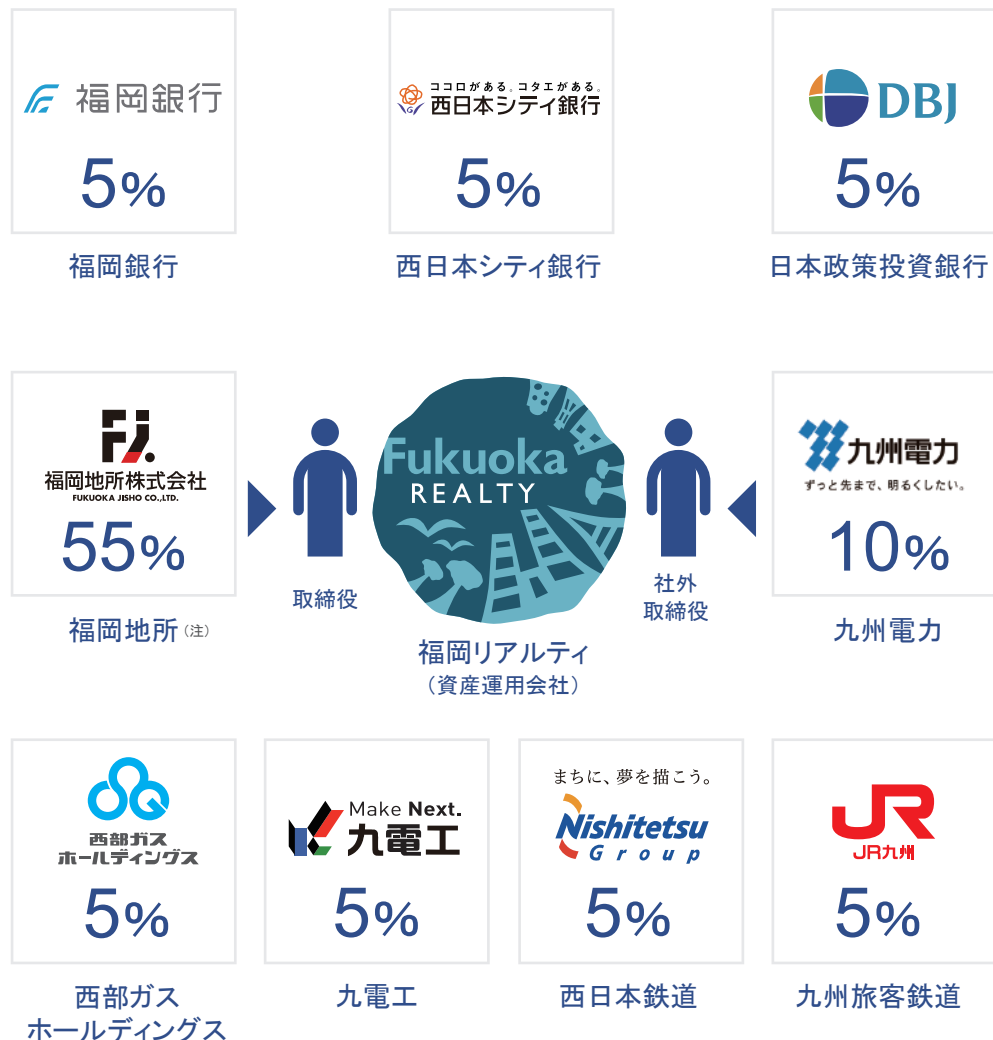
(注2) 取得価格の合計額を記載しています。

(注3) 第10期 (2009年8月期) に取得した東比恵ビジネスセンターについては、外部及びスポンサーが取得先のため、取得価格の50%を加算しています。なお、物件数は1物件として加算しています。

(注4) 1口当たりNAV = (純資産額 + 含み損益 - 分配金総額) ÷ 期末発行済投資口総数

福岡・九州地域特化型リート

スポンサー体制



(注) 福岡リート投資法人及び福岡リアルティとパイプライン・サポートに関する契約書を締結しています。

投資方針

◎投資対象エリア

60-90% **福岡都市圏**

10-30% **その他九州地域**
(沖縄県及び山口県を含む)

0-10% **その他**

◎投資タイプ

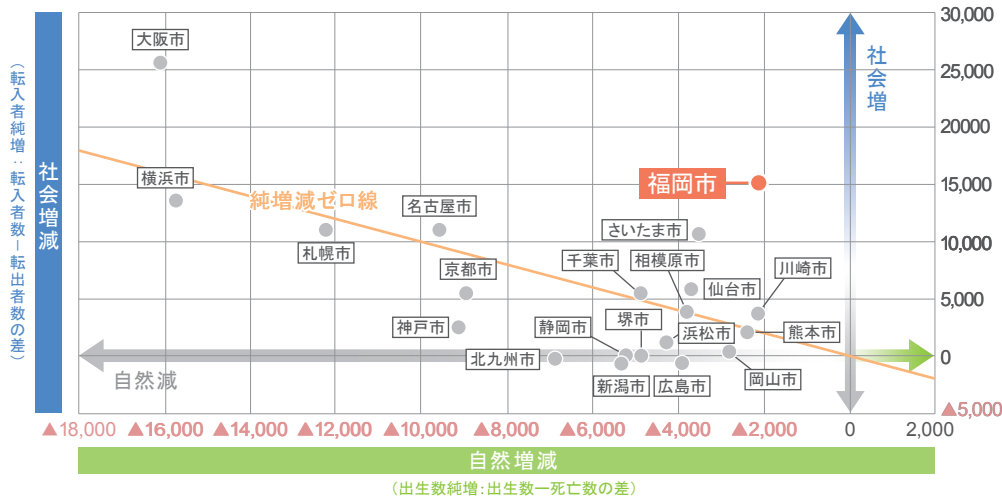
その他 0-30%
(物流施設、住居、ホテル等)

オフィスビル 20-50%

商業施設 40-70%

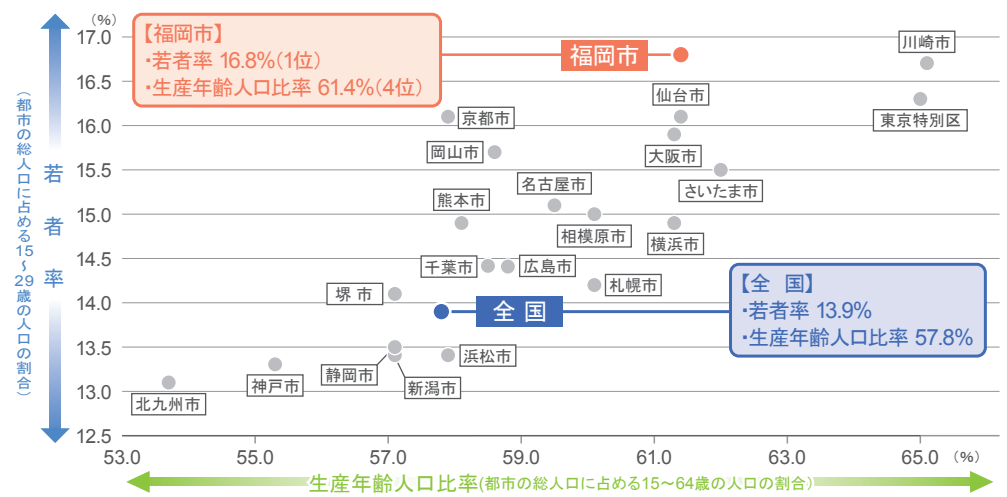
福岡市の近況

人口純増減数 分布図(政令指定都市比較)(2022年)



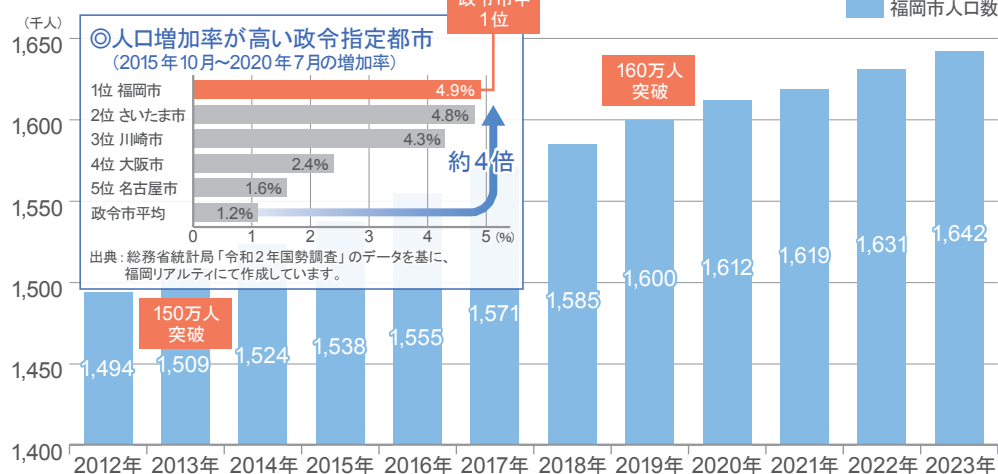
出典: 総務省自治行政局「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(令和5年)」のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

全国及び各主要都市の若者率及び生産年齢人口比率(2020年)



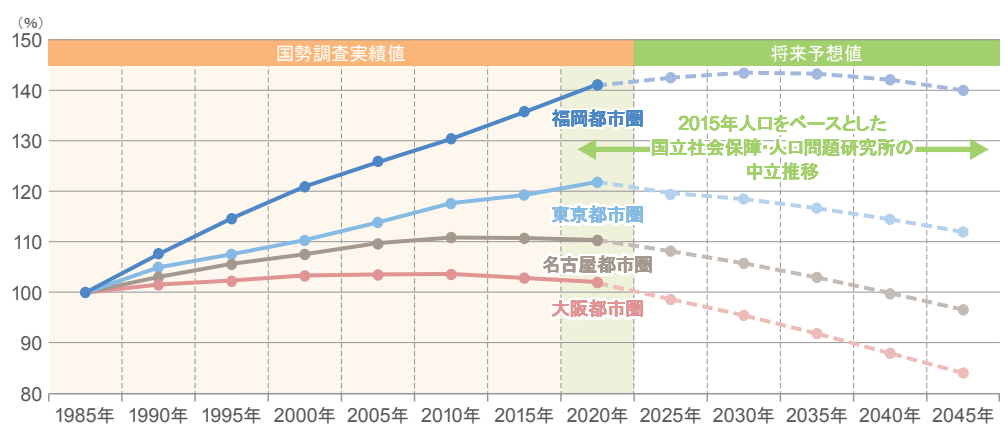
出典: 総務省統計局「令和2年 国勢調査」のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

福岡市の人口の推移



※人口数は10月1日時点の数値を記載しています。
出典: 福岡市総務企画局「推計人口」のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

国内主要都市圏の人口増減

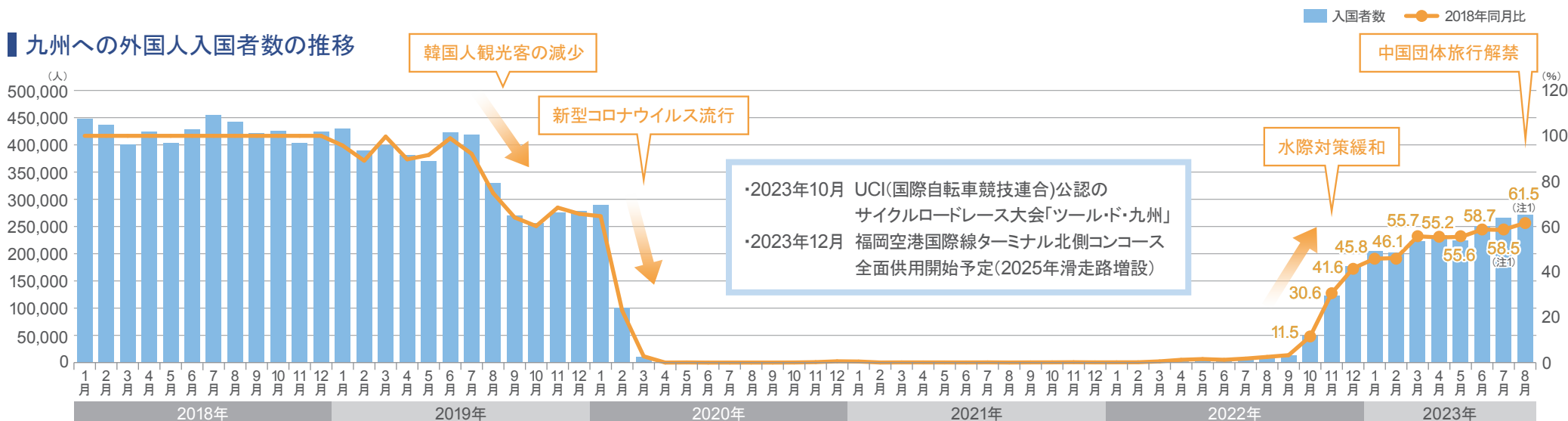


※1985年の各都市圏の人口を100として、グラフ化したものです。
※福岡都市圏とは、福岡市・筑紫野市・春日市・大野城市・宗像市・太宰府市・古賀市・福津市・糸島市・那珂川市・宇美町・篠栗町・志免町・須恵町・新宮町・久山町・粕屋町を指します。東京都市圏とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県、名古屋都市圏とは、愛知県・岐阜県・三重県、大阪都市圏とは、大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県を指します。
出典: 総務省統計局「令和2年 国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

インバウンドの状況

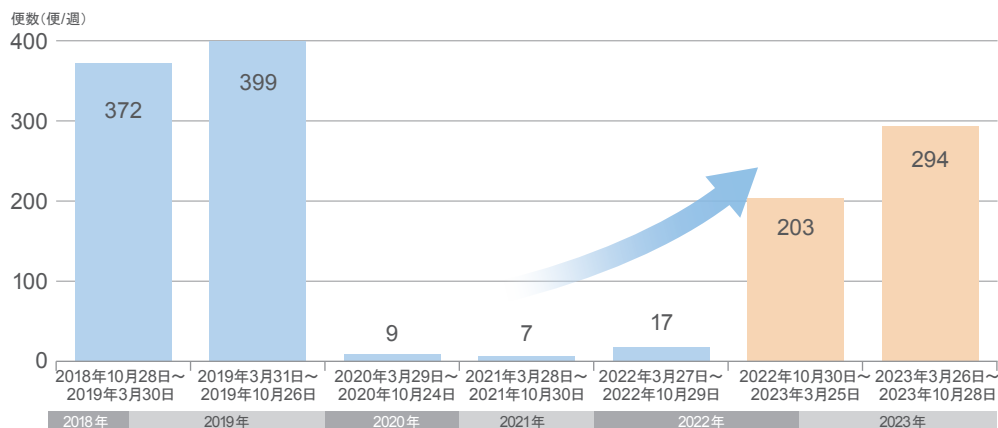
中国の訪日団体旅行が解禁 (2023年8月～)

九州への外国人入国者数の推移



(注1) 2023年7月及び8月の入国者数は速報値です。
出典: 国土交通省九州運輸局「九州への外国人入国者数の推移について」のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

福岡空港国際線(旅客便)動向(注2)



(注2) 該期間の事業計画について航空会社から申請があり、国土交通省が認可した便数を記載しています。
出典: 国土交通省「国際線の定期便の概要」のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

主要国(地域)から九州への外国人入国者数(2023年6月)

国・地域	2018年6月	2019年6月	2023年6月	2023年6月(2018年比)
韓国	189,739	182,328	148,940	78.5%
中国	149,563	142,737	9,006	6.0%
その他アジア	77,793	86,326	81,435	104.7%
九州合計(注3)	427,996	423,361	251,307	58.7%

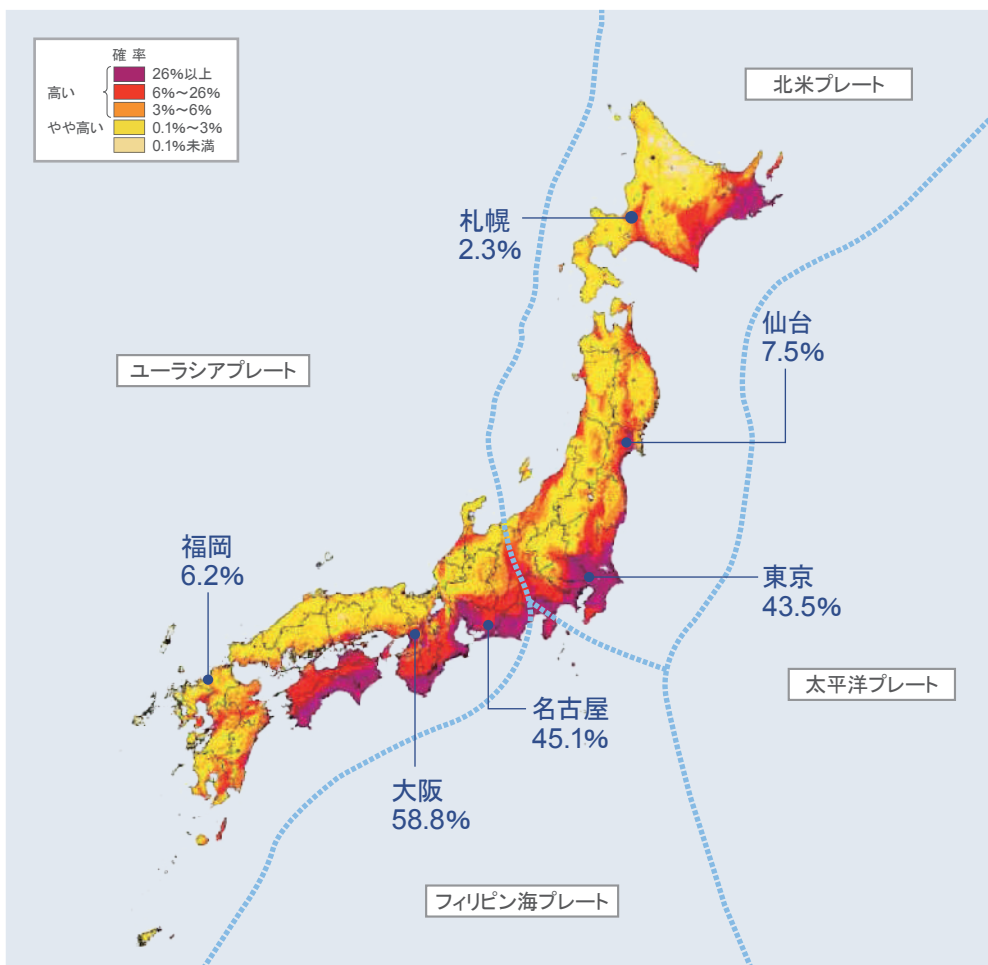
(注3) 九州合計はアジア以外の地域からの入国者数も含んでいます。
出典: 国土交通省九州運輸局「九州への外国人入国者数の推移について」のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

福岡・九州の地震リスク等

保有物件（建物）すべてに地震保険を付保

確率論的地震動予測地図

今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率
(平均ケース・全地震)

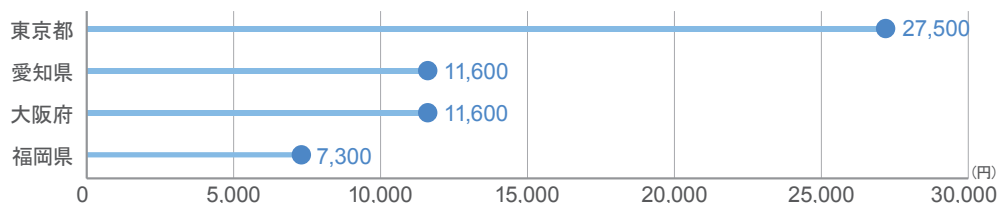


※モデル計算条件により確率ゼロのメッシュは白色表示しています。各都市の数値は2023年基準の数値を基に記載しています。
出典：地震調査研究推進本部事務局（文部科学省研究開発局地震・防災研究課）、J-SHIS（国立研究開発法人防災科学技術研究所）、国土交通省 気象庁ウェブサイトのデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

地震保険の基本料率

◎2022年10月1日以降保険始期の地震保険契約

●福岡県は他のエリアに比べて相対的に少ない費用で地震保険加入が可能

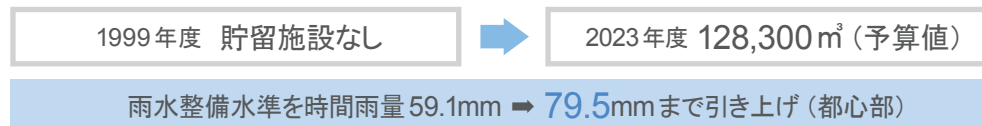


※主として鉄骨・コンクリート造建物等の保険金額1,000万円当たり、保険期間1年についての基本料率です。
出典：損害保険料率算出機構のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

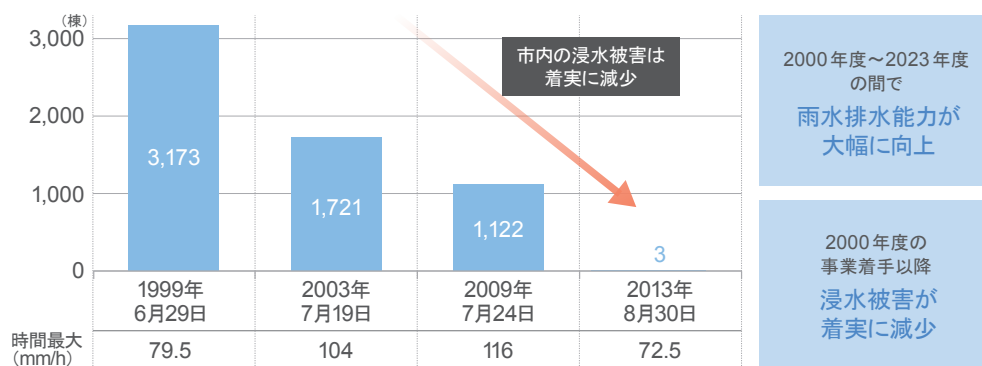
その他自然災害における福岡市の対策例（福岡市の浸水対策）

◎雨水貯留施設

●雨水貯留施設の貯留能力



◎市内における主な浸水被害の状況



出典：福岡市雨水整備緊急計画「雨水整備Doプラン2026」のパフレットを基に、福岡リアルティにて作成しています。

外部認証と情報開示

<p>Signatory of:</p>  <p>Principles for Responsible Investment</p>	<p>責任投資原則 (PRI) 署名登録 (2018年9月)</p>	<p>2006年に当時の国連事務総長コフィ・アナン氏により提唱された、環境・社会・ガバナンス (ESG) の要素を投資プロセスに反映させることを目的とする6つの基本原則、及びそれに賛同する国際的な金融機関のネットワーク。 本資産運用会社は、不動産投資運用業務における ESG への配慮を進めるにあたり、国際的な水準での実践を進めるため、責任投資原則 (PRI) に賛同し、2018年9月に署名。</p>
 <p>TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES</p>	<p>TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) 提言への賛同 (2022年9月)</p>	<p>金融安定理事会 (FSB) により、気候関連の情報開示及び金融機関の対応をどのように行うかを検討する目的で設立。本資産運用会社は、「TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース)」提言への賛同を2022年9月に表明。 国内賛同企業による組織「TCFDコンソーシアム」へ同時に加入。</p>
 <p>21世紀 金融行動原則</p>	<p>21世紀金融行動原則 (PFA21) 署名登録 (2018年9月)</p>	<p>環境省が事務局となり、持続可能な社会の形成のために必要な責任と役割を果たしたいと考える金融機関の行動指針として2011年10月に策定された原則。 本資産運用会社は、本原則の考え方に賛同し、2018年9月に署名。</p>
 <p>G R E S B REAL ESTATE</p>	<p>GRESB</p>	<p>不動産会社・ファンドの環境・社会・ガバナンス (ESG) 配慮を測る年次のベンチマーク評価及びそれを運営する組織の名称であり、責任投資原則 (PRI) を主導した欧州の主要年金基金グループを中心に2009年に創設。 本投資法人は、2018年から参加。</p>
 <p>DBJ Green Building</p>	<p>DBJ Green Building 認証</p>	<p>「環境・社会への配慮」がなされた不動産とその不動産を所有・運営する事業者を支援する取り組みとして2011年に創設された認証制度。不動産のサステナビリティをESGに基づく5つの視点から評価。本投資法人では、13物件の認証を取得。</p>
 <p>CASBEE 不動産 2023</p>	<p>CASBEE (建築環境総合性能評価システム)</p>	<p>建築物の環境性能を評価し格付けする手法で、省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮はもとより、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価するシステム。本投資法人では、2物件の認証を取得。</p>
 <p>BELS</p>	<p>BELS</p>	<p>「非住宅建築物に係る省エネルギー性能のための評価ガイドライン (2013)」に基づき、第三者機関が非住宅建築物の省エネルギー性能の評価及び表示を行う制度。 本投資法人では、5物件の認証を取得。</p>

ESG への取り組み (環境)

環境負荷の低減

エネルギー効率化 投資法人

- ・LED化推進 (共用部等) **NEW**
- ・空調負荷の低減 (遮熱シート施工等)
- ・共用部緑化、水場の配置、日陰空間創出
- ・電気自動車充電ステーション設置
- ・電子プレーカー設置
- ・節水、省エネ対策
- 〈GHP 空調更新〉 **NEW**



パークプレイス大分

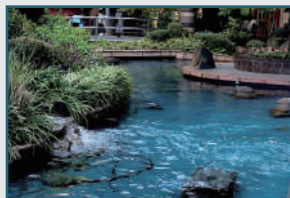
☑省エネ機に更新することにより、ランニングコスト及びCO2排出量の削減に寄与

廃棄物削減 / 資源循環 / 水資源等 投資法人

- ・ゴミの分別回収
- ・生ごみの飼料化 (キャナルシティ博多、パークプレイス大分)
- ・古着回収 (キャナルシティ博多、木の葉モール橋本)

- 運河水濾過システム・中水プラントや節水型トイレの設置 (キャナルシティ博多)

- キャナルシティ博多では、水消費量の削減のため、運河水濾過システム (雨水の再利用システム)、中水プラント (厨房排水の再利用システム) や節水型トイレ設置等による取り組みを実施



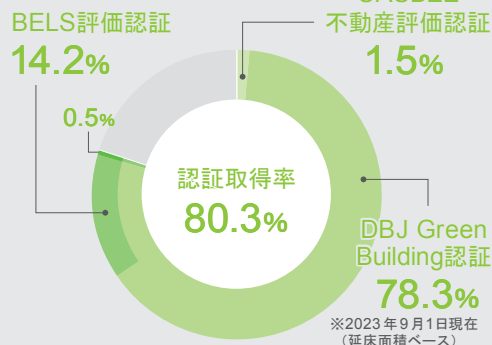
運河水濾過システム (雨水の再利用システム)

建築性能・環境性能の維持向上

グリーンビル認証

全ポートフォリオにおける認証取得率 80.3%

環境認証取得率



GRESB2023

- GRESBリアルエステイト評価 「4スター」及び「グリーンスター」を取得
- GRESB開示評価 最高位レベル「Aレベル」の評価を取得

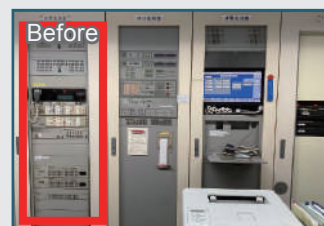


- ・DBJ Green Building 認証 13物件において認証取得 (内1物件は新規取得、2物件は認証再取得)

定期的な不動産の性能評価・機能評価の実施

呉服町ビジネスセンターの取り組み事例

〈自動火災放置設備受信機 (非常放送盤) の更新〉 **NEW**



☑火災時に早期発見と鳴動での避難を誘導し、テナントの安心安全を守る重要な役割をもつ

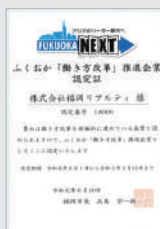
ESG への取り組み(社会①)

魅力ある職場の実現 資産運用会社

従業員への取り組み

《福岡リアルティ 役職員の状況》(2023年8月31日現在)

- 社員平均勤続年数：8年3ヶ月
- 常勤従業員数：47名(男性21名、女性26名)※男女比率
 - ・スポンサーからの出向：3名 男性：44.7%
 - ・スポンサー等への出向：9名 女性：55.3%
- 有資格者数 ※正社員、契約社員及び出向受入社員における延べ人数を記載しています。
 - ・宅地建物取引士：23名
 - ・不動産証券化協会認定マスター：22名
 - ・ビル経営管理士：5名
 - ・一級建築士：3名
 - ・不動産鑑定士：3名
 - ・弁護士：1名
 - ・経営学修士：2名
 - ・日本証券アナリスト協会認定アナリスト：3名
 - ・管理業務主任者：1名



働き方改革における「ふくおか『働き方改革』推進企業に認定」(2018年8月)



福岡市 Well-being & SDGs 登録制度(マスター)へ登録(2022年7月)



福岡県 SDGs 登録制度への登録(2023年2月)

《柔軟な働き方支援》

- ・子育て支援(産休・育休・保育園支援制度)
- ・介護休暇
- ・ボランティア休暇
- ・福利厚生(401K、累投制度等)
- ・有給休暇取得の推進等

《キャリア形成支援》

- ・従業員満足度調査の実施
- ・自己申告制度
- ・キャリア面談
- ・出向制度(スポンサー等への出向)
- ・契約社員から正社員への登用制度

《社員向け研修》

- ・公共財団法人九州経済調査協会の定例講演会
- ・コンプライアンス研修
- ・ESG研修
- ・統合報告書研修
- ・社内レクリエーション等

- ・各役職者に応じた研修プログラム提供
- ・資格補助制度(宅地建物取引士、不動産証券化協会認定マスター等)
- ・語学学習支援等

その他の取り組み

《健康管理・オフィス環境改善》

- ・感染症予防に対する取り組み(インフルエンザ予防接種の実施及び予防接種費用の全額負担等)
- ・健康診断・人間ドック受診の義務付け
- ・申請制による過度な残業の抑制
- ・スポーツクラブの利用補助
- ・個室ブース、打ち合わせブース、植栽等設置
- ・個人ロッカーの設置



個室・打ち合わせブース



植栽等



個人ロッカーの設置

魅力ある職場の実現(テナント) 投資法人

- ・テナント従業員研修
- ・テナントの安全・安心の向上を目的とした防災訓練
- ・サステナビリティ・ガイドの配布
- ・テナント従業員、アルバイト募集への支援(物件ウェブサイトへの掲載)

- ・テナント従業員休憩室の改善
- ・テナント満足度調査実施
- ・パークプレイス大分及び木の葉モール橋本では、テナントに対して「営業時間フレックス制度(※)」を試験導入 **NEW**

※開店・閉店時間を店舗の裁量で設定する制度

ESG への取り組み (社会②)

福岡・九州の魅力向上や活性化に貢献

地域情報の発信 資産運用会社

ウェブサイト、SNS、決算説明資料等を活用した情報発信
福岡証券取引所での決算発表を実施
行政や地元主要企業、地元調査研究機関との情報・意見交換

各種地域イベント、祭りとの連動、場所提供 資産運用会社 投資法人

山笠、博多どんたく、中洲ジャズ、船乗り込み（歌舞伎興行お披露目）、地元プロスポーツ応援等
地元企業地域サポーター「オーヴィジョンアイスアリーナ福岡」や「アビスパ福岡スポンサー」への協賛

企業版ふるさと納税実施 資産運用会社

企業版ふるさと納税制度を継続して実施（熊本県の菊陽町、大津町、合志市） **NEW**

●地域イベントへの参加（山笠）



4年ぶりの通常開催となった博多祇園山笠追い山に
当社従業員が参加（八番山笠上川端通）

●企業版ふるさと納税実施



熊本県の3市町村への寄付 **NEW**
（写真：合志市の贈呈式）

地域社会との共創

地域コミュニティ等への取り組み 資産運用会社

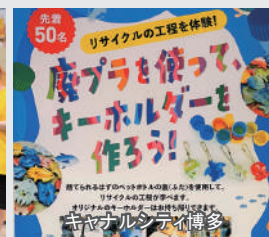
- 地域連携（福岡・九州の酒造9店舗出店
フリマニアックス「SAKE」や廃プラを使ったリサイクルの
工程体験「SDGs WEEK」等）の開催 **NEW**
- 博多まちづくり推進協議会への参加（クリーンデーなど）
- 福岡地域戦略推進協議会への参加
- IR九州部会主催
- 不動産・金融経済交流会主催



フリマニアックス「SAKE」 **NEW**



フリマニアックス「SAKE」 **NEW**



「SDGs WEEK」 **NEW**



クリーンデーへの参加



不動産・金融経済交流会主催

その他 資産運用会社 投資法人

- 子育て支援
- 各施設での取り組み
 - 安全・安心活動（防犯パトロール、AED設置）
 - 地域貢献（シェアサイクル、電気自動車スタンド）等



子育て支援

妊婦・ベビーカー
利用者駐車場



パークプレイス大分

防犯パトロール
（地区・学校と共同実施）



キャンナルシティ博多、他

AED設置



キャンナルシティ博多、他

シェアサイクル



キャンナルシティ博多、他

電気自動車スタンド

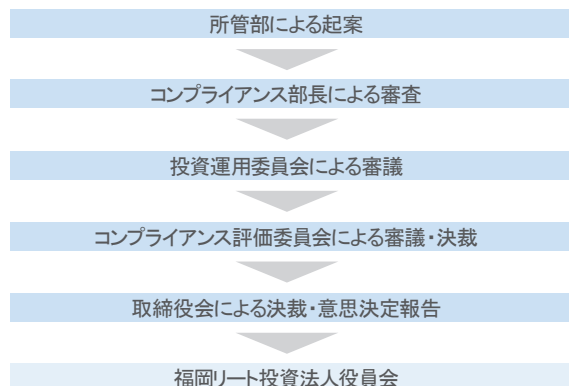
ESGへの取り組み(ガバナンス)

コンプライアンス / リスクマネジメント

ガバナンス体制 資産運用会社 投資法人

コンプライアンス基本方針、コンプライアンス規程、その他利益相反防止のための社内ルールを定め、これらルールに基づいて、コンプライアンス部長の事前確認、及び、コンプライアンス評価委員会(コンプライアンス部長及び3名の外部専門家で構成)の審議を行い、利害関係者間の取引における利益相反リスクの適切な管理を実施

◎当社の意思決定プロセス(注1)



◎外部専門家による第三者評価

[鑑定評価]

- 一般財団法人日本不動産研究所
- 株式会社谷澤総合鑑定所
- 大和不動産鑑定株式会社

[マーケットレポート]

- 商圏、競合状況分析
- 適正賃料水準 等

[エンジニアングレポート]

- 遵法性、耐震性
- 土壌汚染、有害物質、使用状況確認
- 再調達価格、長期修繕維持更新費用 等

(注1) 信託法第201条の2第1項に定める事項に該当する場合は、投資法人の役員会事前承認を得ます。

投資主利益とスポンサー利益等との連動 資産運用会社 投資法人

- ・スポンサーによるセイムポート出資
メインスポンサーである福岡地所株式会社は、9.18%の投資口を保有
- ・投資口累積投資制度(全従業員の約1/3が本制度に参加)
本投資法人の業績向上への意識を高めること及び財産形成の促進を目的として、2015年4月より資産運用会社の役職員を対象とした投資口累積投資制度を導入

運用報酬体系 資産運用会社

投資主利益と連動した資産運用報酬

運用報酬 1(注2)	総資産ベース
運用報酬 2	営業収益ベース
運用報酬 3(注2)	分配可能利益ベース
運用報酬 4	取得報酬
運用報酬 5	譲渡報酬

(注2) 2021年2月期より運用報酬1の割合を引き下げ、運用報酬3の割合を引き上げています。

社外(利害関係人外)取締役・監査役登用 資産運用会社

取締役会の透明性・公平性の担保

役職	氏名	第38期出席状況
代表取締役社長	古池 善司	出席率100%
取締役(非常勤)	紫牟田 洋志	出席率100%
取締役(非常勤)	小原 千尚	出席率100%
取締役(非常勤)	上妻 正典	出席率100%
監査役(非常勤)	上川 一臣	出席率100%

第38期役員会出席状況等 投資法人

役職	氏名	報酬総額(千円)	出席状況
執行役員	古池 善司	-	出席率100%
監督役員	川庄 康夫	3,600	出席率100%
監督役員	田邊 俊		出席率100%

情報セキュリティ 資産運用会社

- ・情報管理規定を制定
(情報資産の保護及び取扱、情報の紛失・漏洩等の防止を図ることを目的)(2014年6月10日制定)

お客様本位の業務運営 資産運用会社

- ・2017年3月30日に金融庁より公表された「顧客本位の業務運営に関する原則」を採択し、「お客様本位の業務運営に関する方針」を制定(2017年9月20日)
- ・ウェブサイトにお客様本位の業務運営に関して、取り組み状況を開示

定期的なコンプライアンス研修の実施 資産運用会社

全役職員に対して、定期的な研修実施等により意識向上を図る

2020年10月~ 2021年9月	2021年10月~ 2022年9月	2022年10月~ 2023年9月
6件	6件	7件

(e-ラーニング含む)

ステークホルダーに対する情報開示と対話



統合報告書発行 投資法人

- ・2019年より毎年発行
2023年12月に5回目の統合報告書を発行予定(非財務情報の拡充を図る)
- 2022年度版
(2022年12月発行)
- ・ESG面談(2022年12月~)
10件以上実施

IRへの取り組み紹介

■ 主なIR活動実績

◎国内機関投資家向けIR

- ・アナリスト・機関投資家向け決算説明会
オンラインでの配信、翌日動画をWebサイトへ掲載
- ・決算ロードショー(対面及び電話会議)

◎海外機関投資家向けIR

- ・決算ロードショー(アジア)
- ・タイムリーな情報開示(日本語プレスリリースと同時に英語版を掲載)

◎個人投資家向けIR

- ・対面での個人投資主向け決算説明会(福岡)(2023年6月)
コロナ禍以降、4年ぶりに対面にて個人投資主様へ向けての決算説明会を福岡で開催
- ・福証IRフェアオンライン(2023年7月)
- ・個別の電話対応等



2023年6月 個人投資主向け決算説明会 **NEW**



2023年7月 福証IRフェアオンライン

■ 主な広報活動実績

- ◎地元経済誌ふくおか経済(EX2023号) 広告及び住宅新報(2023年6月27日号)等へ代表取締役社長古池善司のインタビューを掲載



ふくおか経済(EX2023号)



住宅新報(2023年6月27日号)

■ Indexへの組み入れ状況 (2023年8月末日現在)

◎主なグローバルインデックス

FTSE EPRA/NAREIT Global Real Estate Index
FTSE Developed Small Cap
S&P Global REIT Index
MSCI Japan Small Cap Index

■ その他の活動

2023年で13年目となるIR九州部会は、一般社団法人日本IR協議会との共催で発足。福岡・九州企業のIR担当者と共に最新のIRの潮流を学び、企業間のネットワーク構築の場として活用。



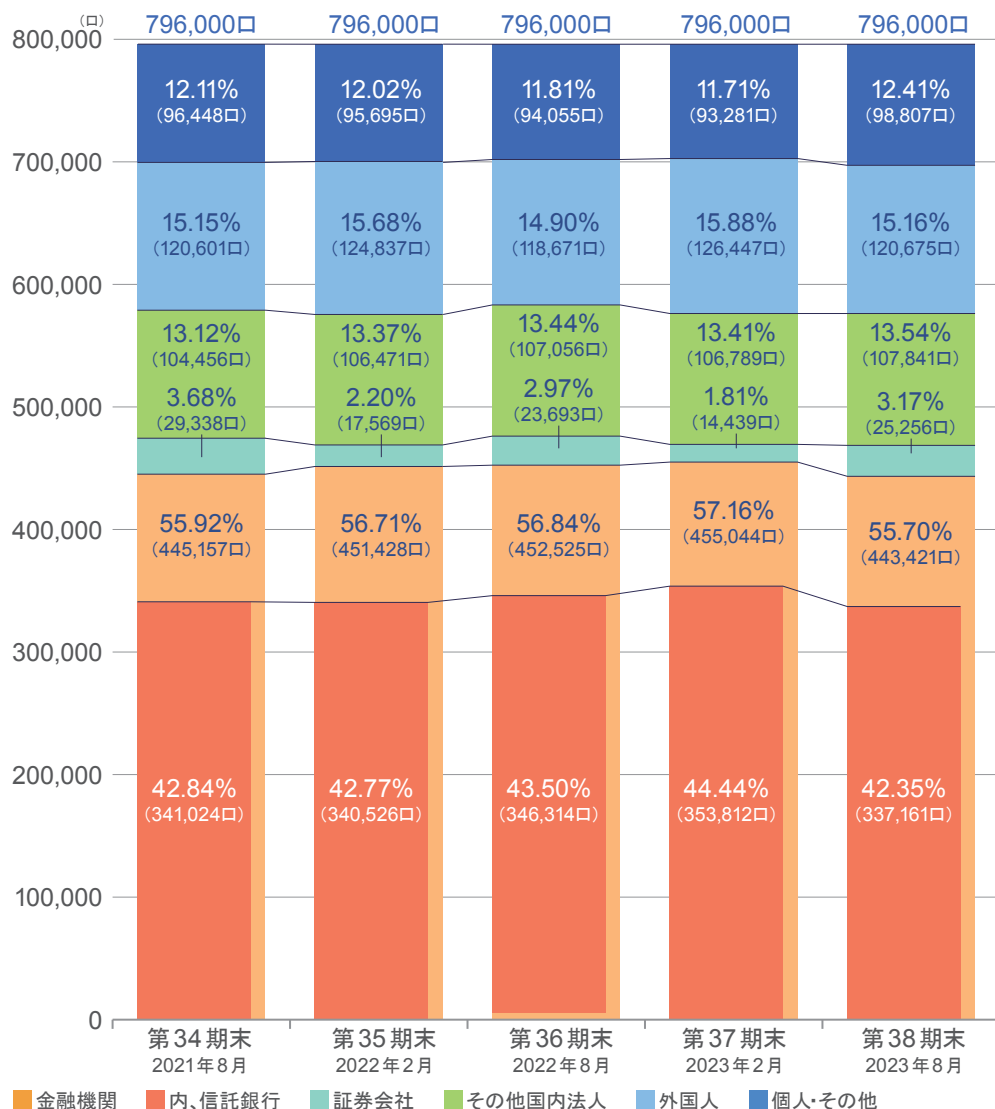
2023年7月 第1回 IR九州部会

日程	テーマと講師
第1回 2023年7月	「持続的な評価を導くIR ～2023年度IRの潮流とディスクロージャー」 一般社団法人日本IR協議会 専務理事 佐藤 淑子 様

※講師に関する情報はIR九州部会開催時の情報です。

投資主データ

投資主カテゴリー別分布状況（所有投資口数の割合）



※比率は記載未満の数値を切り捨てて記載しています。

投資主カテゴリー別投資主数・所有投資口数（第38期末）

2023年8月31日現在

	投資主数	比率	所有投資口数	比率
個人・その他	13,572名	95.82%	98,807口	12.41%
外国人	238名	1.68%	120,675口	15.16%
その他国内法人	252名	1.77%	107,841口	13.54%
証券会社	19名	0.13%	25,256口	3.17%
金融機関	83名	0.58%	443,421口	55.70%
(内、信託銀行)	8名	0.05%	337,161口	42.35%
合計	14,164名	100.00%	796,000口	100.00%

主要投資主（第38期末）

2023年8月31日現在

順位	投資主	所有投資口数	比率
1	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	207,964口	26.12%
2	日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	86,725口	10.89%
3	福岡地所株式会社	73,136口	9.18%
4	野村信託銀行株式会社(投信口)	35,601口	4.47%
5	全国信用協同組合連合会	14,760口	1.85%
6	STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	13,184口	1.65%
7	JP MORGAN CHASE BANK 385771	10,671口	1.34%
8	メットライフ生命保険株式会社 一般	10,227口	1.28%
9	SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	9,718口	1.22%
10	四国旅客鉄道株式会社	9,130口	1.14%

投資口価格推移



(注1) 2014年3月1日を効力発生日として、本投資法人の投資口1口につき5口の割合をもつて分割しています。2014年2月25日までの投資口価格については5で除した値で記載しています。

(注2) 2014年2月25日までの出来高については、5を乗じた値を記載しています。

決算ハイライト

1口当たりの分配金は3,753円

項目	第34期	第35期	第36期	第37期(A)	第38期(B)	増減 (B-A)	(単位:百万円)	
	~2021年8月31日	~2022年2月28日	~2022年8月31日	~2023年2月28日	~2023年8月31日		第39期 ~2024年2月29日 (予想)	第40期 ~2024年8月31日 (予想)
営業収益	8,867	8,658	8,830	9,037	9,284	247	9,313	9,322
売却益	104	-	-	115	432	316	238	-
NOI	5,336	5,334	5,370	5,274	5,152	▲122	5,484	5,650
減価償却費	1,552	1,486	1,514	1,499	1,531	31	1,601	1,626
営業利益	3,204	3,185	3,181	3,223	3,372	148	3,424	3,319
経常利益	2,817	2,816	2,805	2,851	2,988	137	2,990	2,866
当期純利益	2,816	2,814	2,804	2,849	2,987	137	2,988	2,865
1口当たり分配金(①)	3,539円	3,536円	3,523円	3,580円	3,753円			
1口当たり分配金予想(②)	3,500円	3,500円	3,500円	3,520円	3,600円		3,755円	3,600円
実績と予想の差異(①-②)	+39円	+36円	+23円	+60円	+153円		-	-
発行済投資口総数(期末時点)	796,000口	796,000口	796,000口	796,000口	796,000口		796,000口	796,000口
総資産(期末時点)	199,804	198,745	201,223	201,442	203,868			
負債(期末時点)	98,049	96,991	99,480	99,653	101,941			
純資産(期末時点)	101,755	101,753	101,743	101,788	101,926			
運用日数	184日	181日	184日	181日	184日			
保有物件数(期末時点)	32物件	32物件	33物件	33物件	35物件			
テナント総数(期末時点)(注1)	1,010	1,016	1,021	1,007	1,018			
総賃貸可能面積(期末時点)	572,215.71㎡	572,288.25㎡	578,255.35㎡	577,161.81㎡	580,272.77㎡			
稼働率(期末時点)(注2)	99.5%	99.4%	99.4%	97.9%	99.1%			
FFO(Funds from Operation)(注3)	4,265	4,301	4,318	4,234	4,086			
1口当たりFFO	5,358円	5,403円	5,425円	5,319円	5,133円			

(注1)「テナント総数」は、保有物件に係る賃貸借契約に定められた区画数の合計を記載しています。
 なお、パススルー型マスターリースの形態をとる物件については、エンドテナントとの間の賃貸借契約に定められた区画数の合計を記載しています。
 (注2)「稼働率」は、期末時点における総賃貸可能面積に対する総賃貸面積の占める割合を記載しています。
 (注3)「FFO」は、当期純利益+減価償却費+減損損失-不動産等売却損益により算出しています。

貸借対照表（前期比）

科目		第37期(A) 2023年2月28日	第38期(B) 2023年8月31日	差異 (B-A)
資産の部	流動資産	11,331	11,591	259
	現金及び預金	6,069	6,267	197
	信託現金及び信託預金	4,236	4,243	6
	営業未収入金	738	791	52
	前払費用	270	259	▲10
	その他	16	29	12
	固定資産	190,086	192,254	2,167
	有形固定資産	183,203	185,374	2,170
	建物	1,112	1,918	805
	構築物	19	23	3
	工具、器具及び備品	1	0	▲0
	土地	989	1,684	695
	信託建物	65,587	66,140	552
	信託構築物	1,043	1,033	▲10
	信託機械及び装置	708	703	▲5
	信託工具、器具及び備品	231	238	7
	信託土地	113,501	113,622	120
	信託建設仮勘定	8	9	0
	無形固定資産	5,551	5,548	▲2
	信託借地権	5,545	5,545	-
信託その他無形固定資産	5	2	▲2	
投資その他の資産	1,331	1,331	0	
繰延税金資産	0	0	▲0	
敷金及び保証金	10	10	-	
信託差入敷金及び保証金	327	327	-	
長期前払費用	994	994	0	
繰延資産	24	22	▲1	
資産合計	201,442	203,868	2,425	

(単位:百万円)

科目		第37期(A) 2023年2月28日	第38期(B) 2023年8月31日	差異 (B-A)
負債の部	流動負債	15,867	10,625	▲5,241
	営業未払金	662	771	108
	1年内償還予定の投資法人債	2,000	2,000	-
	1年内返済予定の長期借入金	10,400	5,200	▲5,200
	未払金	21	16	▲4
	未払費用	422	433	11
	未払法人税等	1	0	▲0
	未払消費税等	366	11	▲355
	前受金	1,068	1,065	▲2
	預り金	924	1,125	201
	固定負債	83,786	91,316	7,529
	投資法人債	3,000	3,000	-
	長期借入金	68,500	76,250	7,750
	預り敷金及び保証金	758	837	78
信託預り敷金及び保証金	11,528	11,229	▲298	
負債合計	99,653	101,941	2,287	

純資産の部		第37期(A) 2023年2月28日	第38期(B) 2023年8月31日	差異 (B-A)
投資主資本	101,788	101,926	137	
出資総額	98,938	98,938	-	
剰余金合計	2,850	2,987	137	
純資産合計	101,788	101,926	137	

負債純資産合計	201,442	203,868	2,425
---------	---------	---------	-------

キャッシュ・フロー計算書（前期比）

(単位：百万円)

区 分	第 37 期 (A) ～2023 年 2 月 28 日	第 38 期 (B) ～2023 年 8 月 31 日	差 異 (B-A)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,688	3,939	▲748
税引前当期純利益	2,851	2,988	137
減価償却費	1,499	1,531	31
投資法人債発行費償却	1	1	-
受取利息	▲0	▲0	▲0
支払利息	274	284	10
不動産等売却益	▲115	▲432	▲316
営業未収入金の増減額 (▲は増加)	50	▲52	▲103
未収消費税等の増減額 (▲は増加)	124	-	▲124
未払消費税等の増減額 (▲は減少)	366	▲355	▲722
営業未払金の増減額 (▲は減少)	59	31	▲27
未払金の増減額 (▲は減少)	4	▲4	▲9
未払費用の増減額 (▲は減少)	3	5	1
前受金の増減額 (▲は減少)	▲16	▲2	14
預り金の増減額 (▲は減少)	▲101	201	303
前払費用の増減額 (▲は増加)	▲42	10	53
長期前払費用の増減額 (▲は増加)	3	▲0	▲3
その他	2	12	10
小計	4,966	4,219	▲747
利息の受取額	0	0	0
利息の支払額	▲277	▲278	▲1
法人税等の支払額	▲0	▲1	▲0
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲117	▲3,436	▲3,318
有形固定資産の取得による支出	-	▲1,539	▲1,539
信託有形固定資産の売却による収入	407	1,495	1,087
信託有形固定資産の取得による支出	▲443	▲3,172	▲2,728
信託無形固定資産の取得による支出	-	-	-
預り敷金及び保証金の受入による収入	142	94	▲47
預り敷金及び保証金の返還による支出	▲125	▲16	108
信託預り敷金及び保証金の受入による収入	55	195	140
信託預り敷金及び保証金の返還による支出	▲154	▲494	▲339
使途制限付信託預金の払出による収入	6	1	▲4
使途制限付信託預金の預入による支出	▲6	▲2	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,803	▲298	2,504
短期借入れによる収入	-	3,000	3,000
短期借入金の返済による支出	-	▲3,000	▲3,000
長期借入れによる収入	-	8,450	8,450
長期借入金の返済による支出	-	▲5,900	▲5,900
分配金の支払額	▲2,803	▲2,848	▲45
現金及び現金同等物の増減額 (▲は減少)	1,766	204	▲1,562
現金及び現金同等物の期首残高	8,488	10,255	1,766
現金及び現金同等物の期末残高	10,255	10,459	204

賃貸事業収支（商業施設）

(単位:百万円)

商業施設(アクティブ商業)	科目	キャナルシティ博多	キャナルシティ博多・B	パークプレイス大分	サンリブシティ小倉	木の葉モール橋本	第38期合計 (A)	第37期		予想	
								合計	差異	(C)	差異
								(B)	(A-B)	(注1)	(A-C)
	(運用期間)	第38期 (2023年3月1日~2023年8月31日) 184日						181日	3日		
	①不動産賃貸事業収益合計	850	942	1,197	278	856	4,126	4,324	▲198	4,030	95
	不動産賃貸収入	826	908	997	278	682	3,693	3,882	▲189		
	その他 不動産賃貸収入	23	34	199	-	173	432	441	▲9		
	②不動産賃貸事業費用合計	525	568	631	47	574	2,347	2,305	42	2,384	▲36
	外注委託費	284	375	291	8	306	1,266	1,258	7		
	修繕費	88	34	32	1	38	195	169	26		
	原状回復費	-	-	-	-	-	-	-	-		
	公租公課	85	104	99	34	42	366	359	7		
	損害保険料	5	7	5	1	2	21	21	▲0		
	水道光熱費	29	43	175	-	107	356	350	6		
	その他 不動産賃貸費用	32	3	26	0	77	141	146	▲5		
	③NOI(=①-②)	325	373	566	230	282	1,778	2,018	▲240	1,646	131
	④減価償却費	233	190	205	52	100	782	774	7		
	⑤賃貸事業利益(=③-④)	91	183	360	178	182	995	1,244	▲248		
	NOI利回り(対取得価格)	2.0%	3.6%	5.8%	6.9%	5.7%	4.0%	4.5%	▲0.5%		
	資本的支出	508	161	187	5	60	923	185	738		

商業施設(その他)	科目	スクエアモール 鹿児島宇宿	熊本インター コミュニティSC	花畑SC	久留米東櫛原 SC	ケーズデンキ 鹿児島本店	マリノアシティ福岡 (マリナサイド棟)	第38期合計 (A)	第37期		予想	
									合計	差異	(C)	差異
									(B)	(A-B)	(注1)	(A-C)
	(運用期間)	第38期 (2023年3月1日~2023年8月31日) 184日						181日	3日			
	①不動産賃貸事業収益合計	253	89	40	74	105	177	742	765	▲22	742	▲0
	不動産賃貸収入	222	89	40	74	105	177	711	728	▲17		
	その他 不動産賃貸収入	31	0	-	-	0	-	31	36	▲5		
	②不動産賃貸事業費用合計	86	9	5	7	11	25	145	153	▲7	144	1
	外注委託費	38	2	1	2	1	1	48	48	▲0		
	修繕費	5	0	0	-	1	3	11	12	▲0		
	原状回復費	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	公租公課	16	5	3	4	7	18	56	57	▲0		
	損害保険料	0	0	0	0	0	0	2	2	0		
	水道光熱費	24	-	-	-	-	-	24	26	▲2		
	その他 不動産賃貸費用	0	0	0	-	0	0	3	6	▲3		
	③NOI(=①-②)	167	80	35	67	94	151	596	611	▲15	598	▲2
	④減価償却費	31	9	5	13	22	22	105	108	▲3		
	⑤賃貸事業利益(=③-④)	136	70	29	53	72	129	491	503	▲11		
	NOI利回り(対取得価格)	6.3%	6.7%	6.2%	6.3%(注2)	5.3%	5.8%	6.0%	6.1%	▲0.0%		
	資本的支出	1	-	1	-	0	1	4	17	▲13		

(注1)第37期決算発表時公表予想 (注2)2023年8月31日に譲渡した準共有持分55%部分は、期末時点での譲渡であるため、取得価格からは控除せずに算出しています。

賃貸事業収支（オフィスビル・その他）

（単位：百万円）

科 目	キャナルシティ ・ビジネス センタービル	呉服町 ビジネス センター	サニックス 博多ビル	大博通り ビジネス センター	東比恵 ビジネス センター	天神西通り センタービル	天神ノース フロントビル	東比恵 ビジネス センターⅡ	東比恵 ビジネス センターⅢ	天神西通り ビジネスセンター （底地）	博多筑紫通り センタービル	熊本 イースト フロントビル	第38期 合計 (A)	第37期 合計 (B)	差 異 (A-B)	予 想 (C) (注1)	差 異 (A-C)
	第38期 (2023年3月1日～2023年8月31日)													181日	3日		
	(運用期間)	184日															
①不動産賃貸事業収益合計	656	594	209	331	372	86	152	162	98	159	146	44	3,014	2,894	120	3,009	5
不動産賃貸収入	652	525	197	331	343	86	123	149	94	159	132	40	2,836	2,731	104		
その他 不動産賃貸収入	3	69	12	0	29	-	28	12	3	-	13	4	178	162	15		
②不動産賃貸事業費用合計	240	184	69	107	147	20	54	53	20	21	51	14	984	985	▲0	987	▲2
外注委託費	158	74	19	56	42	1	10	18	7	-	18	7	416	405	10		
修繕費	19	4	9	18	12	1	8	1	0	-	7	1	85	66	19		
原状回復費	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
公租公課	50	40	25	29	16	16	9	9	7	21	12	-	238	214	23		
損害保険料	1	2	0	1	1	0	0	0	0	-	0	0	12	11	1		
水道光熱費	8	60	12	-	29	-	24	11	4	-	8	3	164	169	▲4		
その他 不動産賃貸費用	1	1	1	2	44	0	0	10	0	0	3	0	67	118	▲51		
③NOI(=①-②)	416	409	140	223	225	66	98	109	77	137	94	30	2,030	1,909	120	2,021	8
④減価償却費	81	71	29	64	44	10	32	40	19	-	16	10	419	404	15		
⑤賃貸事業利益(=③-④)	335	337	111	159	181	55	65	68	58	137	78	19	1,610	1,504	105		
NOI利回り(対取得価格)	5.7%	7.3%	6.4%	6.4%	7.7%	5.1%	7.0%	5.2%	4.7%	3.6%	4.4%	4.9%	5.9%	5.6%	0.2%		
資本的支出	97	90	8	106	49	0	0	0	-	-	2	-	355	128	227		

科 目	鳥栖 ロジスティクス センター	ロジシティ みなと香椎	ロジシティ 久山	ロジシティ 若宮	アメックス 赤坂門 タワー	シティ ハウス けやき通り	Aqualia 千早	ディー・ ウイング タワー	グラン フォーレ 薬院南	アクシオン 別府駅前 プレミアム	ホテル フォルツァ 大分	ティサージ ホテル 那覇	第38期 合計 (A)	第37期 合計 (B)	差 異 (A-B)	予 想 (C) (注1)	差 異 (A-C)
	第38期 (2023年3月1日～2023年8月31日)													181日	3日		
	(運用期間)	184日															
①不動産賃貸事業収益合計					67	39	60	117	38	13	63	45	969	938	30	984	▲15
不動産賃貸収入					66	39	58	112	37	10	63	45	913	891	22		
その他 不動産賃貸収入					1	0	2	5	1	2	-	-	55	46	8		
②不動産賃貸事業費用合計					17	8	15	24	13	2	30	10	221	203	18	222	▲0
外注委託費					5	2	3	7	2	0	0	0	35	34	0		
修繕費	非開示 (注2)	非開示 (注2)	非開示 (注2)	非開示 (注2)	1	0	2	1	1	-	1	3	16	19	▲2		
原状回復費					1	-	3	2	3	0	-	-	10	10	0		
公租公課					5	3	4	8	2	-	7	5	90	88	1		
損害保険料					0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0		
水道光熱費					0	0	0	2	0	0	-	-	30	32	▲2		
その他 不動産賃貸費用					1	1	1	2	2	0	20	0	33	12	20		
③NOI(=①-②)	38	188	125	72	50	30	44	92	25	11	32	34	747	735	12	762	▲14
④減価償却費	9	38	38	15	14	10	12	18	10	6	25	24	224	212	11		
⑤賃貸事業利益(=③-④)	29	149	87	56	35	19	32	74	14	4	7	10	523	523	0		
NOI利回り(対取得価格)	6.2%	4.6%	5.0%	8.5%	4.9%	5.5%	7.0%	6.6%	4.7%	2.1%	4.3%	2.5%	5.0%	5.1%	▲0.1%		
資本的支出	1	-	0	1	23	0	6	3	79	-	201	0	318	54	263		

(注1)第37期決算発表時公表予想 (注2)テナントの承諾が得られていないため非開示としています。

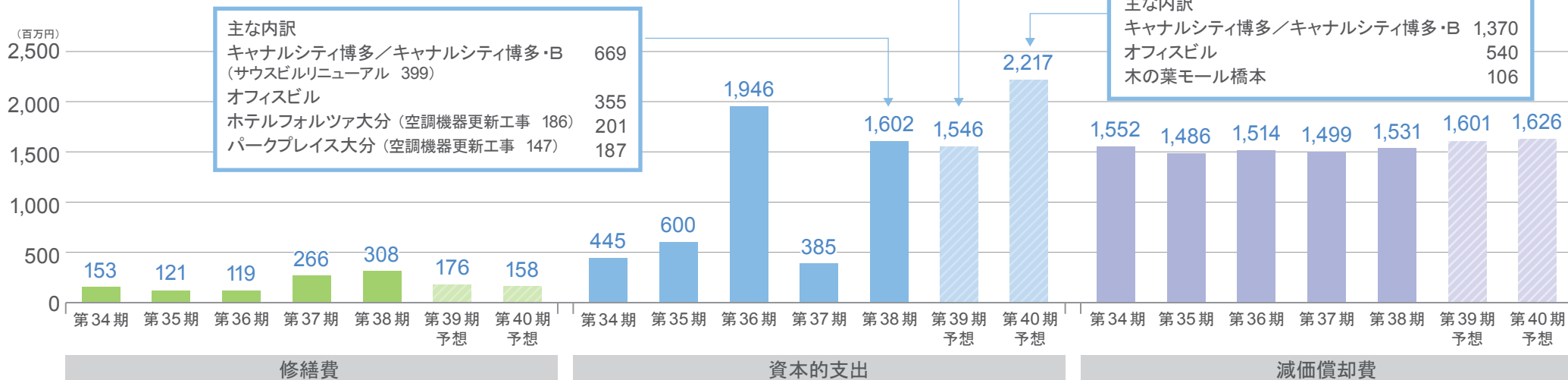
賃貸事業収支（全体）及び修繕費・資本的支出・減価償却費

(単位:百万円)

科目 (運用期間)	第38期合計 (A)	第37期合計 (B)	差異 (A-B)	予想 (C)(注)	差異 (A-C)
	2023年3月1日～ 2023年8月31日 184日	2022年9月1日～ 2023年2月28日 181日	3日		
①不動産賃貸事業収益合計	8,852	8,921	▲69	8,767	84
不動産賃貸収入	8,154	8,233	▲79		
その他 不動産賃貸収入	697	687	9		
②不動産賃貸事業費用合計	3,700	3,647	53	3,734	▲34
外注委託費	1,765	1,746	18		
修繕費	308	266	41		
原状回復費	10	10	0		
公租公課	752	719	32		
損害保険料	42	41	1		
水道光熱費	575	579	▲4		
その他 不動産賃貸費用	245	283	▲38		
③NOI(=①-②)	5,152	5,274	▲122	5,033	118
④減価償却費	1,531	1,499	31		
⑤賃貸事業利益(=③-④)	3,620	3,774	▲154		
NOI利回り(対取得価格)	4.9%	5.1%	▲0.2%		
資本的支出	1,602	385	1,216		

(注)第37期決算発表時公表予想

修繕費・資本的支出・減価償却費



ポートフォリオ一覧①

2023年8月31日現在

	物件名称	築年数(注1)	取得価格 (百万円)(注2)	投資比率	取得日	取得先(注3)	総賃貸可能面積 (㎡)(注4)	稼働率 期末時点	テナント総数 期末時点(注5)	期末時点主要テナント
商業施設	キャナルシティ博多	27年 4ヶ月	32,000	15.4%	2004/11/9	スポンサー	48,176.33	97.6%	22	ワシントンホテル、ユナイテッド・シネマ
	キャナルシティ博多・B	27年 4ヶ月	21,060	10.1%	2011/3/2	外部	31,141.44	96.7%	42	OPA、MUJIキャナルシティ博多
	パークプレイス大分	21年 5ヶ月	19,610	9.4%	2004/11/9	スポンサー	121,184.13	99.9%	101	イオン、ケーズデンキ
	サンリブシティ小倉	18年 5ヶ月	6,633	3.2%	2005/7/1	外部	61,450.22	100.0%	1	サンリブ
	木の葉モール橋本	12年 5ヶ月	10,000	4.8%	2018/3/1	スポンサー	22,191.52	100.0%	124	サンリブ、スーパースポーツゼビオ
	スクエアモール鹿児島宇宿	16年 11ヶ月	5,300	2.6%	2006/9/28	スポンサー	14,602.88	100.0%	13	スポーツデポ/ゴルフ5、エディオン
	熊本インターコミュニティSC	16年 9ヶ月	2,400	1.2%	2006/11/30	スポンサー	6,968.66	100.0%	2	スポーツデポ/ゴルフ5、スターバックス
	花畑SC	16年 1ヶ月	1,130	0.5%	2007/9/3	スポンサー	2,801.15	100.0%	2	ボンラパス、マツモトキヨシ
	久留米東櫛原SC	15年 8ヶ月	750	0.4%	2008/2/1	スポンサー	1,940.34	100.0%	1	スポーツデポ/ゴルフ5
	ケーズデンキ鹿児島本店	15年 9ヶ月	3,550	1.7%	2008/3/27	外部	7,296.17	100.0%	1	ケーズデンキ
	マリノアシティ福岡(マリナサイド棟)	22年 10ヶ月	5,250	2.5%	2015/5/1	スポンサー	33,069.82	100.0%	1	エフ・ジェイエンターテインメントワークス
商業施設合計又は平均	—	107,683	51.9%	—	—	350,822.66	99.3%	310	—	
オフィスビル	キャナルシティ・ビジネスセンタービル	27年 4ヶ月	14,600	7.0%	2004/11/9	スポンサー	23,031.14	100.0%	64	ベルシステム24、TOTO
	呉服町ビジネスセンター	19年 10ヶ月	11,200	5.4%	2004/11/9	スポンサー	19,905.34	97.7%	34	SMBCコンシューマーファイナンス、三井住友銀行
	サニックス博多ビル	22年 5ヶ月	4,400	2.1%	2005/9/30	外部	6,293.75	100.0%	16	サニックス、西日本シティ銀行
	大博通りビジネスセンター	21年 5ヶ月	7,000	3.4%	2006/3/16	スポンサー	14,677.35	99.2%	(注6) 70	NTTコムウェア、東京海上日動事務アウトソーシング
	東比恵ビジネスセンター	14年 6ヶ月	5,900	2.8%	2009/3/13	外部+スポンサー	13,482.02	99.4%	24	フレレストホールディングス、富士通
	天神西通りセンタービル	26年 11ヶ月	2,600	1.3%	2013/2/1	外部	3,339.32	100.0%	1	西日本シティ銀行
	天神ノースフロントビル	13年 7ヶ月	2,800	1.3%	2013/3/28	外部	5,261.64	100.0%	12	楽天カード、ブルデンシャル生命保険
	東比恵ビジネスセンターⅡ	7年 6ヶ月	4,230	2.0%	2018/3/1	スポンサー	6,214.77	100.0%	2	富士通、セブン-イレブン・ジャパン
	東比恵ビジネスセンターⅢ	3年 5ヶ月	3,290	1.6%	2020/5/29	スポンサー	2,981.14	100.0%	6	三井ホーム、大日本コンサルタント
	天神西通りビジネスセンター(底地)	—	7,700	3.7%	2021/6/1	スポンサー	1,343.51	100.0%	1	福岡地所
	博多筑紫通りセンタービル	31年 7ヶ月	4,320	2.1%	2022/3/1	外部	5,994.41	92.8%	13	ヤマエ久野、ウエスコ
	熊本イーストフロントビル	29年 8ヶ月	1,450	0.7%	2023/3/28	外部	3,139.20	82.0%	6	三井住友海上火災保険、日能研
オフィスビル合計又は平均	—	69,490	33.5%	—	—	105,663.59	98.4%	249	—	
その他	鳥栖ロジスティクスセンター	15年 3ヶ月	1,250	0.6%	2014/3/28	外部	4,173.29	100.0%	1	非開示
	ロジシティみなと香椎	9年 4ヶ月	8,150	3.9%	2015/3/27	外部	43,233.72	100.0%	2	福岡ロジテム、F-LINE
	ロジシティ久山	8年 7ヶ月	5,050	2.4%	2017/6/1	外部	24,505.65	100.0%	1	加勢
	ロジシティ若宮	18年 6ヶ月	1,700	0.8%	2020/6/30	外部	17,556.32	100.0%	1	司企業
	アメックス赤坂門タワー	18年 1ヶ月	2,060	1.0%	2006/9/1	外部	4,821.25	100.0%	67	—
	シティハウスけやき通り	15年 9ヶ月	1,111	0.5%	2007/12/20	外部	2,710.86	100.0%	42	—
	Aqualia 千早	15年 8ヶ月	1,280	0.6%	2012/3/1	外部	5,619.69	95.7%	101	—
	ディー・ウイングタワー	17年 6ヶ月	2,800	1.3%	2013/3/1	外部	7,187.59	96.1%	131	—
	グランフォーレ薬院南	15年 8ヶ月	1,100	0.5%	2014/11/4	外部	2,496.06	97.0%	96	—
	アクシオン別府駅前プレミアム	0年 5ヶ月	1,525	0.7%	2023/4/27	外部	1,937.89	55.1%	15	—
	ホテルフォルツァ大分	15年 0ヶ月	1,530	0.7%	2013/3/1	スポンサー	5,785.44	100.0%	1	エフ・ジェイ ホテルズ
	ティサージホテル那覇	5年 6ヶ月	2,835	1.4%	2018/12/7	外部	3,758.76	100.0%	1	ネストホテルジャパン
	その他合計又は平均	—	30,391	14.6%	—	—	123,786.52	98.8%	459	—
全物件合計又は平均	20年 11ヶ月	207,564	100.0%	—	—	580,272.77	99.1%	1,018	—	

(注1)「築年数」は、期末時点起算日として記載しています。土地のみを保有している物件は、「—」としています。全物件合計又は平均の数値は、加重平均を記載しています。

(注2)「取得価格」は、いずれも諸経費(手数料、公租公課等)を含まない金額で記載しています。

(注3)「スポンサー」によるアレンジにて取得した物件をスポンサーとして記載しています。

(注4)土地のみを保有している物件は、土地の賃貸借面積を記載しています。

(注5)「テナント総数」は、駐車場等の契約を除いた数値を記載しています。

(注6)大博通りビジネスセンターは住宅棟を併設したオフィスビルであり、オフィスのテナント13、住宅のテナント57です。

ポートフォリオ一覧②

商業施設
11件



キャナルシティ博多



キャナルシティ博多・B



パークプレイス大分



サンリブシティ小倉



木の葉モール橋本



スクエアモール鹿児島宇宿



熊本インターコミュニティSC



花畑SC



久留米東櫛原SC



ケーズデンキ鹿児島本店



マリノアシティ福岡
(マリナサイド棟)

オフィスビル
13件



キャナルシティ・
ビジネスセンタービル



呉服町ビジネスセンター



サニックス博多ビル



大博通りビジネスセンター



東比恵ビジネスセンター



天神西通りセンタービル

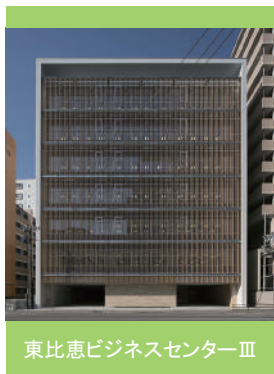


天神ノースフロントビル



東比恵ビジネスセンターⅡ

ポートフォリオ一覧③



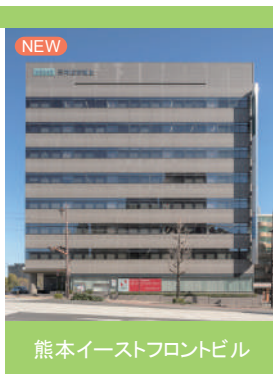
東比恵ビジネスセンターⅢ



天神西通りビジネスセンター
(底地)



博多筑紫通りセンタービル



熊本イーストフロントビル



博多FDビジネスセンター(注1)
(注1) 2023年9月1日に取得しました。



その他
12件



鳥栖ロジスティクスセンター



ロジシティみなと香椎



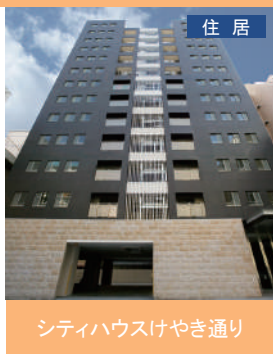
ロジシティ久山



ロジシティ若宮



アメックス赤坂門タワー



シティハウスけやき通り



Aqualia 千早



ディー・ウイングタワー



グランフォーレ薬院南



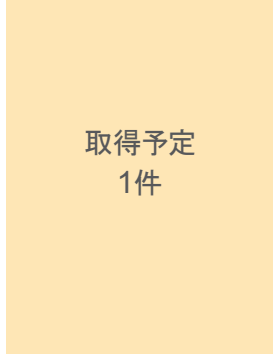
アクション別府駅前
プレミアム



ホテルフォルツァ大分



ティサージホテル那覇



取得予定
1件



(注2) 2029年3月31日に取得予定です。
(仮称)アイランドシティ
港湾関連用地(底地)(注2)



取得価格合計
2,216億円
(2023年9月1日時点)

ポートフォリオマップ



1 キャナルシティ博多

所在地: 福岡市博多区住吉一丁目

2 キャナルシティ博多・B

所在地: 福岡市博多区住吉一丁目

3 パークプレイス大分

所在地: 大分市公園通り西二丁目他

4 サンリブシティ小倉

所在地: 北九州市小倉南区上葛原二丁目

5 木の葉モール橋本

所在地: 福岡市西区橋本二丁目

6 スクエアモール鹿児島宇宿

所在地: 鹿児島市宇宿二丁目

7 熊本インターコミュニティSC

所在地: 熊本市東区神園一丁目

8 花畑SC

所在地: 福岡市南区花畑四丁目

9 久留米東櫛原SC

所在地: 福岡県久留米市東櫛原町

10 ケーズデンキ鹿児島本店

所在地: 鹿児島市東開町

11 マリノアシティ福岡 (マリナサイド棟)

所在地: 福岡市西区小戸二丁目

12 キャナルシティビジネスセンタービル

所在地: 福岡市博多区住吉一丁目

13 呉服町ビジネスセンター

所在地: 福岡市博多区上呉服町

14 サニックス博多ビル

所在地: 福岡市博多区博多駅東二丁目

15 大博通りビジネスセンター

所在地: 福岡市博多区御供所町

16 東比恵ビジネスセンター

所在地: 福岡市博多区東比恵三丁目

20 東比恵ビジネスセンターⅢ

所在地: 福岡市博多区東比恵四丁目

21 天神西通りビジネスセンター (底地)

所在地: 福岡市中央区天神二丁目

22 博多筑紫通りセンタービル

所在地: 福岡市博多区博多駅南二丁目

NEW 2023年3月28日に取得しました。

23 熊本イーストフロントビル

所在地: 熊本市中央区新屋敷一丁目

NEW 2023年9月1日に取得しました。

24 博多FDビジネスセンター

所在地: 福岡市博多区綱場町

25 鳥栖ロジスティクスセンター

所在地: 佐賀県鳥栖市姫方町

26 ロジシティみなと香椎

所在地: 福岡市東区みなと香椎二丁目

27 ロジシティ久山

所在地: 福岡県糟屋郡久山町

28 ロジシティ若宮

所在地: 福岡県宮若市下有木

29 アメックス赤坂門タワー

所在地: 福岡市中央区舞鶴二丁目

30 シティハウスけやき通り

所在地: 福岡市中央区警固二丁目

商業施設 オフィスビル その他

31 Aqualia 千早

所在地: 福岡市東区千早四丁目

32 ディー・ウイングタワー

所在地: 福岡市中央区大名二丁目

33 グランフォーレ薬院南

所在地: 福岡市中央区平尾一丁目

NEW 2023年4月27日に取得しました。

34 アクション別府駅前プレミアム

所在地: 福岡市城南区別府三丁目

35 ホテルフォルツァ大分

所在地: 大分市中央町一丁目

36 ティサージホテル那覇

所在地: 那覇市西二丁目

2029年3月31日に取得予定です。

A (仮称) アイランドシティ港湾関連地 (底地)

所在地: 福岡市東区みなと香椎三丁目

資産の譲渡（久留米東櫛原 SC）

譲渡（予定）資産の概要

所在地	福岡県久留米市東櫛原町 370 番 3 号
契約日	2022 年 10 月 26 日
譲渡先	非開示 (注)
譲渡（予定）日	①2023 年 2 月 28 日（準共有持分 15%）（完了） ②2023 年 8 月 31 日（準共有持分 55%）（完了） ③2023 年 11 月 30 日（準共有持分 30%）
鑑定評価額	2,740 百万円（2022 年 8 月 31 日時点）
帳簿価額	1,966 百万円（2022 年 8 月 31 日時点）
譲渡（予定）価格	2,740 百万円 ①411 百万円 ②1,507 百万円 ③822 百万円
取得日	2008 年 2 月 1 日
取得価格	2,500 百万円
敷地面積	7,182.44 m ²
総賃貸可能面積	6,467.80 m ²

(注) 譲渡先より開示の承諾を得られていないため非開示としています。



譲渡理由

① 含み益の実現（総額 773 百万円）と分配金水準の安定

- ・帳簿価額を大きく上回る含み益を実現。
- ・3期に分けて段階的に譲渡を行うことで、保有物件の大規模工事に伴うダウンタイムの吸収と安定した分配金を両立。

② 商業施設の投資比率引き下げ

- ・運用ガイドライン（2019 年 3 月変更）に基づき、商業施設の投資比率を足許 50%未満に引き下げること为目标にリスクを分散させる。
- ・商業施設以外の投資タイプ取得の検討余地を拡げる機会を創出できる。

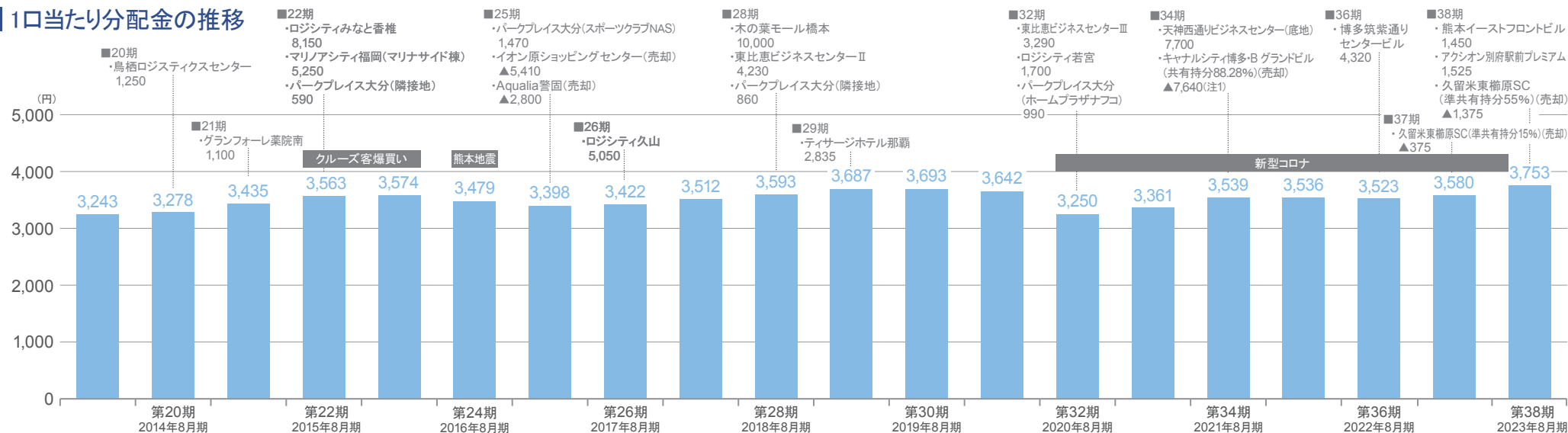
③ 譲渡資金の活用

- ・内部成長のための設備投資等に活用。

中長期的に安定した収益を投資主に提供し、
投資主最善の利益を目指す

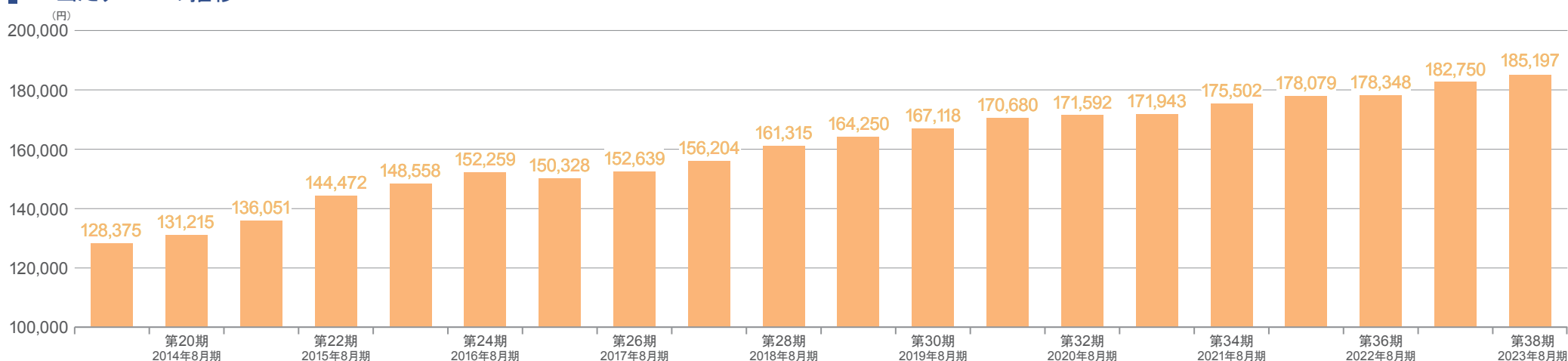
1口当たり分配金・NAVの推移

1口当たり分配金の推移



※物件の金額は百万円単位で記載しています。
(注1) 金額は譲渡時の鑑定評価額を記載しています。

1口当たりNAVの推移 (注2)

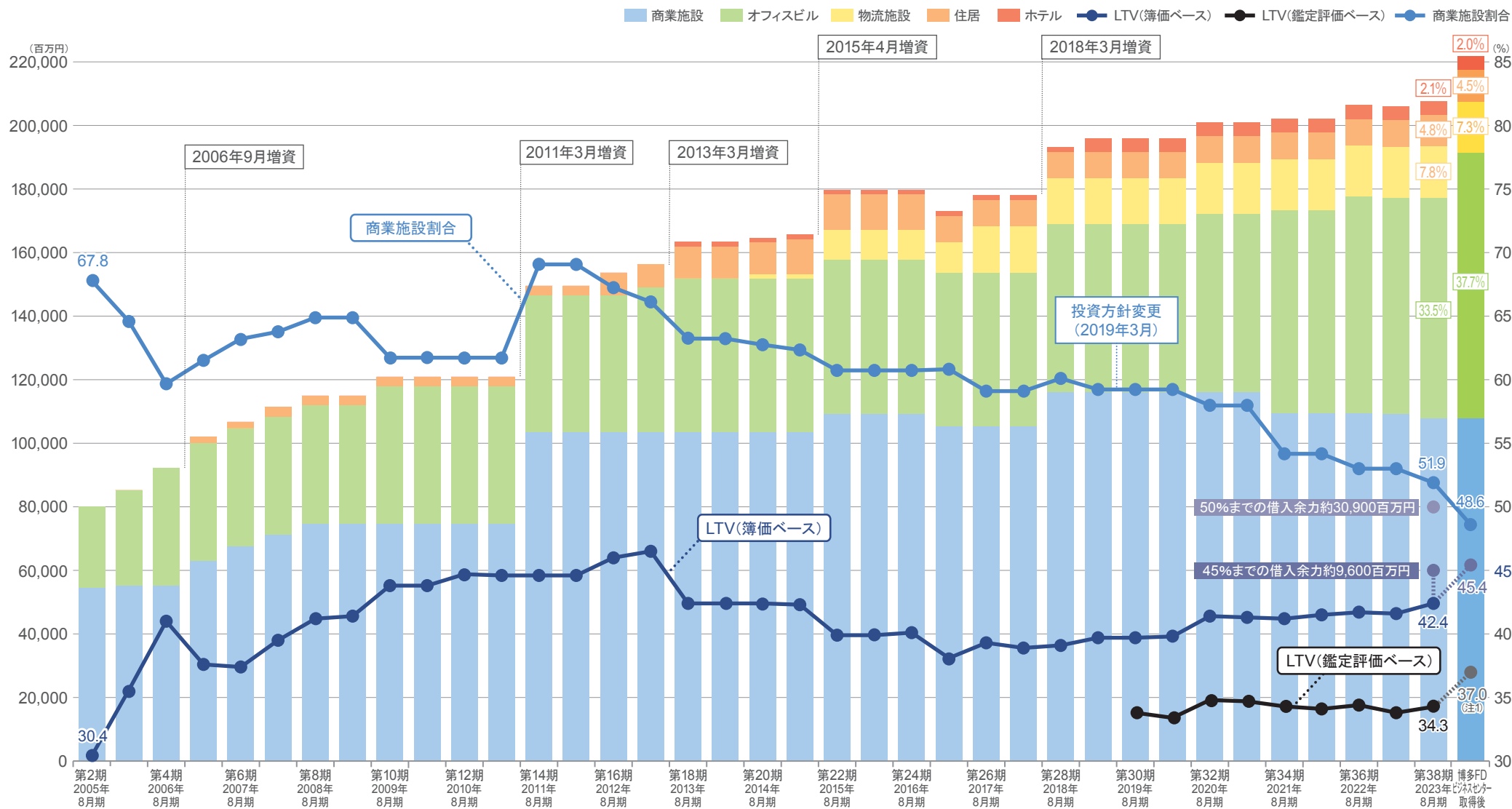


※ 2014年3月1日を効力発生日として、本投資法人の投資口1口につき5口の割合をもって分割しています。第19期以前の1口当たり分配金及び1口当たりNAVについては5分割した値で記載しています。

(注2) 1口当たりNAV = (純資産額 + 含み損益 - 分配金総額) ÷ 期末発行済投資口総数

投資タイプ毎の資産規模の推移（取得価格ベース）

ポートフォリオに占める商業施設の割合が50%を下回る



※有限会社シーシーエイチブリッジを営業者とする優先匿名組合出資持分は、第14期に償還されたため、取得資産から除いて記載しています。また、合同会社FRC1を営業者とする匿名組合出資持分は、第26期に償還されたため、取得資産から除いて記載しています。

※主な物件の用途に基づいて分類しています。ワシントンホテルはキャナルシティ博多のテナントの一つであり、商業施設に含まれています。

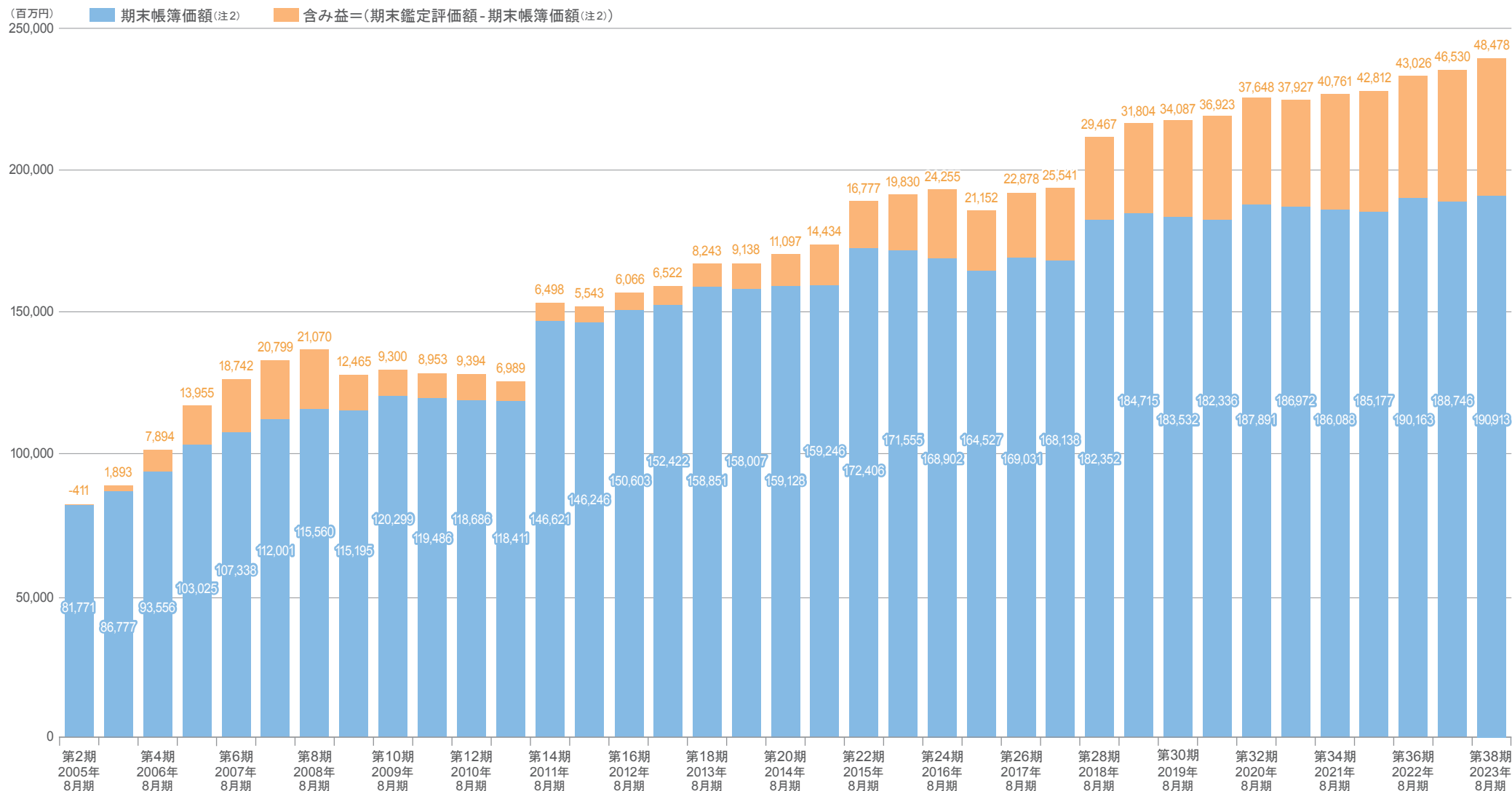
(注1)博多FDビジネスセンター取得後のLTV(鑑定評価ベース)の含み益は、取得時の鑑定評価額と取得価格との差額で算出しています。

(注2)第38期末時点から博多FDビジネスセンターの取得価格を加えて算出しています。また、2023年11月30日に譲渡予定の久留米東櫛原SC準共有持分30%は控除していません。

鑑定評価額の推移（含み益）

含み益48,478百万円、含み益割合25.4%^(注1)

鑑定評価額の推移

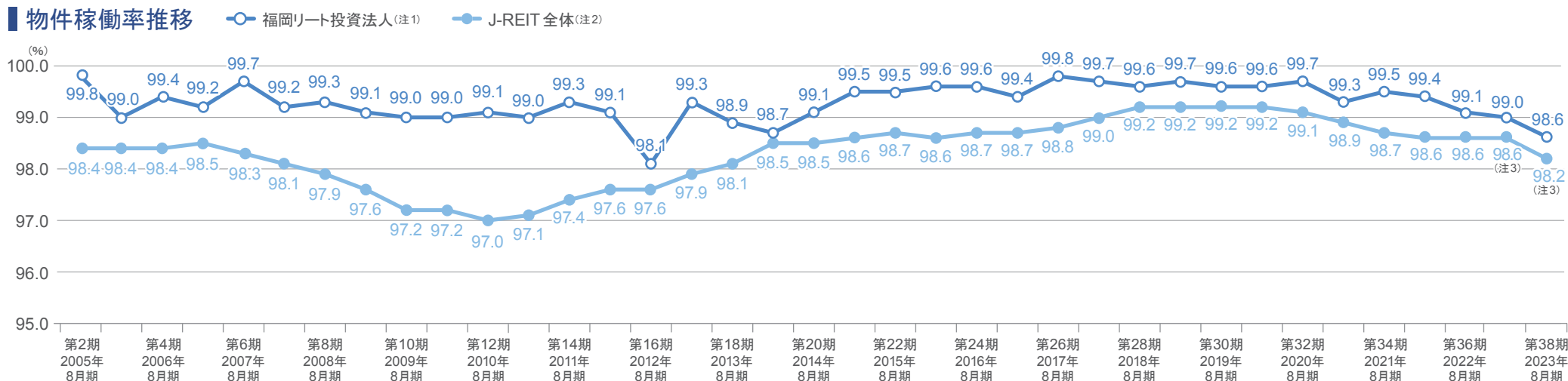


(注1) 含み益割合=(期末鑑定評価額-期末帳簿価額(注2))÷期末帳簿価額(注2)

(注2) 期末帳簿価額には信託建設仮勘定を含みません。

物件稼働率推移

J-REIT平均を上回る稼働率を維持



(注1) 本投資法人の稼働率は、第2期から第4期までは、各期末時点の稼働率、第5期から第38期までは期中の加重平均稼働率です。総賃貸可能面積に対して総賃貸面積が占める割合を記載しています。
 (注2) J-REIT全体の稼働率は、一般社団法人不動産証券化協会「AJPI-J-REIT データブック」に基づいて各期末時点の稼働率を記載しています。
 (注3) 第37期、第38期のJ-REIT全体の稼働率は速報値です。第38期は2023年5月分を記載しています。

物件タイプ毎の稼働率 (期中加重平均)

物件タイプ	投資割合 (取得価格ベース)	第34期 ～2021年8月31日	第35期 ～2022年2月28日	第36期 ～2022年8月31日	第37期 ～2023年2月28日	第38期 ～2023年8月31日
商業施設	51.9%	99.5%	99.3%	98.8%	98.9%	98.6%
オフィスビル	33.5%	99.8%	99.8%	99.4%	98.6%	98.4%
その他	14.6%	99.3%	99.4%	99.4%	99.5%	98.9%
全体	100.0%	99.5%	99.4%	99.1%	99.0%	98.6%

賃貸面積上位テナント

■ 普通借家契約 ■ 定期借家契約 2023年8月31日現在

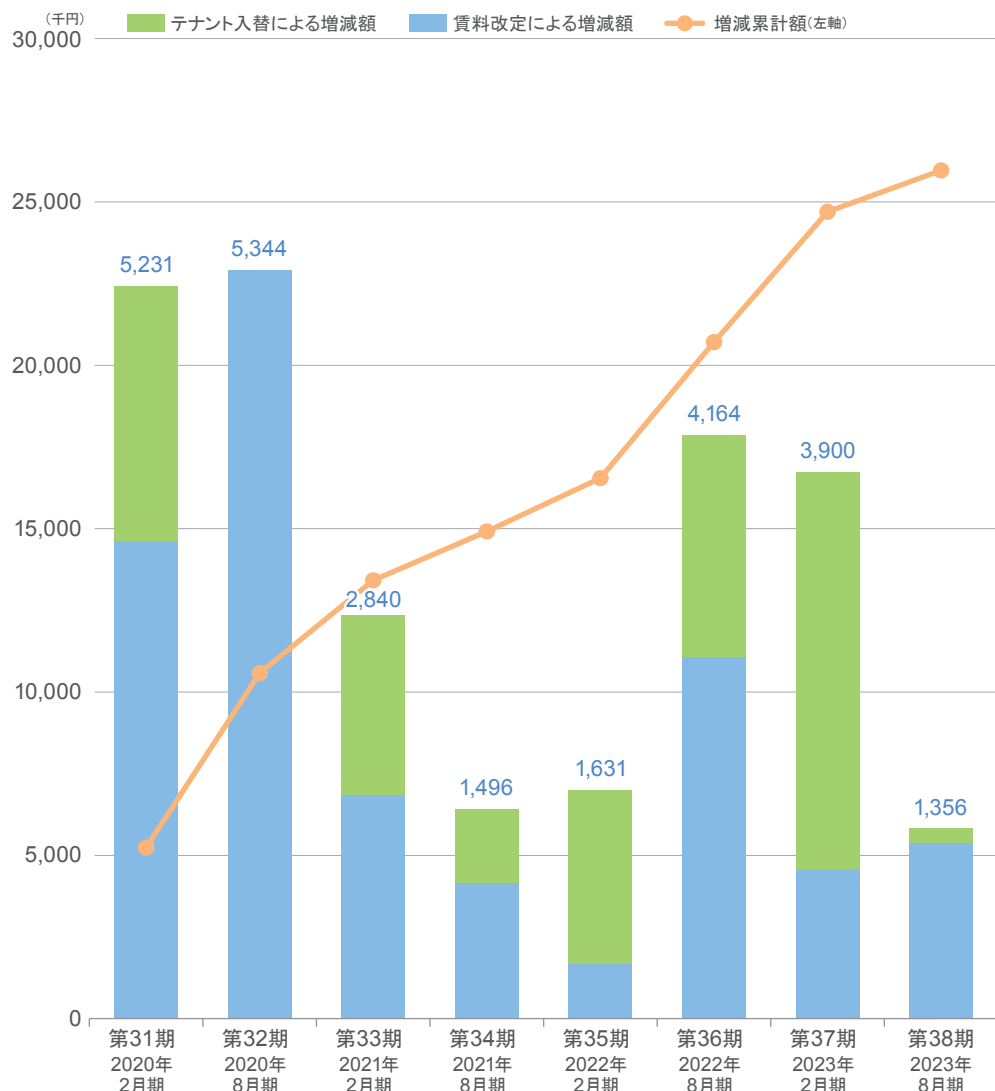
テナント名	店舗名	賃貸比率 (注1)	第39期 ~2024年2月	第40期 ~2024年8月	第41期 ~2025年2月	契約残存 年数(年) (注2)
1	株式会社サンリブ	サンリブ	11.3%	●サンリブシティ小倉		18
				●木の葉モール橋本		7
2	イオン九州株式会社	イオン	10.2%	●パークプレイス大分		0
3	株式会社エフ・ジェイエンターテインメントワークス	—	6.2%(注3)	●マリノアシティ福岡(マリナサイド棟)		11
4	株式会社キャナルシティ・オーパ	OPA	4.5%	●キャナルシティ博多		0
				●キャナルシティ博多・B		1
5	株式会社加勢	—	4.3%	●ロジシティ久山		1
6	株式会社アルペン	Alpen FUKUOKA スポーツデポ ゴルフ5	4.1%	●キャナルシティ博多		10
				●スクエアモール鹿児島宇宿		3
				●熊本インターコミュニティSC		3
				●久留米東櫛原SC		4
7	福岡ロジテム株式会社	—	4.0%	●ロジシティみなと香椎		1
8	F-LINE 株式会社	—	3.5%	●ロジシティみなと香椎		非開示 (注4)
9	司企業株式会社	—	3.1%	●ロジシティ若宮		7
10	株式会社ケーズホールディングス	ケーズデンキ	2.4%	●パークプレイス大分		1

(注1) 賃貸比率は「テナント別の賃貸面積/総賃貸面積」にて算出していますが、テナント別の賃貸面積には住居部分を含みません。
 (注2) 契約残存年数については、2023年8月31日現在の賃貸借契約の残存期間のうち、1年未満の期間を切捨てて記載しています。
 (注3) 6.2%のうちオフィス部分等を0.4%含みます(キャナルシティ・ビジネスセンタービル、パークプレイス大分において、7件の普通借家契約を締結しています)。
 (注4) テナントの承諾が得られていないため非開示としています。

オフィスの賃料改定及びテナント入替の状況

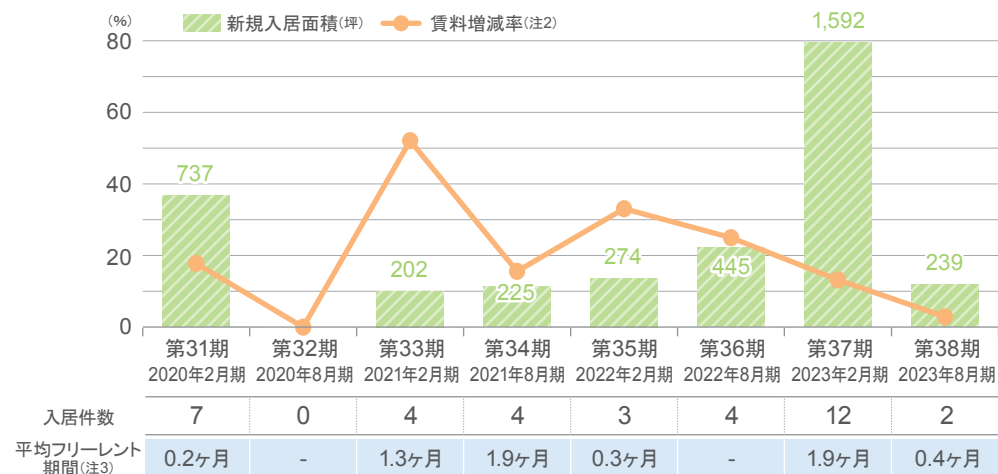
引き続き賃料改定に伴う増額を実現

■ 賃料改定及びテナント入替による月額賃料の増減額推移 (注1)



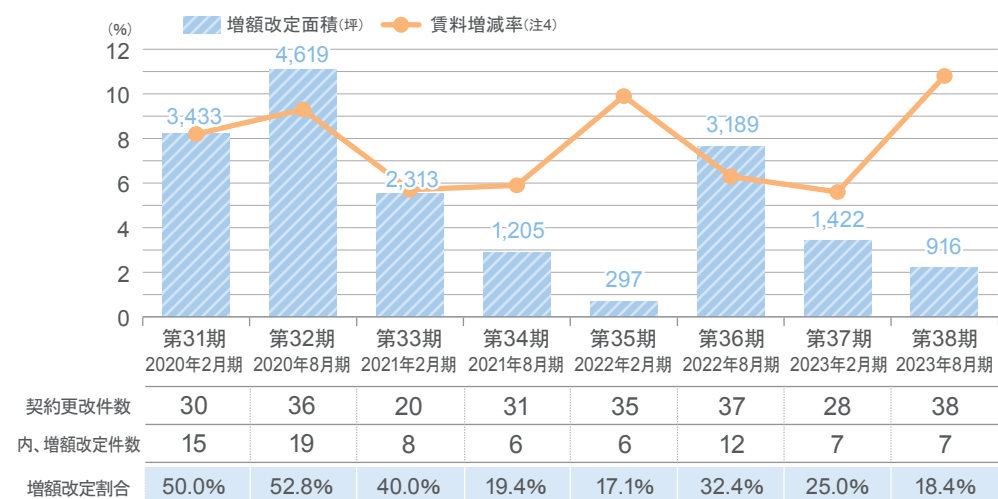
※各期末時点で保有するオフィスビル全物件を対象とします(ただし、「キャナルシティ・ビジネスセンタービル」は2階以上のオフィス区画を対象としています)。
 (注1) 賃料減額改定はありません。

■ 新規入居面積及び入居件数推移



(注2) テナント入替時の従前テナントの契約賃料に対する賃料増減率を算出しています。
 (注3) 新規契約のうちフリーレント期間の平均値を算出しています。

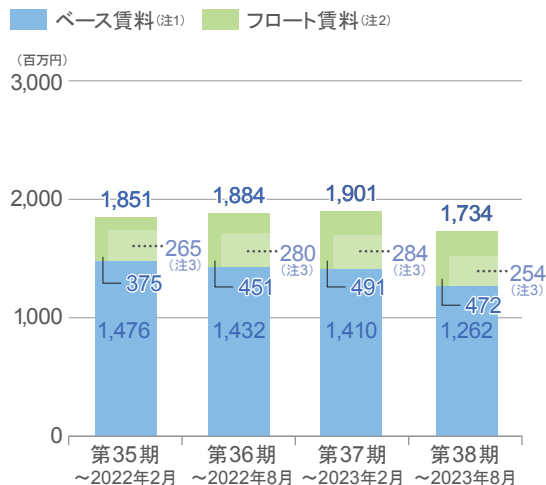
■ 賃料増額改定面積及び増額件数推移



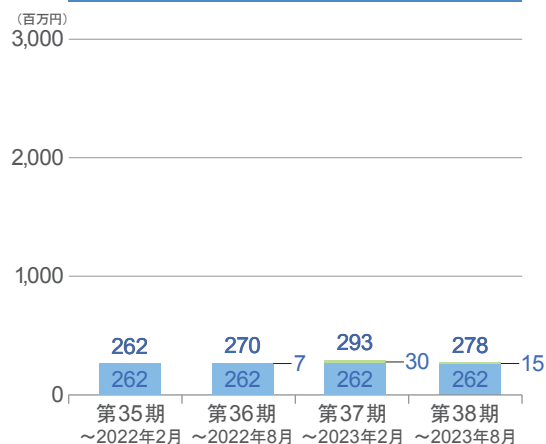
(注4) 賃料改定時の従前賃料に対する賃料増減率を算出しています。

フロート賃料構成比

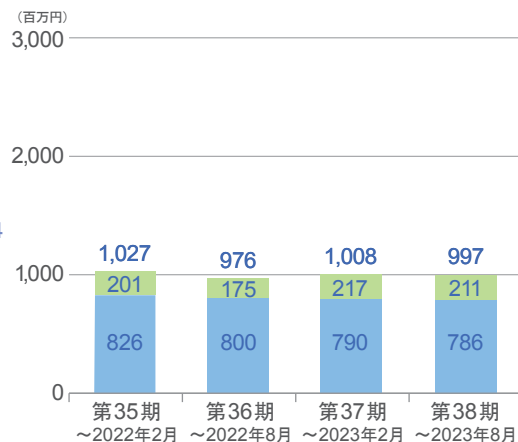
■ アクティブ商業物件別賃料構成比



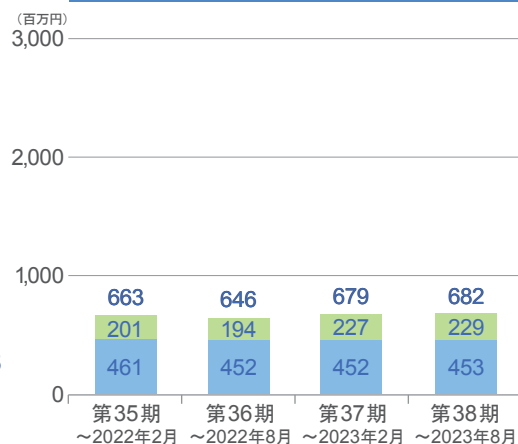
■ キャナルシティ博多/キャナルシティ博多・B



■ サンリブシティ小倉



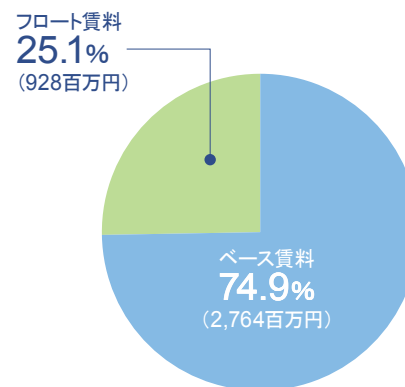
■ パークプレイス大分



■ 木の葉モール橋本

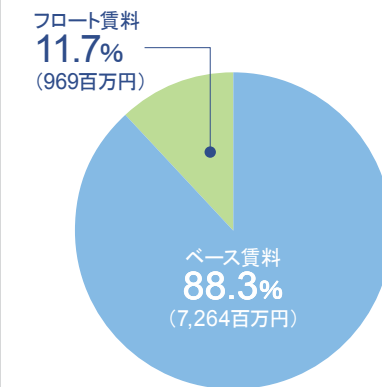
■ アクティブ商業の賃料構成比

◎ 第38期

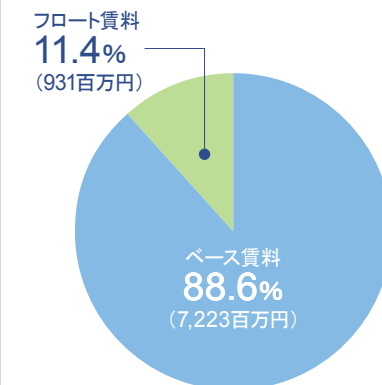


■ ポートフォリオ全体の賃料構成比

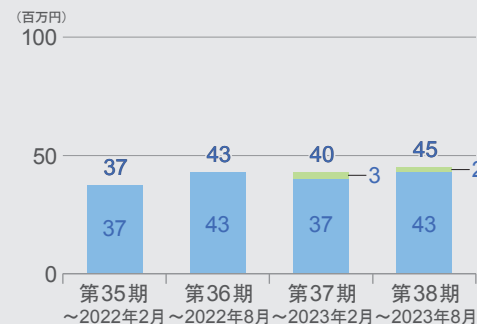
◎ 第37期



◎ 第38期



■ ティサージホテル那覇賃料構成比



■ ティサージホテル那覇

※本頁のフロート賃料は、キャナルシティ博多、キャナルシティ博多・B、パークプレイス大分、サンリブシティ小倉、木の葉モール橋本及びティサージホテル那覇の6物件を対象に記載しています。

(注1)「ベース賃料」とは、不動産賃貸収入からフロート賃料を控除した金額を指します。(注2)「フロート賃料」とは、売上歩合・GOP歩合等の変動賃料が設定されているテナント賃料のうち、テナントの売上金額等により変動する賃料の合計額を指します。

(注3) キャナルシティ博多/キャナルシティ博多・Bのフロート賃料に含まれる駐車場収入の金額を記載しています。

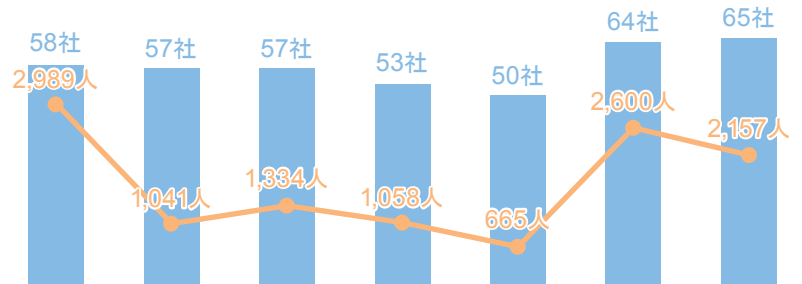
福岡市の取り組みとオフィスワーカーの状況

今後のオフィス需要を押し上げ

福岡市 本社機能・成長分野の立地企業数の推移

◎クリエイティブ関連産業、コールセンターの需要が強い

■ 立地企業数
● 雇用者数



(うち、主な分野・機能)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
クリエイティブ関連産業	28社	40社	38社	38社	30社	41社	47社
外国・外資系	18社	13社	14社	15社	12社	15社	12社
コールセンター	12社	9社	7社	2社	8社	8社	6社
本社機能等	3社	1社	7社	6社	0社	7社	5社
国際金融	—	—	—	—	—	6社	7社

出典：福岡市経済観光文化局『「本社機能・成長分野」の企業立地実績』の内容を基に、福岡リアルティにて作成しています。
※立地企業の内訳の数値は、一部重複しています。

[2022年度の主な立地企業]

- 国際金融、外国・外資系 / M-DAQ (エムダック) Japan 株式会社
Codo Advisory 株式会社
- クリエイティブ関連産業 / コミックスマート株式会社、株式会社スマレジ
プラチナゲームズ株式会社

[2023年に開設した主な企業]

- 玉山銀行 (台湾)：日本第2拠点として福岡支店を開設 (9月1日)
- エヌエヌ生命保険株式会社：BCP (事業継続計画) の一環で「テクノロジー・オペレーション・センター福岡」を開設 (9月1日)

出典：福岡市プレスリリースを基に、福岡リアルティにて作成しています。

福岡市の企業誘致に向けた取り組み

◎国際金融都市構想 (「TEAM FUKUOKA」2020年9月設立)

重点誘致分野の集積効果

- 資産運用業**
 - ☑ 海外からの**成長資金**をスタートアップや地場企業へ提供
 - ☑ **ファンド機能**の取り組みによる誘致促進、企業成長
- FinTech**
 - ☑ **イノベーション**の創出、高度な金融サービスの提供
 - ☑ **エンジニア、理工系人材**の活躍
- BCP 対応業務**
 - ☑ 日本における**国際金融拠点の分散化**
(東京一極集中の是正)

福岡市 4年連続 開業率日本一

開業率 **6.3%**
[2021年度]

1位
21大都市中

出典：福岡市経済観光文化局「福岡市経済の概況 (令和5年3月)」のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

福岡市グローバル創業・雇用創出特区 (国家戦略特区)

スタートアップ支援の取り組み

- スタートアップ法人減税 (市税・国税)
- スタートアップビザ
- スタートアップカフェ
- Fukuoka Growth Next
- グローバルスタートアップセンター



出典：福岡市公式「グローバル創業・雇用創出特区」特集ページのデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

商業施設の状況

商業施設の売上は増加

- キャナルシティ博多
- キャナルシティ博多・B



2022年9月～2023年8月
売上(年間計)^(注1)

212億円
昨年比 **+22.8%**
(一昨年比 **+29.8%**)

エンターテインメント性の高い都心型複合商業施設。中国を除くアジアのインバウンド需要等により売上は回復基調。

- パークプレイス大分



2022年9月～2023年8月
売上(年間計)^(注2)

260億円
昨年比 **+6.2%**
(一昨年比 **+7.9%**)

GMS等生活必需品取扱店を核とする郊外型モール。継続的な参加型イベント実施による集客強化を実施。

- 木の葉モール橋本



2022年9月～2023年8月
売上(年間計)

161億円
昨年比 **+10.8%**
(一昨年比 **+16.9%**)

スーパーマーケット等生活必需品取扱店を核テナントとする生活密着型モール。旅行や外出需要の復活により、サービス業態の店舗の売上が伸長。

- サンリブシティ小倉



2022年9月～2023年8月
売上(年間計)^(注3)

—
昨年比 **+1.3%**
(一昨年比 **+17.9%**)

スーパーマーケット等生活必需品取扱店を核テナントとする生活密着型モール。施設の特性に合わせた飲食店が好調。

(注1) 本投資法人が保有するキャナルシティ博多、キャナルシティ博多・Bの売上を合算して記載しています。キャナルシティ博多・Bの一部である「キャナルシティ博多・B グランドビル」の譲渡対象部分(共有持分88.28%)の売上を譲渡日である2021年6月1日以降減算しています。
(注2) 2020年7月より新規取得したホームプラザナフコ パークプレイス大分店の売上を加算しています。2021年3月よりこれまで売上開示を受けていなかった6店舗について、テナントから売上開示がなされるようになったため加算して表示しています。(注3) サンリブより実額を開示することについての了承が得られていないため、数値は記載していません。

売上昨年同期比

物件名称	2022年												2023年							
	3/6	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
		第36期 2022年8月期						第37期 2023年2月期						第38期 2023年8月期						
キャナルシティ博多/キャナルシティ博多・B ^(注1)				+16.8%								+27.8%							+18.0%	
パークプレイス大分 ^(注2)				+2.0%								+6.4%							+5.9%	
木の葉モール橋本				+8.3%								+10.5%							+11.1%	
サンリブシティ小倉				+18.2%								+0.4%							+2.1%	
その他商業施設 ^(注4)				+2.4%								+1.5%							+2.6%	

(注4) スクエアモール鹿児島宇宿、熊本インターコミュニティSC、花畑SC、久留米東櫛原SC、ケーズデンキ鹿児島本店、マリノアシティ福岡(マリナサイド棟)をその他商業施設として記載しています。

有利子負債一覧

■借入金の状況

種別	借入先	金額 (百万円)	借入日	返済期限	期間 (年)	固定・ 変動	利率(年率)
1年内返済予定 長期借入金	福岡銀行	2,000	2016/2/29	2024/2/29	8.0	変動	0.42000%
	西日本シティ銀行	2,000	2016/2/29	2024/2/29	8.0	固定	0.44000%(注1)
	みずほ銀行	500	2016/2/29	2024/2/29	8.0	固定	0.44000%(注1)
	SBI新生銀行	700	2016/7/29	2024/7/31	8.0	固定	0.40000%
長期借入金	日本政策投資銀行	2,000	2016/2/29	2025/2/28	9.0	固定	0.62000%
	三井住友信託銀行	300	2016/9/30	2025/9/30	9.0	変動	0.41855%
	シンジケートローン(注2)	2,100	2016/12/30	2025/12/30	9.0	固定	0.71750%
	福岡銀行	1,500	2016/12/30	2026/12/30	10.0	変動	0.42455%
	りそな銀行	600	2017/3/31	2027/3/31	10.0	固定	0.65846%
	肥後銀行	300	2017/3/31	2025/3/31	8.0	固定	0.48130%
	三菱UFJ銀行	800	2017/3/31	2025/3/31	8.0	固定	0.48130%
	シンジケートローン(注3)	6,000	2017/6/30	2026/6/30	9.0	固定	0.77677%
	日本政策投資銀行	1,800	2017/6/30	2026/12/31	9.5	固定	0.65000%
	福岡銀行	2,000	2017/7/31	2027/7/31	10.0	固定	0.79195%
	西日本シティ銀行	2,000	2017/7/31	2027/7/31	10.0	固定	0.89195%
	シンジケートローン(注4)	1,500	2017/8/31	2027/8/31	10.0	固定	0.84952%
	りそな銀行	2,000	2017/9/29	2027/9/30	10.0	固定	0.49350%(注1)
	福岡銀行	1,500	2017/12/29	2027/12/30	10.0	固定	0.81209%
	日本政策投資銀行	500	2017/12/29	2027/12/30	10.0	固定	0.68000%
	西日本シティ銀行	1,900	2018/2/28	2028/2/29	10.0	固定	0.75000%(注1)
	三井住友信託銀行	1,100	2018/2/28	2027/2/26	9.0	固定	0.60000%(注1)
	三菱UFJ銀行	1,500	2018/2/28	2026/2/27	8.0	固定	0.50000%
	りそな銀行	600	2018/2/28	2028/2/29	10.0	固定	0.56700%(注1)
	日本政策投資銀行	2,500	2018/3/1	2028/3/1	10.0	固定	0.72000%
	三菱UFJ銀行	600	2018/3/30	2026/3/31	8.0	固定	0.48000%
	西日本シティ銀行	600	2018/3/30	2028/3/31	10.0	固定	0.80219%
	福岡銀行	500	2018/3/30	2028/3/31	10.0	固定	0.80219%
	みずほ銀行	500	2018/3/30	2028/3/31	10.0	固定	0.63000%
	三井住友銀行	500	2018/3/30	2025/3/31	7.0	固定	0.50400%(注1)
	三菱UFJ銀行	500	2018/3/30	2027/3/31	9.0	固定	0.49000%
	三井住友信託銀行	400	2018/3/30	2027/3/31	9.0	固定	0.57600%(注1)
	大分銀行	400	2018/3/30	2028/3/31	10.0	固定	0.64630%
	広島銀行	400	2018/3/30	2028/3/31	10.0	固定	0.64630%
	SBI新生銀行	300	2018/3/30	2025/3/31	7.0	固定	0.40000%
三井住友銀行	500	2019/1/31	2029/1/31	10.0	固定	0.65528%	
三菱UFJ銀行	500	2019/1/31	2028/1/31	9.0	固定	0.59000%	
西日本シティ銀行	400	2019/1/31	2029/1/31	10.0	変動	0.42000%	
福岡銀行	300	2019/1/31	2029/1/31	10.0	変動	0.42000%	
大分銀行	200	2019/2/28	2026/2/27	7.0	固定	0.33380%	
鹿児島銀行	200	2019/2/28	2026/2/27	7.0	固定	0.33380%	
肥後銀行	200	2019/2/28	2026/2/27	7.0	固定	0.33380%	
りそな銀行	200	2019/2/28	2029/2/28	10.0	固定	0.48845%(注1)	
シンジケートローン(グリーンローン)(注5)	2,200	2019/7/31	2029/7/31	10.0	固定	0.52100%(注1)	

※変動金利での借入金は、2023年8月31日時点の適用利率を記載しています。 ※全て無担保・無保証、期限一括返済の借入です。

(注1) 金利を固定化するためのスワップ契約を締結しており、本スワップ契約を組合せた利率を記載しています。(注2) 借入先は、日本政策投資銀行、大分銀行、鹿児島銀行、北九州銀行、十八親和銀行、広島銀行です。(注3) 借入先は、福岡銀行、西日本シティ銀行、大分銀行、北九州銀行、宮崎銀行、十八親和銀行、伊予銀行です。

(注4) 借入先は、西日本シティ銀行、福岡銀行、大分銀行、北九州銀行、十八親和銀行、広島銀行です。(注5) 借入先は、みずほ銀行、佐賀銀行、肥後銀行です。(注6) 借入先は、みずほ銀行、広島銀行、北九州銀行、伊予銀行、肥後銀行です。(注7) 借入先は、日本政策投資銀行、西日本シティ銀行、福岡銀行です。

(注8) CO2削減目標を達成した場合、当初借入の利率から優遇された利率が2031年8月から返済日までの間に適用されます。(注9) 借入先は、福岡銀行、りそな銀行です。(注10) 借入先は、西日本シティ銀行、りそな銀行、大分銀行、長崎銀行、佐賀銀行です。

2023年8月31日現在

種別	借入先	金額 (百万円)	借入日	返済期限	期間 (年)	固定・ 変動	利率(年率)
長期借入金	農林中央金庫	1,500	2019/7/31	2027/11/29	7.5	固定	0.30300%
	三菱UFJ銀行	500	2019/9/25	2028/9/29	9.0	固定	0.48000%
	西日本シティ銀行	2,500	2020/2/28	2030/2/28	10.0	固定	0.48000%(注1)
	みずほ銀行	1,700	2020/2/28	2030/2/28	10.0	固定	0.42000%
	あおぞら銀行	1,000	2020/6/30	2030/6/28	10.0	固定	0.56922%
	りそな銀行	700	2020/6/30	2030/6/28	10.0	固定	0.56922%
	三菱UFJ銀行	500	2020/6/30	2029/6/29	9.0	固定	0.60000%
	鹿児島銀行	500	2020/6/30	2028/6/30	8.0	固定	0.46500%
	日本政策投資銀行	1,500	2020/7/31	2030/7/31	10.0	固定	0.53000%
	みずほ銀行	1,000	2020/7/31	2030/7/31	10.0	固定	0.47000%
	北九州銀行	500	2020/7/31	2030/7/31	10.0	固定	0.52630%
	伊予銀行	200	2020/7/31	2030/7/31	10.0	固定	0.52630%
	十八親和銀行(寄付型ローン)	1,000	2021/3/31	2031/3/31	10.0	固定	0.59000%
	シンジケートローン(注6)	5,300	2021/7/30	2031/7/31	10.0	固定	0.49000%(注1)
	みずほ信託銀行	1,000	2022/3/31	2032/3/31	10.0	変動	0.37455%
	三井住友銀行(グリーンローン)	1,600	2022/6/30	2029/6/29	7.0	固定	0.72625%
	シンジケートローン (サステナビリティ・リンク・ローン)(注7)	4,900	2022/8/31	2032/8/31	10.0	固定	0.91875%(注8)
	肥後銀行	700	2023/3/31	2028/3/31	5.0	固定	0.61500%
	肥後銀行	750	2023/3/31	2033/3/31	10.0	変動	0.37455%
	広島銀行	500	2023/6/30	2029/6/29	6.0	固定	0.54125%
広島銀行	1,000	2023/6/30	2030/6/28	7.0	固定	0.63500%	
三井住友信託銀行(グリーンローン)	900	2023/7/31	2028/7/31	5.0	固定	0.50100%	
三井住友信託銀行(グリーンローン)	600	2023/7/31	2031/7/31	8.0	固定	0.82900%	
日本政策投資銀行(グリーンローン)	2,000	2023/8/31	2029/8/31	6.0	固定	0.83750%	
日本政策投資銀行(グリーンローン)	2,000	2023/8/31	2030/2/28	6.5	固定	0.90689%	
合計		81,450					

■投資法人債の状況

種別	銘柄	残高 (百万円)	発行年月日	償還期限	期間 (年)	利率(年率)
投資法人債	第1回無担保投資法人債	2,000	2013/12/30	2023/12/29	10.0	1.32000%
	第2回無担保投資法人債	2,000	2017/7/31	2032/7/30	15.0	1.00000%
	第3回無担保投資法人債	1,000	2018/7/31	2038/7/30	20.0	1.20000%
合計		5,000				

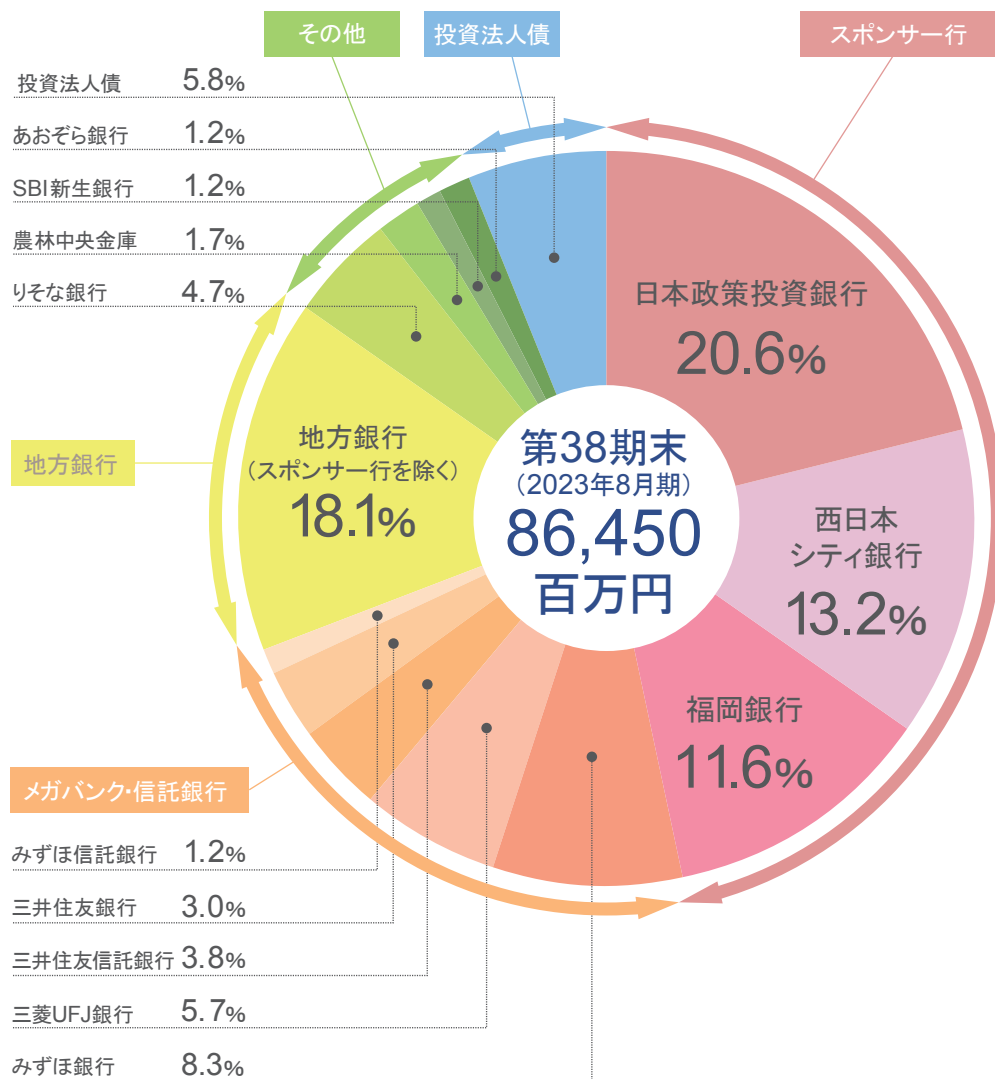
■コミットメントラインの設定状況

種別	借入先	借入限度額 (百万円)	コミットメント期間	
			開始日	終了日
コミットメントライン	コミットメントライン1(注9)	6,000	2018/8/1	2026/7/31
	コミットメントライン2(注10)	7,000	2020/3/2	2026/2/28
合計		13,000		

借入金金融機関

スポンサー行をはじめ安定した取引ネットワーク

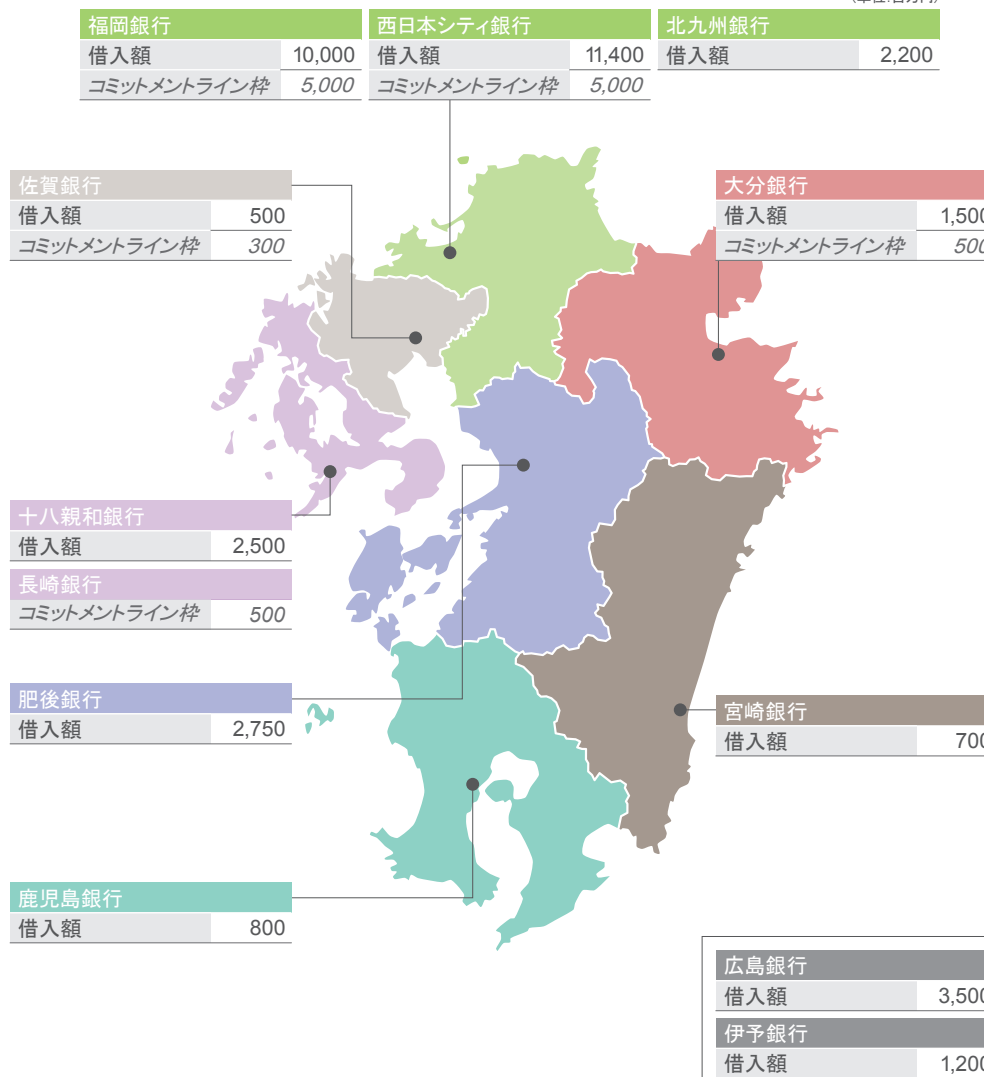
借入金金融機関の分布状況



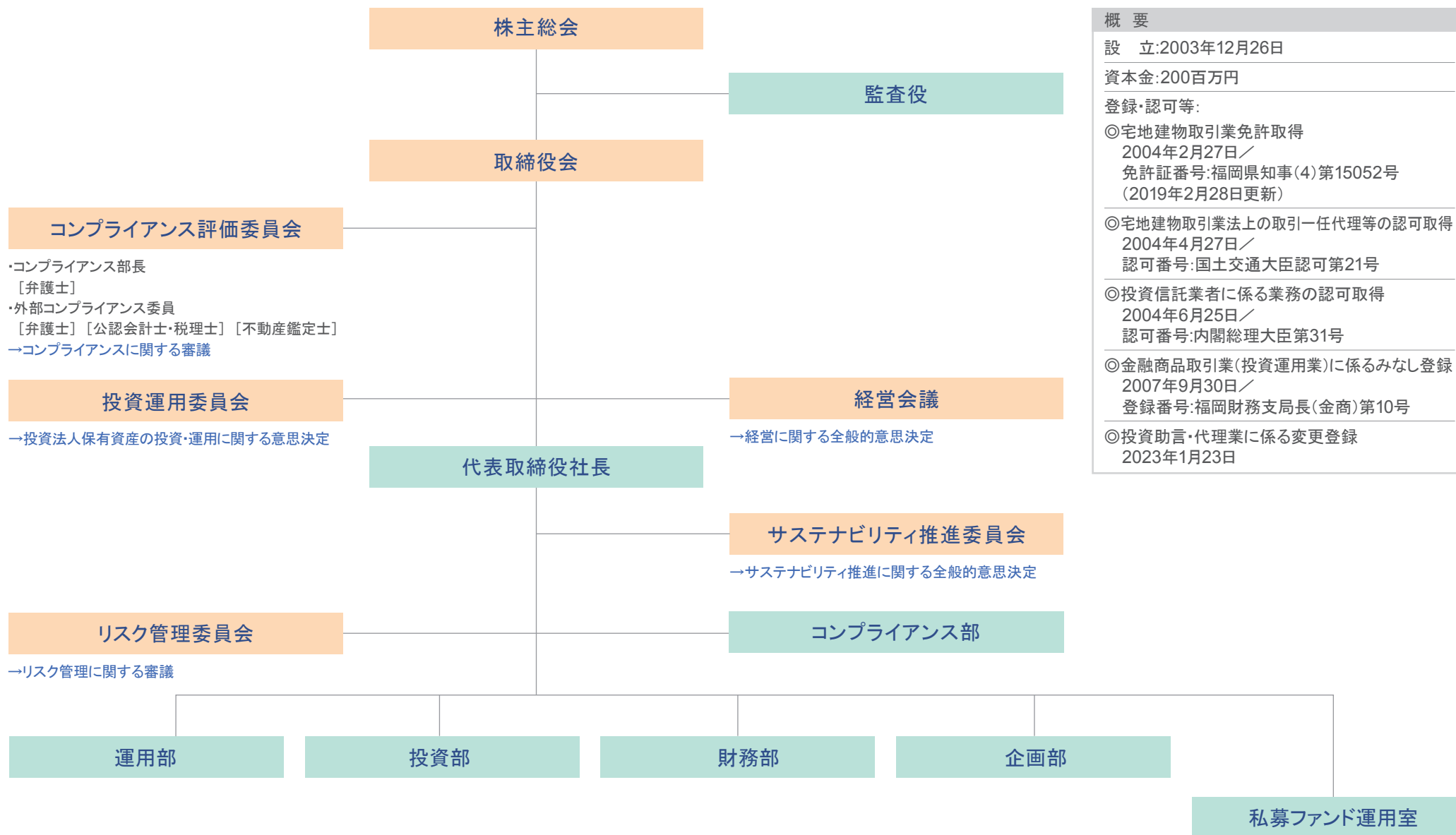
九州全域をカバーする地方銀行取引ネットワーク

◎地方銀行独自の情報ネットワークを、エリア投資戦略に活用

(単位:百万円)

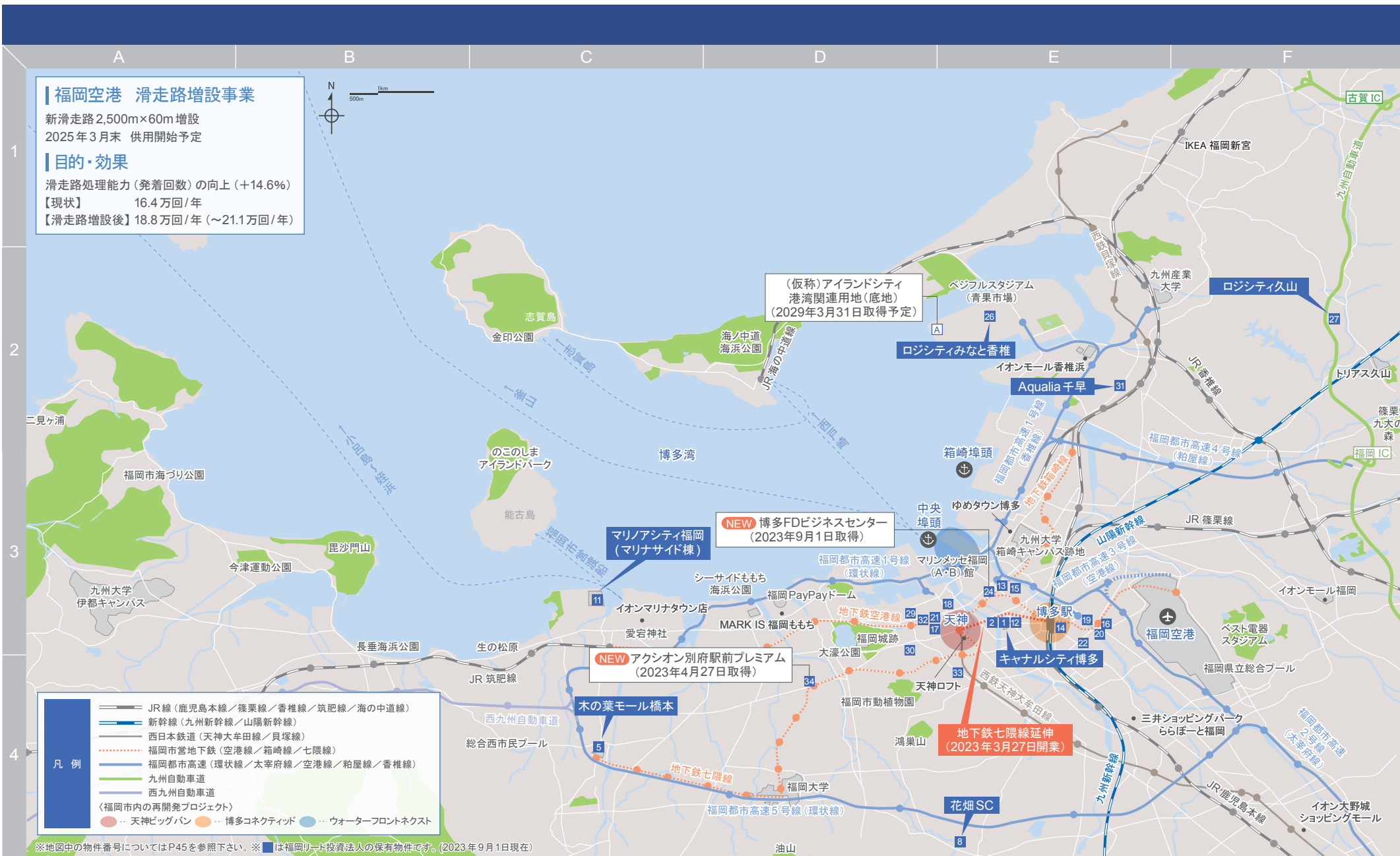


福岡リアルティ（資産運用会社）体制図



概要
設立:2003年12月26日
資本金:200百万円
登録・認可等:
◎宅地建物取引業免許取得 2004年2月27日/ 免許証番号:福岡県知事(4)第15052号 (2019年2月28日更新)
◎宅地建物取引業法上の取引一任代理等の認可取得 2004年4月27日/ 認可番号:国土交通大臣認可第21号
◎投資信託業者に係る業務の認可取得 2004年6月25日/ 認可番号:内閣総理大臣第31号
◎金融商品取引業(投資運用業)に係るみなし登録 2007年9月30日/ 登録番号:福岡財務支局長(金商)第10号
◎投資助言・代理業に係る変更登録 2023年1月23日

福岡市近郊の状況



天神エリアの再開発（天神ビッグバン）



(注1) 天神ビッグバン開始後の2015年2月～2022年5月、竣工棟数は2022年5月末時点（福岡市発表）。(注2) 福岡地所グループと他社との共有物件です。
 出典：福岡市及び福岡地所のプレスリリース、福岡市の天神ビッグバン紹介サイト（<https://www.city.fukuoka.lg.jp/jutaku-toshi/kaihatsu/shisei/20150226.html>）の内容を基に、福岡リアルティにて作成しています。

◎天神ビッグバンエリアにおける主な規制緩和（国家戦略特区）

- ① 航空法高さ制限の特例承認
 - 福岡市役所付近 約67m (15階)
 - 天神明治通り地区（渡辺通り中心より西側） 約115m (26階)
 - 天神明治通り地区（渡辺通り中心より東側） 約76m (17階)～約100m (22階)
 - 天神一丁目地区 約80m (18階)～約96m (21階)
- ② 容積率緩和制度（福岡市独自）
 - 天神一丁目南ブロック 800%→1,400% (最大)
 - 天神二丁目南ブロック（明治通り沿道） 700%→1,300% (最大)
 - 天神一丁目北ブロック（14番街区） 600%→1,250% (最大)
 - 天神一丁目地区北エリア 800%→1,400% (最大)

◎感染症対応シティへの取り組み

- 都心部エリア
 感染症対策等を新たな容積評価の対象として、都心部機能更新誘導方針に追加
- 容積率緩和最大 **50%**
- 天神ビッグバンエリア
 感染症対策を実施するビルの竣工期限を2026年12月31日まで延長

福岡中心部の状況

地下鉄七隈線延伸2023年3月27日開業



◎地下鉄七隈線延伸開業<櫛田神社前駅>(2023年3月27日撮影)



地上出入口



地下1階 改札口

◎七隈線延伸の概要

- ・延伸区間：天神南駅～博多駅
- ・建設キロ：約1.4km
- ・都心部内での移動：
 - 薬院駅 ↔ 博多駅 7分
 - 渡辺通駅 ↔ 博多駅 5分
- ・博多駅に直結し、天神での乗り換えが不要

出典：福岡市営地下鉄「令和4年度概要パンフレット」を基に、福岡リアルティにて作成しています。

※地図中の物件番号についてはP45を参照下さい。
 ※■は福岡リート投資法人の保有物件です。(2023年9月1日現在)
 ※■は福岡地所グループの保有物件です。(2023年9月1日現在)
 (注)福岡地所グループと他社との共有物件です。

博多エリアの再開発（博多コネクティッド）

博多駅の活力と賑わいをさらに周辺に繋げる取り組み（博多駅から半径約500m、約80ヘクタール）



(注1) 博多コネクティッド開始後の2019年1月～2022年5月（福岡市発表）。竣工棟数は、2022年8月に竣工した博多イーストテラスを含みます。（注2）福岡地所グループと他社との共有物件です。



博多コネクティッドボーナス

◎容積率緩和制度（都心部機能更新誘導方針）の拡大
つながり・広がり生まれる広場の創出など、賑わいの拡大に寄与するビルに対し、容積率を最大50%のインセンティブを付与

既存の容積率
緩和制度

+

新規インセンティブ
容積率最大 **50%**

- 高質・高付加価値なビル
 - テナント移転フロア提供
- ※博多駅周辺特有の課題解決（博多コネクティッド期間限定）

◎新たなプロジェクト（2022年2月28日決定）
「博多駅前三丁目地区」地区計画

- 回遊・広場空間を確保しにぎわい創出
- 緑化による憩いの場創出
- 市独自の容積率の緩和
- 北ゾーン800%→1,350%（最大）
- 南ゾーン600%→1,000%（最大）

スポンサーパイプライン（福岡地所グループ）

福岡地所株式会社の概要（2023年5月期）

社名	福岡地所株式会社
設立	1961年7月
業種	不動産業（総合デベロッパー）
代表者	代表取締役社長 榎本一郎
従業員数	176名

売上高	202億円
経常利益	58億円
当期純利益	104億円
総資産額	2,396億円
自己資本比率	37.1%

■天神ビジネスセンター



■（仮称）天神ビジネスセンター2期計画



■ロジシティみなと香椎ノース



■クラスけやき通り



※福岡地所提供のデータを基に、福岡リアルティにて作成しています。

福岡地所グループの主な保有物件

用途	No.	名称	竣工時期	延床面積
オフィスビル	1	福岡興銀ビル	1970年	15,160㎡
	2	福岡朝日ビル	1970年	44,762㎡
	3	博多駅前ビジネスセンター	1999年	23,542㎡
	4	那覇ビジネスセンター	2018年	8,994㎡
	5	天神ビジネスセンター	2021年	61,100㎡
	6	（仮称）住友生命福岡ビル・天神西通りビジネスセンター建替計画（注）	2025年5月（予定）	42,000㎡
	7	（仮称）天神ビジネスセンター2期計画	2026年6月（予定）	62,932㎡
商業施設	8	マリノアシティ福岡（アウトレット棟）	I棟2000年、II棟2004年、III棟2007年	46,663㎡
	9	天神きらめき通りビル	2003年	24,525㎡
	10	チャンネルシティ博多イーストビル（解体予定）	2011年	18,534㎡
住居	11	クラスけやき通り	2008年	6,500㎡
	12	（仮称）今川1丁目賃貸マンション	2024年7月（予定）	2,648㎡
ホテル	13	ホテルフォルツァ札幌駅前	2020年	11,344㎡
物流施設	14	ロジシティみなと香椎ノース	2020年	47,150㎡
	15	ロジシティ古賀	2023年3月	49,545㎡
	16	（仮称）ロジシティ小郡	2024年7月（予定）	28,364㎡
	17	須恵町植木物流計画（A・B区画）	未定	—
	18	基山町園部物流計画	未定	—
	19	アイランドシティ物流計画	2030年（予定）	—

※福岡地所グループの保有物件及び他社との共有物件等を含みます。
（注）2021年6月1日付で、本投資法人が底地を取得しました。